

657 昭和5年10月(8)日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津海關三日より再開の旨上海海關告示につ  
いて

上海 発  
本省 10月8日後着

第五三五號

往電公第六二九號ニ關シ

當地海關ハ十月六日附ヲ以テ天津海關ハ三日ヨリ再開セル  
ニ付同地向及同地ヨリノ貨物ニ對スル特別手續ヲ廢止スヘ  
キ旨告示セリ

北平、南京、天津、青島、關東廳へ轉電セリ

### 3 長沙事件

658 昭和5年7月(28)日 在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

共産党軍の長沙進撃に関する何鍵の内話によ  
り日本人婦女子避難につき長沙領事報告

漢口 発  
本省 7月28日後着

第二五四號(大至急)

長沙發本官宛電報

第七二號

往電第七一號ニ關シ

昨廿五日夜不取敢在留邦人ニ對シ警戒方ト避難準備ヲ命シ  
置キタルカ更ニ詳細ノ事情聽取ノ爲本官ハ廿六日何健ヲ往  
訪シタルニ何ハ極秘トシテ左ノ通内話セリ

一、當初平江方面ニ於ケル共産軍ノ勢力ヲ輕視シ之カ討伐  
ノ爲十九日部隊三團ヲ率ヒ第十五師長危宿鐘ヲシテ同方面  
ニ向ハシメタル處各地ニ分散シ居タル彭德懷、黃略公、賀  
龍等ノ共産軍ハ平江方面ニ集中聯合シ銃器約八千總勢約二

萬ノ大部隊トナリテ進撃シ來リ危宿鐘軍ト同地附近ニ於テ  
衝突シ兩軍トモ多大ノ損害ヲ受ケタルカ危宿鐘軍ハ大勢非  
ナルヲ悟リ當方面ニ退却シ來リ共産軍ノ主力ハ長沙ヲ距ル  
約百支里ノ高橋方面迄進出シ來レリ

二、依テ何健ハ差當リ一團ヲ治安維持ノ爲當地ニ止メ右危  
宿鐘ノ三團ヲ長沙附近ニ配置シテ防戦スルコトセリ一方  
急遽集中ヲ命セル寶慶方面ノ軍隊一團ハ既ニ湘潭ニ到着シ  
且廣西出動軍第十九師劉建緒部下李覺旅モ廿五日衡州ニ引  
揚ケ來リ其ノ先鋒部隊ハ既ニ株州附近ニ到着セルニ付廿六  
日夜ニ至ラハ之等部隊ハ當地ニ到着ノ豫定ニテ他方武岡方  
面ニアル第六師羅藩瀛ノ部隊モ當地ニ召集中ニ付茲二三日  
ヲ經ハ李、羅兩部隊全部到着スヘシ尙軍艦ノ派遣方ヲ申請  
セリ

三、目下ノ處當地ハ大丈夫ト思考セララルルモ第三國際  
(「インターナショナル」脱)ヨリ中國共産黨ニ對シ目下  
中國ノ動亂ニ乘シ之カ勢力ヲ擴大ノ命令アリ該聯合共産軍  
ハ八月一日ヲ期シ長沙ノ占領ヲ計畫シ居ル由ニモアリ萬一  
當地カ危機ニ瀕セハ豫メ直ニ通知スヘシ

四、尙省政府要人等ニ對シテハ人心ノ動搖ヲ防ク爲之ヲ極

秘ニ附セシメ居ルハ勿論婦女子ノ避難等ニ付テモ固リ戒メ居レリ云々

之ニ依リ之ヲ觀ルニ當地ハ甚タシク危機迫リタル次第ニハ非サルカ如キモ樂觀ヲ許サス英米側ニ於テモ婦女子ヲ避難セシムルコトトナリタルニ付艦長トモ協議ノ上邦人婦女子ハ水陸洲海軍俱樂部ニ避難セシメ貴重品ハ同所ニ運搬セシムルコトトセリ

上海ヨリ南京へ轉電アリタシ  
外務大臣、上海、北平、廣東、九江、南京へ轉電アリタシ

659 昭和5年7月28日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

湖南省政府秘書楊宣誠が何鍵の内命で共產黨軍が万一長沙占領の場合には在泊外國軍艦の同軍砲撃方申入れがあったとの長沙領事報告

漢口 7月28日後発  
本省 7月28日後着

第二五六號(大至急)  
長沙發本官宛電報第七四號ノ一

(三)省政府ノ引揚勸告ハ未タ送付無之處右ハ萬一ノ際我方ニ口實ヲ與ヘサル爲ノモノト思料セラルル處(一)ノ外國軍艦援助方ノ申出トモ照シ合セ當局ニ於テハ甚タ自信ナキ態度ナルカ其ノ後唐炳初及楊宣誠ヨリ廿七日朝前線督戰ニ赴キタル何健(健)宿鐘ハ午後二時歸來シ何ハ楊ニ對シ目下省城外ニ在ル兩軍間ニ戰鬪開始セラレ一部ヲ撃退セルモ更ニ當地東方約三十支里ヨリ(不明)共產軍ノ進撃ヲ見タルカ多分大丈夫ナルヘシト語リタル趣ニテ尙廿七日夜ハ最危険ナリト通知アリ一方各要人等ハ秘カニ家族ヲ避難セシメ居ル程ニテ市内ハ極度ノ恐慌ヲ來シ居レリ(四)右ノ狀況ニ鑑ミ本官ハ艦長ト協議ノ上邦人男子ニ對シ避難準備ヲ命シ又萬一水陸州危険トナリタル場合ニ處スル爲豫メ軍艦ニ見及日清曳船檣丸(大型船在泊セス荷物ハ鐵紵ニ格納)邦人ヲ避難セシムル様手配シ置ケリ(上海ヨリ南京へ轉電アリタシ)

大臣、上海、北平、廣東、南京、九江へ轉電アリタシ

660 昭和5年7月28日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

(一)廿六日夜省政府秘書楊宣誠ハ何健(健)ノ内命ヲ受ケテ本官ヲ來訪シ共產軍カ萬一長沙ヲ占領スルトキハ在泊外國軍艦ニ於テハ發砲シテ之カ討伐ニ援助アリタク事後外交問題ヲ惹起セシムルコトナキハ當方ニ於テ絕對ニ保障スル旨申述ヘタルニ付本官ハ楊ニ對シ右ハ艦長ノ權限ニアル處艦長トシテハ恐ラク我方ニ對シ何等危害ヲ加ヘサル限リ積極的ニ發砲スルカ如キコト之無カルヘシト體良ク應酬シ置キタルモ廿七日英國領事ノ本官ニ語ル所ニ依レハ楊ハ同日朝同領事ヲ往訪シ右ト同様ノ申入ヲ爲セルニ對シ同領事ハ本官ト略同様ノ態度ヲ執リタリトノコトナリ(二)更ニ廿七日楊ハ電話ヲ以テ萬一ノ際ニ於テ在留外人保護ノ責任上兵力ヲ割クコトハ當方作戰上不利ニ付英國領事ノ希望モアリ(英國宣教師ノ避難ヲ肯セサルモノアリ困却ノ結果ナリト云フ)省政府ヨリ各領事館ニ對シ正式ニ在留外人ノ安全地帶引揚勸告ノ通知ヲ送付スルニ付御含アリタク又廿七日夜ヨリ各外國軍艦ハ探照燈ヲ照サレ警戒セラレタシト申出アリタリ

長沙發本官宛電報  
第七四號ノ二

漢口 7月28日後発  
本省 7月28日後着

何健軍の形勢不利に鑑み領事館を軍艦二見に移したとの長沙領事報告

第二五七號(大至急)

長沙發本官宛電報

第七五號

其ノ後何健軍ノ形勢不利ニシテ漸次共產軍ハ省城外ニ迫リ廿七日午後八時直ニ邦人男子ニ對シテ水陸州海軍俱樂部ニ引揚方ヲ命シ午後十一時領事館ヲ軍艦ニ見ニ移セリ右不取敢(上海ヨリ南京へ轉電アリタシ)

大臣、上海、北平、廣東、南京、九江へ轉電アリタシ

661 昭和5年7月28日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

共產黨軍の長沙入城と在留日本人全員を艦船に収容したとの長沙領事報告

漢口 7月28日後発  
本省 7月29日前着

第二五二號(大至急)

長沙發本官宛電報

第七七號

昨廿七日夜來紅軍第五軍彰德懷第八軍黃公路ノ共產軍數千入城シ何健軍ハ湘潭益陽方面ニ退却セリ市内ハ無警察状態ニ陥リ廿八日朝ヨリ又復放火アリ市中ニハ既ニ?「ソビエツト」政府成立帝國ノ一切ノ財産ヲ沒收ス各大企業銀行交通機關ヲ沒收ス等ノ標語ヲ貼付シアリ一部日本商家ニモ掠奪行ハレタルヤノ情報アリ又賀龍軍ハ岳州ヲ占領シ湘江ノ交通ヲ斷絶セリト傳ヘラレ危急刻々迫リ且湘江減水シ下江困難トナル虞アルニ付海軍俱樂部ニ避難ノ邦人ハ全部(前電旅行者モ收容)軍艦及槍丸ニ移シ直ニ一時安全地帶迄下江スルコトトセリ

向外人側モ引揚下江シツツアリ

大臣、上海、北平、廣東、南京、九江へ轉電アリタシ

662 昭和5年7月29日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

共産党軍入城後の市内状況に関する長沙領事

在留邦人ハ全部槍丸ニテ午後二時軍艦保護ノ下ニ下江シ長沙ヲ距ル十哩ノ暫港ニ假泊漢口ヨリ到着ノ日清沉江丸ヲ止メテ同地ニ於テ暫時形勢ヲ觀望スヘシ  
大臣、上海、北平、廣東、南京、九江へ轉電アリタシ

663 昭和5年7月29日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理(公使宛)

華中・華南地方共産党等行動状況実地調査方

派員について

付記 高裁案

実地調査員派遣について

亜二機密第七三號

昭和五年七月二十九日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在中国

臨時代理公使 重光 葵殿

中南支地方共産黨及共産匪行動狀況實地調査ニ關スル件

從來江西、福建、湖南、湖北、廣東、廣西及安徽等各省僻

報告

漢口 発

本省 7月29日前着

第二六三號

長沙發本官宛電報

第七八號

往電第七七號ニ關シ

其ノ後續々大部隊ノ共產軍入城ト共ニ紅軍第五軍農工革命委員會主席彰德懷常務委員會鄧乾元、李燦、何長巧暴動委員會等ノ名儀ヲ以テ前電標語ノ外友邦露國トノ提携各官衛機關ノ破壞農工皆兵ノ解放閩錫山、蔣介石等ノ軍閥ノ打倒不平等條約ノ取消シ租界回收等ノ布告ヲ出シ市内各所ニテ演說ヲ行ヒ物價ノ極端ナル引下ケヲ強行スルト共ニ朝來引續キ主ナル官署其ノ他ノ燒拂ヒヲ斷行シ數個所ヨリ黑煙濛々トシテ天ニ冲スル様物凄ク民家ハ赤旗ヲ掲ケ普通商家ハ門戸ヲ開キタルモ通行人ハ勞働者風ノ者ノミニテ市内寂莫ヲ極ム  
尙何健ノ住宅ハ眞先キニ貧民ヲシテ掠奪ヲ行ハシメタリト言フ

陝地方ニ在リテ游擊行動ニ出テ掠奪、放火、虐殺ノ兇暴ヲ擅ニシ居リタル共産匪ハ南北戰乱ニ因ル地方警備ノ虚ニ乘シ最近大冶、城陵磯、岳州及沙市等ノ長江筋ニ進出シ都市ニ向ツテ行動スル情勢ヲ示スニ至レルカ此等共産匪部隊ハ相聯絡策應シアルモノトハ認メラレサルモ中國共産黨ニ指導セラレ又第三「インターナショナル」ノ指導及援助ヲ受ケ居ルヤノ疑ヒアリテ其ノ占領區域ニハ「ソヴィエト」政權ヲ建設シ共産政治ヲ行ヒ居レリト傳ヘラレ又中國共産黨ニ在リテハ巧ニ官憲ノ取締ヲ避ケ専ラ潜行的運動ニ依リ下層農民、労働者及青年學生ヲ牽入レ相當潛勢力ヲ加ヘツ、アル趣ノ處若シ右ノ如キ事實アリトスレハ我國トシテモ輕視スヘカラサル事態ナルヲ以テ此際其ノ事實ヲ明確ニシ之ニ對スル措置ヲ講スルヲ要スル次第ナルカ之ヲ力調査ヲ所在領事館ノ手ニ委スルハ領事館ノ人員其ノ他ノ關係ヨリ到底充分ヲ期スルヲ得サルニ依リ此際在支公使館員中ヨリ支那事情ニ通スル者一名ニ本省員中露國事情ニ通スル者一名ヲ配シ約二箇月ノ豫定ヲ以テ中南支ノ重ナル地方ニ出張セシメ所在領事館ト協力ノ上視察調査ヲ行ハシムルコト、シタルニ付貴館高等官中ヨリ一名御人選ノ上至急電報相成度此

段申進ス

追テ本省ヨリハ欧米局事務官好富正臣ヲ出張セシムル等ニ有之尙地方ノ治安又ハ交通關係上前記ノ出張者カ直接實地ニ調査シ得サル地方ニハ信頼シ得ヘキ支那人ヲ使用スルノ要アルヘク之カ為必要ニ應シ在支領事館ニテ雇傭スル巡捕通譯等ニシテ日本語ヲ能クシ且此ノ種ノ調査ニ役立チ得ル者ヲ傭入ル、コト、シ之ニ要スル給料及旅費ヲ支出シ尙若干ノ調査諜報費ヲ携帯セシムル等ニ付御承知相成度シ

(付記)

高裁案

中南支地方共產黨及共產匪

狀況實地調査方ニ關スル件

從來江西、福建、湖南、湖北、廣東、廣西、安徽等各省ノ僻陬地ニ在リテ游擊行動ニ出テ掠奪、放火、虐殺ノ兇暴ヲ擅ニシツツアリタル所謂共產匪ナルモノハ最近大冶、城陵磯及岳州等ノ長江筋ニ進出シ都市ニ向ツテ進撃スルノ姿勢ヲ示スニ至リタルカ之等共產匪各個ノ間ニハ未タ必スシモ連絡アリト謂フヲ得サルモ中國共產黨ニ指導セラレ直接間

ナルヘク之カ為必要ニ應シ在支領事館ニテ雇傭スル巡捕等ノ内日本語ヲ良クシ此種調査ニ役立チ得ル者ヲ帶同セシメ又調査諜報費トシテ約一千圓ノ高ヲ支出携帯セシムルコトト致シ度  
右仰高裁

664 昭和5年7月31日 幣原外務大臣より  
在中國各公館長宛(電報)

中國共產黨の全國總暴動計画の情報に鑑み

留民保護に遺漏なきよう訓令

本省 7月31日後4時発

合第三六六號 至急

長沙來電ニ依レハ賀龍一派ノ共產軍七月二十七日夜長沙ヲ占領シテ共產政府ヲ樹立シ官衙教會並外國人關係建築物ヲ燒拂ヒ掠奪ヲ恣ニシ我領事館モ燒失シタルモノ、如ク尙中國共產黨ハ八月一日ヲ期シ全國總暴動ヲ計画シツツアリトノ情報モアルニ付此等不逞分子ノ動靜ニツキテハ此際特ニ注意ヲ拂ヒ萬一ニ際シ居留民ノ保護ハ勿論萬般ノ措置ニツキ遺漏ナキヲ期セラレ度シ為念

接ニ第三「インターナショナル」ノ指導ヲ受ケツツアルコトハ疑無キカ如ク其ノ占領地域ニハ「ソヴィエト」式政府ヲ組織シ共產的施設ヲ為シツツアリト傳ヘラル

本省ニ於テハ豫テ在支主要公館ニ對シ夫々必要額ノ共產黨取締諜報費ヲ配付シ支那ニ於ケル共產運動ノ狀況報告ヲ徵シ居リ滿洲及北支地方ニ於テハ比較的好成績ヲ擧ケ居ルモノト認メラルルモ中南支地方ニ在リテハ諸般ノ關係上報告動モスレハ精確徹底ヲ缺キ事態ヲ明ニスル上ニ於テ遺憾ノ點尠カラス從テ右ノ如キ報道ハ果シテ何ノ程度迄事實ナリヤ不明ナルモ若シ事實トセハ我國トシテモ輕視スヘカラサル事態ナルヲ以テ此際其ノ真相ヲ究メ置クコト必要ナリ唯右調査ヲ所在領事館ノ手ニ委スルハ領事館ノ人員其ノ他ノ關係ヨリ到底充分ヲ期スルヲ得サルニ依リ此際在支公使館員中ヨリ支那事情ニ通スル者一名ヲ選定シ之ニ配スルニ本省員中(特ニ歐米局)露國事情ニ通スル者一名ヲ以テシ約二箇月ノ豫定ヲ以テ中南支ノ重ナル地方ニ出張セシメ所在領事館ト協力ノ上視察調査セシムルコトト致シ度尙ホ地方ノ治安又ハ交通關係上上記ノ人々ニテ直接實地ニ調査シ得サル地方ニ對シテハ信頼スヘキ支那人ヲ使用スルコト必要

電報先 (括弧内へハ上記公館ヨリ電報セシメラレ度)

- 間島
- 奉天(長春、哈爾濱、吉林、滿洲里、齊齊哈爾)
- 天津 北平(張家口)
- 濟南
- 青島
- 芝罘
- 福州
- 厦門
- 汕頭
- 漢口(沙市、宜昌、重慶、成都)
- 上海(九江、蕪湖、南京、蘇州、杭州)
- 廣東
- 雲南

665 昭和5年7月31日 幣原外務大臣より  
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

國民政府に対し長沙事件善後交渉を留保の上  
事態に關する同当局の深甚な注意喚起並び適

切な措置要求方訓令

本省 7月31日後5時26分発

第三一〇號 至急

共産土匪軍ノ長沙襲撃事件ニ関シテハ幸ヒ人命損傷ノ報ニ接セサルモ財産上ノ損害ニ至リテハ相当大ナルモノアルカ

コトトスヘキ処本件ノ仍テ来ル所並之カ影響ニ付テハ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ即チ長江一帯殊ニ九江蕪湖武漢地方及上游地方ニハ多数ノ我カ居留民アリテ諸種ノ事業ニ従事シ居ル処是等地方ニハ有力ナル土匪軍散在スト報セラルルニ當リ之ニ備フヘキ政府軍ハ極メテ手薄ナルカ如シ故ニ若シ此際國民政府ニ於テ速ニ應急ノ手段ヲ講セサルトキハ長沙占領ニ勢ヲ得タル各地土匪軍ハ更ニ漢口其他ニ進撃シ我カ居留民ノ生命財産ヲ脅シ又ハ租界ニ闖入スル等ノ事態ヲ惹起セサルヲ保シ難クテハ日支關係ノ紛糾ハ固ヨリ國際關係ノ将来凶リ知ルヘカラサルモノアルヘキニ就テハ貴官ハ至急國民政府当局ニ対シ今回ノ事件ニ対スル善後交渉ヲ留保セラルルト共ニ上記ノ事態ニ対スル同当局ノ深甚ノ注意ヲ喚起セラレ今後ノ対策ニ関スル彼等ノ具体的考量

六 中国政情関係

於テモ邦人保護ニ遺漏ナキ様特ニ注意ヲ拂ハレ度キ旨話シ置キタルカ其ノ際北岡武官ハ米内司令官ヨリノ電命ニ基キ陸戦隊指揮官ハ當地陸戦隊ヨリ二百四十名ヲ抜キ明八月一日未明出發浦風ニテ漢口ニ赴カシムル手筈ナリ尙右陸戦隊出發後ハ自然新聞紙等ニモ洩ルヘキモ出發前ニハ絕對ニ漏洩セサル様致度シト述ヘタルニ付本官ヨリ右ニ對シテハ漢口ニ於テ米内司令官ヨリ坂根總領事ニ協議濟ノ次第ナリヤト尋ネタルニ北岡武官ハ何等事情判明セサルモ然思フト答ヘタリ從テ本官ハ本件ハ事柄自體トシテハ漢口方面ノ狀況ニモ顧ミ已ムヲ得サルコトニテ右司令官ノ措置ノ内容ニハ自分モ異議アル譯ニハ非サルモ一旦撤兵セル漢口ニ再度出兵スルコトカ貴説ノ如ク日本新聞紙ヨリ更ニ支那新聞ニ轉報セラルルニ於テハ必スヤ支那側惡宣傳ノ材料ニ供セラレ過般水雷船隊來航ノ例モアリ種々面白カラサル影響ヲ招カスル虞アルニ付斯カル問題ハ特ニ慎重ニ取扱フノ要アリ又上海ノ陸戦隊ヲ引抜ケハソレダケ上海ニ於ケル我警備力ヲ減少スル譯ナルニ付此ノ種ノ措置ニ付テハ代理公使タリ且上海總領事タル自分ニ對シ豫メ御相談アルヘキ議ト思考ス右ハ從來海軍側ト良好ナル關係ニ鑑ミ一言スル旨申置キタ

ヲ問ヒ質サルルト共ニ至急適切ノ措置ヲ講セムコトヲ要求セラレ結果回電アリタシ  
奉天、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ  
南京、漢口、廣東、福州、九江、蕪湖、長沙、沙市、宜昌へ轉電アリタシ

(欄外記入)

西園寺公、牧野内大臣、海軍省へ送付済

666 昭和5年7月31日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

上海陸戦隊の漢口移動に關して予め重光に相談あつて然るべき旨北岡海軍武官に申し置き 上海 7月31日後発 本省 7月31日後着

公第七五五號(極秘) 至急

支那共産黨ハ八月一日ヲ期シ全國的暴動ヲ計畫シ居ルヤノ風説アルニ付卅一日北岡海軍武官ノ來館ヲ求メ陸戦隊側ニ

漢口、北平、天津、奉天、青島、南京へ轉電セリ

667 昭和5年7月31日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

兵力移動に關しては本省に於ても将来のため 海軍側と充分打合の要ある旨意見上申

上海 7月31日後発 本省 7月31日後着

公第七五六號(極秘)

往電公第七五五號ニ關シ

上海ニ派遣セラレタル陸戦隊ヲ司令官ノ一存ニテ支那ノ他ノ地方ニ隨時移動スヘキ權限アルモノナルヤ問題ナルカ外交上ノ機微ナル考量ヲ加フルヲ要スル此ノ種ノ兵力移動ニ付豫メ帝國代表者ニ相談セスシテ之ヲ行フカ如キハ甚々面白カラスト存ス右趣旨ハ既ニ北岡武官ニ對シ述ヘ置キタルモ本省ニ於テモ將來ノ爲海軍側ト充分打合セ置カルノ要アリト思考ス 尙此ノ種ノ問題ニ付法規上ノ的確ナル解釋本官心得迄御垂

示ヲ請フ

668 昭和5年7月31日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙引揚げ在留日本人の漢口到着並び我が長  
沙領事館の被害状況について

漢口 7月31日後発  
本省 7月31日後着

第二六八號

往電第二六六號ニ關シ

一、沅江丸本三十一日入港長沙在留邦人九十一名無事着、  
婦女子七十三、男子十八ニテ婦女子ハ右ニテ全部ナリ

(領事及館員ノ家族全部及ニ巡查一囑託ヲ含ム)

二、同船々長ノ談ニ依レハ同地在留外人ハ宣教師五名ヲ殘  
シ全部昨三十日入港ノ英國軍艦ニテ引揚ケ來レル筈

三、海軍側入電ニ依レハ三十日軍艦小鷹水陸州附近迄上江  
視察ノ結果領事館ハ本館ノミ廿九日午前九時放火ノ爲  
全燒事務所建物ハ無事水陸州側ハ建物ハ全部無事ナル  
モ相當掠奪ヲ受ケタル趣ナリ

(付記一)

長江方面警備ニ關シ海軍省當局トノ打合要領

昭和五年七月三十一日

長沙方面ノ形勢ニ鑑ミ長江各地居留民ノ保護方ニ付テハ第  
一遣外艦隊ニ於テ精々努力シ居ラルコトト信賴シ居ル次  
第ナルモ形勢ノ重大ナラムトスル徵候モ看取セラルコト  
ニモアリ同艦隊ニ於テ今回ノ事態ニ對シ何等特別ノ警備計  
畫ヲ立テ居ルヤヲ尋ネタル處同方面ノ警備一切ニ付テハ同  
艦隊司令官ノ權限ニ委セ居ル關係上海軍省トシテハ目下ノ  
處其ノ警備計畫ニ關シ報告ヲ求メ又ハ指圖ヲ為ス等ノ手配  
ニ出テ居ラサルモ同司令官ヨリノ電報ニ依レハ長沙ヲ占領  
シタル共產軍ハ漢口ニ向ッテ進撃ノ姿勢ヲ示シ居ルニ鑑ミ  
五月三十日午後七時南京在泊ノ驅逐艦浦風ニ對シ直チニ上  
海ニ下航特別陸戰隊中一三四名ヲ收容シテ至急漢口ニ廻航  
スヘキ旨発令シタル趣ナルニ付八月二日ニハ上海ヲ発航シ  
得ヘキ見込ナリ其ノ他若シ内地ヨリノ増勢必要ノ場合ニハ  
豫メ申請シ來ルコトトナリ居ルモ未タ其ノ事無キヲ以テ同  
艦隊トシテハ當面ノ警備上現在ノ勢力ニテ充分ナリトノ見  
込ニ依リ行動シ居ルモノナルヘシ尤モ海軍省トシテハ漢口

上海、北平、南京、長沙、九江、沙市、宜昌へ轉電セリ

669 昭和5年8月1日

幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

我が上海陸戰隊の漢口分遣に当り事前協議の  
有無につき回電方訓令

付記一 七月三十一日付  
「長江方面警備ニ關シ海軍省當局トノ打合  
要領」

要領

二 八月一日

「長江方面居留民保護ニ關スル海軍側ノ應  
急措置」

本省 8月1日後4時発

第五一號 極秘

亜細亜局長ヨリ

陸戰隊ノ貴地分遣ニ付テハ事前海軍側ヨリ貴官ニ協議アリ  
シヤ本官限りノ参考迄ニ為念回電アリタシ

ノ警備ニ付テハ最大ノ關心ヲ以テ形勢ヲ注視シ居ルコトニ  
モアリ今後共充分注意ヲ怠ラサル積リナリト語レリ  
依ッテ三浦ヨリ共產軍ニ關スル情報ニ依レハ同軍ハ湖北、  
江西方面ニモ進出セムトシ居ル氣配アリ殊ニ八月一日ヲ期  
シ全國的暴動ヲ計畫シツツアリトノ情報モアルニ鑑ミ九江、  
蕪湖等モ危険トナル虞レアリ若シ又漢口カ危険トナル場合  
ニハ上流方面居留民ノ保護ニ付テ一大支障ヲ來スコトトモ  
ナル次第ナルニ付是等ノ點ハ海軍側ニ於テモ充分考慮シ置  
カレ度遣外艦隊ヨリノ警備計畫ニ關スル報道モアラハ即刻  
通報ヲ煩ハシ度キ旨要望シ置キタルニ海軍省係官ハ總テ之  
レヲ承諾シ外務省ニ於テ海軍ニ對シ何等御注文モアラハ遠  
慮無ク申出テラレ度シト附言セリ

(付記二)

長江方面居留民保護ニ關スル帝國海軍ノ應急措置

一、共產軍ノ長沙占領後更ニ漢口侵襲ノ形勢アルニ鑑ミ七  
月三十日第一遣外艦隊司令官(目下漢口滯泊中)ハ南  
京在泊ノ驅逐艦浦風ニ對シ至急上海ニ下航シ同地駐屯  
ノ特別陸戰隊(約八〇〇名)ヨリ漢口派遣部隊一三四

名ヲ乗艦セシメ速ニ漢口ニ回航方命令シタルカ浦風ハ八月一日上海ヲ出發シ得ル見込ナリ

二、第一遣外艦隊ヨリハ増勢ニ關スル申請未タ無キモ佐世保ニハ第二十四驅逐隊（襄ニ長江方面ニ派遣セラレタル驅逐艦四隻）待機中ニシテ同隊ハ出動命令後（要スレハ陸戦隊ヲモ搭載シ）廿四時間内ニ出動シ得ヘク海軍省ヨリハ未タ指令シ居ラサルモ同鎮守府司令長官ヨリ内々準備ヲ命シタルモノノ如シ

（以上二項八月一日午前海軍省ニ就キ確ム）

三、第一遣外艦隊現在勢力次ノ如シ

|     |     |
|-----|-----|
| 巡洋艦 | 一隻  |
| 砲艦  | 一隻  |
| 驅逐艦 | 一隻  |
| 小砲艦 | 一隻  |
| 計   | 一四隻 |

編注 右は八月一日幣原外務大臣より牧野内大臣宛送付の書類中付属参考として添付したものである。

### 海軍側の状況視察並びに避難民の見聞等取調の上回電方訓令

本省 8月1日後9時43分発

#### 第五二號

長沙領事館及在留邦人被害ノ詳細ハ目下ノ状態ニテハ到底調査困難ノコトト思惟スルモ損害状況ノ大体ハ取急キ承知致度ニ付海軍側ノ状況視察並避難民ノ見聞談等ニ就キ一應御取調ノ上成ルヘク早目ニ回電アリ度尚外國側損害状況ニ付テモ同様ノ方法ニ依リ各國別ニ調査回電アリ度シ上海北平ニ轉電セリ 上海ヨリ南京ヘ轉電アリタシ

昭和5年8月1日

在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛（電報）

長沙事件に関する我が在中國公使宛訓令の趣旨英國側へ内報について

ロンドン 8月1日後発

本省 8月2日前着

#### 第二二四號

貴電合第三七二號ニ關シ

670 昭和5年8月1日

幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛（電報）  
在米國出淵大使宛

長沙事件に關し中國政府に深甚な注意喚起と適切な措置要求した旨任國政府に内報方訓令

本省 8月1日後4時51分発

合第三七二號

往電合第三六四号及合第三七〇号ニ関シ

不取敢別電令<sup>（電令）</sup>第三七一号ノ通國民政府ニ申入方在支重光代理公使ニ電訓シ置キタルニ就テハ右ノ趣適宜責任國政府當局ニ内報置相成度シ

（英宛ニハ「訓令トシテ佛伊独白ニ轉電アリタシ」ト附記ノコト）

編注 別電合第三七一号は本書第六六五文書を在英、米兩

國大使宛に送ったもの。

671 昭和5年8月1日

幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛（電報）

長沙領事館および在留日本人被害状況に關シ

堀ヲ「ウエルズレイ」次官ノ許ニ遣ハシ在支代理公使ニ對スル御訓令ノ趣旨ヲ内報セシメタル處同次官ハ右ニ關シ何等英國政府ノ共同措置ヲ希望セラルル次第ナリヤト問ヒ堀ヨリ單ニ内報ニ止マル旨ノ回答ヲ得タル後未タ外務大臣トモ相談ヲ經居ラサル爲全然自分ノ私見トシテ聞カレ度シト前提シタル上最近迄入手セル現地ヨリノ情報ニ依リ判斷スルニ英國側トシテハ漢口ニ於ケル英國ノ財産擁護ノ問題（人命ハ引揚ノ準備アリテ顧慮スルニ足ラス）ハ非常ニ急迫シ到底南京政府ニ對スル警告等ノ間接手段ニ依賴シ得サル事態ニシテ結局ハ先年上海ニ對シ執リタル如キ措置ヲ講スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキカト想像ス而シテ財産擁護ノ必要ニ基ク此ノ種ノ措置ヲ執ルコトニ付テハ勞働黨モ保守黨モ結局方針ハ一致スルモノト考フルカスル場合ニ日本ハ英國ト行動ヲ共ニスルコトヲ考慮セラルヘキヤト問ヒタルニ付堀ハ上海ニ對スル措置ト言ヘハ陸兵派遣ヲ想起スル處租界ヲ放棄セル英國ハ何レヲ根據地トシテ陸兵ヲ使用セラルルヤト反問セルニ次官ハ租界ハ失ヘルモ英國ノ財産ハ租界ノ内外ニ散在シ居ルニ付之カ保護ノ爲陸戦隊ヲ上陸セシムルハ困難ニアラスト言ヒテ陸兵派遣ニハ言及セス依テ

堀ハ日本トシテハ租界モアリ水兵ノ揚陸ハ臨機措置トシテ問題ハ簡單ナルヘキモ英國トノ共同動作等ノ問題ハ即座ニ意見ヲ述フヘキ何等ノ自由ヲ有セスト答ヘタルニ次官ハ英國トシテ右ノ如キ態度ヲ決スル場合ニ對スル日本政府ノ御意見ヲ聞クヲ得ハ非常ニ useful ナリト述ヘタルニ依リ堀ハ兎ニ角右ノ次第ハ報告スヘキ旨ヲ述ヘ最後ニ「ランプソ」ヨリ何等右次官ノ意見ト同様ナル建築アリタル次第ナリヤト尋ネタルニ同公使ヨリハ未タ何等意見ノ具申ナキモ現地ヨリノ電報ニ徴シ公使ヨリモ早晩意見電報シ來ルヲ俟チ居ル次第ナリト答ヘタル趣ナリ

佛、獨、伊、白へ轉電セリ

673 昭和5年8月(2)日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

上海陸戦隊の漢口向け出發並び長沙事件によ  
る米英側被害等について

上海 発 本省 8月2日 前着

公第七五九號(極秘)

民ニ多大ノ損害ヲ与ヘタルコトハ國民政府トシテ遺憾ニ堪ヘス深ク惋惜ノ意ヲ表スル所ニシテ本件ニ對スル責任ハ國民政府ニ於テ取ルヲ辞セス尚又共產軍ニ付テハ不日之ヲ鎮定スルノ成算アル次第ニ付安心アリ度旨ヲ述ヘ次イテ以下ハ同公使ノ私見ナルコトヲ前提シ日本新聞ノ報道ニ依ルニ今回ノ事件ハ畢竟南北對戰ノ結果地方治安維持充分ナラサルニ原因スルヲ以テ南北双方ニ對シ停戰勸告ヲ爲スコト可然トノ議政府ノ一部ニアル趣ナルモ右事実トセハ自分ハ少クトモ其ノ時機ニ非スト信スルモノニテ自分ノ南方ヨリ得居ル情報(陳儀ヨリノ隨時ノ電報ニ依ルト謂フ)ニ依ルニ反蔣軍ハ軍隊武器ニ多大ノ損害ヲ負ヘルモ之ヲ補充スル途無ク又軍費モ益々窮迫シツツアルニ反シ政府軍ハ是等ノ点ニ於テ反蔣軍程困難ノ狀況ニ在ラサルカ故ニ南京政府ニ於テハ時日ノ経過ト共ニ形勢ハ政府軍ニ有利ニ展回スルモノト信シ居ル模様ナルヲ以テ此際ノ停戰勸告ハ時機ニ非サルヘク又勸告スルモ禍根ヲ断ソコト到底不可能ナルヘキニ付暫クハ形勢ヲ勸望セラルルコト得策ト思考ス蓋シ強力ヲ用ヒサル勸告ハ何等效果無カルヘク又強力ヲ伴フ勸告ナラハ支那側ニ於テ一時屈服スルコトアルヘキモ禍根ヲ一掃スル

往電公第七五五號ニ關シ

當地陸戦隊ハ八月一日未明浦風ニ積載漢口へ出發セリ海軍側ト打合セ新聞報道ヲ止ムル事トシ惡宣傳ニ備置キタリ尙米國總領事館ノ情報ニ依レハ米國軍艦「パロス」カ長沙ニ於テ共產土匪ヨリ約百發ノ射撃ヲ受ケ乗組員六名輕傷ヲ負ヒタルハ事實ノ由又英國總領事ノ報道ニ依レハ長沙英國領事館ノ狀態ハ危險ノ爲充分近付ク能ハサルモ多少ノ掠奪アリタル様子ナルカ別ニ重大ナル變化ナキ見込ノ由又日本海軍側ノ情報ニ依レハ長沙日本領事館ノ燒失セルハ領事官舎ノミナル趣ナリ

漢口、北平、天津、青島、南京、奉天へ轉電セリ

674 昭和5年8月2日 幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)

長沙事件に關し駐日汪公使と會談について

本省 8月2日 後7時35分 發

公第三一一號(至急)

(關外記入) 一日汪公使本大臣ヲ來訪國民政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ今回長沙ニ於テ共產土匪軍ノ為日本領事館燒拂ハレ日本居留

コトヲ得ヘキモノニ非サルカ故ニ列國側武力ノ撤退ト共ニ内乱ハ再發シテ結局斯カル勸告モ無効ニ了ルヘシト述ヘタリ依リテ本大臣ハ國民政府カ本件ニ付遺憾ノ意ヲ表セラレ其ノ責任ヲ取ルト謂ハレタルハ寔ニ当然ノコトナリ本件ハ甚タ遺憾ノ出來事ナルモ既ニ發生セルコト故今トナリテハ之カ善後措置ヲ講スルノ外致方無シ只將來ノ問題トシテ國民政府ハ共產軍鎮定ニ付成算アリト謂ハルル処如何ナル手段ニ出テラルル心算ナリヤト訊シタルニ汪公使ハ答フル所ヲ知ラサリシヲ以テ本大臣ヨリ長江一帶ノ日本居留民ノ分布並各地ニ於ケル共產軍ノ脅威ノ狀況ヲ説明シ殊ニ漢口ニ於テハ長沙方面ノミナラス西北方面ヨリモ漢口ニ進攻セントスル模様アル処同地ニハ二千余ノ日本居留民在ル一方政府軍ノ警備ハ極メテ手薄ナル由ニ付重大ナル事態ノ發生モ懸念セラルル次第ニテ國民政府當局ノ不日鎮定ノ成算アリトノ言葉ノミニテハ安心出來ス從テ帝國政府ハ昨日不取敢國民政府ニ對シ右共匪猖獗ニ對スル具體的對策ヲ問訊スト共ニ至急適切ノ措置ヲ講スル様要求方重光代理公使ニ電訓シ置キタルニ付孰レ同政府ノ意圖ヲ承知シ得ルコトト思考スルカ尚一方漢口ニ軍艦増派方手配シ置キタリ由來支那側

長沙事件に関する我が在中國公使宛訓令の趣旨米國側へ内報について

ワシントン 8月2日後発  
本省 8月3日前着

第二五三號

貴電合第三七二號ニ關シ

二日堀内ヲシテ極東部長ニ面會シ在支代理公使宛御電訓ノ趣旨ヲ内報セシメ置キタルカ其ノ際同部長ハ堀内ノ問ニ對シ「ジョンソン」公使ハ三十日頃南京政府ニ對シ長沙ニ殘留セル二名ノ米國宣教師ノ所在ヲ至急取調ヘ之カ保護ニ對シ凡ユル處置ヲ講スル様要求スルト同時ニ今回ノ動亂ニ依リ米國人ノ既ニ蒙リ又ハ今後蒙ルコトアルヘキ生命財産上ノ損害ニ關シテハ一切ノ權利ヲ留保スルモノナル旨申入レタル趣ヲ語リ右ハ同公使ノ裁量ニ依リ爲シタル申入ニシテ在支米國文武官憲ハ支那動亂ニ處スル米國ノ方針力單ニ米國人ノ生命財産ノ保護ニ止マルコトヲ良ク承知シ居ルカ故ニ今回ノ事變ニ對シテハ今日迄ノ處政府ヨリ何等改メテ訓令ヲ發シ居ラサル旨説明シ尙數日來外國電報等ニハ米國側ハ長沙ニ於ケル「スタンダード、オイル」ノ財産ハ如何ナ

ニ於テハ軍艦派遣等ニ付種々非難ヲ加フルモ右ハ正規軍ヲ相手トスルモノニ非サルハ勿論所謂人道上共同ノ敵タル匪賊ニ對スル豫防ノ為ナルニ付誤解無キヲ希望ス又此際兩軍ニ對シ停戦ヲ勧告スヘシト云フカ如キコトハ全然政府ノ議ニ上リタルコト無シト述ヘタルニ汪公使ハ勿論私見ナルモ今回ノ軍艦派遣ノ如キハ畢竟政府軍ノ手薄ヲ補充シテ地方ノ治安維持ニ貢獻セラルル譯故別ニ反對スル理由モ無キモノト思考スト述ヘ居タリ  
奉天、北平、天津、濟南、青島、南京へ轉電セリ  
漢口、福州、広東へ轉電シ漢口ヲシテ長沙ニ轉報セシメラレタシ

(欄外記入)

写送付済

西園寺公、牧野内大臣

(八月上旬)

675 昭和5年8月2日

在米國出淵大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

ル犠牲ヲ拂フモ之ヲ保護スヘキ様在支官憲ニ訓令シタル旨ヲ傳ヘ居ルモ右ハ全然無根ノ風説ナル旨ヲ述ヘ又漢口ニ於ケル外人ノ保護ニ付テハ現在ノ外國側海軍力ニ依リ差當リ心配ナキモノト考ヘ居ル旨ヲ述ヘ居タル趣ナリ  
英ニ轉電シ英ヲシテ佛伊ニ轉電セシム

676 昭和5年8月2日

在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長が長沙事件につき遺憾の意を表示したのに対し長沙回復の方策等につき質した  
ことについて

上海 8月2日後発  
本省 8月3日前着

公第七六五號  
貴電公第三一〇號ニ關シ

八月二日日本官王正廷ヲ外交部ニ訪ヒ御訓令ノ趣旨ニ基キ長沙事件ノ重大ニシテ且憂慮スヘキ次第ヲ述ヘタルニ對シ王部長ハ支那側ニテハ通信ノ方法ナキ爲未タ事實判明セサルモ日本側ヨリ得タル情報ニテ本件ノ大要ヲ知りタル次第ニ

テ右消息ニシテ事實トセハ實ニ容易ナラサル次第ニテ日本國政府ニ對シ國民政府ノ名ニ於テ深く遺憾ノ意ヲ表ス右本國政府ニ傳達ヲ願ヒ度シ又本事件ニ依リ災害ヲ蒙リタル貴國國民ニ對シ深く同情ヲ表スル旨述ヘタルニ付本官ハ右外交部長ノ意思表示ハ早速本國政府ニ電報スヘシト告ケ次ニ本官ハ長沙回復ニ對スル國民政府ノ執リツツアル方法及其ノ見込ニ付問ヒタルニ王部長ハ國民政府トシテハ極力同地ノ回復ニ努メツツアルカ目下河水淺クシテ陳紹寬ノ率ユル軍艦ヲ同地ニ急派シ難キハ遺憾ナルモ何健<sup>(粵)</sup>ノ軍隊モ續々集結スヘキニ付不遠長沙ハ回復セラルヘシト述ヘタルニ付本官ハ長沙回復ノ上ハ我方領事モ直ニ同地ニ至ルコトトナルヘキカ其ノ際ハ外交部ヨリモ何人カヲ任命シ日本領事ト共同シテ被害ノ狀況ヲ調査セラレ後ニ至リテ調査ノ困難ヲ來ササル様致度ト述ヘタルニ王部長ハ右様取計フコトトスヘキ旨答ヘタリ

本官ハ更ニ進シテ長沙以外ノ漢口、九江方面等長江筋一帯ノ治安ニ付不安ノ情報アル爲懸念ニ堪エサル次第ナル處右ニ對シ國民政府側ノ執ラレツツアル措置如何ト問訊シタルニ對シ王ハ此ノ方面ニ對シテモ國民政府ハ充分警戒ヲ爲シ

ツツアリ江西ニテハ魯滌平ニ於テ軍ヲ集結シ省城及九江方面ノ防備ニ努メツツアレハ同地方ハ安全ナルヘシ(尤モ牯嶺ニ避暑中ノ外人ニ對シテ豫テヨリ警告ヲ發シ同地ヲ引揚クルコト然ルヘキ旨通告シ居レリ)トテ江ニ沿ヒタル土地ハ軍艦ニテ警備セシムルコト最モ有力ナリトテ支那軍艦ノ配置ヲ大體説明シ尙戰線ニ軍隊集結ノ結果後方手薄トナリタルハ事實ナルモ後方ノ攪亂ハ戰線ノ不利ニ勝ル困難ヲ伴フ次第ニ付軍部ニ於テハ充分警戒ノ手筈ヲ執リツツアルハ充分承知シ居ルモ今日直ニ右計畫ニ付詳細ニ説明ノ知識ヲ有セス要スルニ政府ニ於テハ特ニ後方ノ安全ヲ重要視シ居ル次第モアリ長江筋ニ於ケル日本人ノ保護ニ付テハ支那政府ニ於テ充分責任ヲ以テ之ニ當ルヘキニ付安心ヲ請フ旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ右ノ次第ヲ本國政府ニ電報シテ可ナリヤト問訊シタルニ王部長ハ直ニ之ヲ承諾セリ更ニ本官ハ爲念冒頭ノ英譯文ヲ王部長ニ示シ右ハ自分ニ對スル電訓ナルモ右ニテ日本政府ノ意嚮ハ御承知ノ通ナリト述ヘタルニ王部長ハ一讀ノ上具體的綱領ハ大體曩ニ説明セシ通ニテ夫以上詳細ノ點ハ自分ノ處ニテハ不明ナルモ右ニテ大體御承知願ヒ度旨述ヘ居リタリ

上海ヨリ派遣隊來着次ノ防備方針ヲ策定シ概ネ準備ヲ完整ス

漢口防備計画ハ從來共產軍我ニ對シ敵對行爲後我之ニ應戰セシモ(一)漢口ニ於テハ彼等近接発見ノ狀況ニ依リ(二)積極的ニ攻撃撃攘ス

- 一、聯合陸戰隊指揮官平戸艦長以下四百四十三名ヲ以テ我租界ヲ直接防禦ス
- 二、租界下流江岸ニ近キ道路鉄道等ヲ通過セントスル同軍ヲ浦風及砲艦ヲ派遣シ砲撃ス
- 三、我租界外居留民並ニ財産保護ノ爲必要期間左記ノ通り配備

旧英租界(堅田) 旧露租界(熱海) 佛租界(伏見)

昭和5年8月(3)日 在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

我が上海陸戰隊の漢口分遣に關し海軍側より何等事前協議を受けた事実なき旨亜細亞局長宛電報

漢口、九江、蕪湖、長沙、沙市、宜昌、奉天、北平、天津、濟南、青島、南京、廣東、福州へ轉電セリ

677 昭和5年8月2日 米内(光政)第一遣外艦隊司令官より 財部(彪)海軍大臣、谷口(尚真)軍令部長、鳥巢(玉樹)佐世保鎮守府司令長官宛(電報)

漢口方面における我が方居留民保護並び租界防備計画について

五、八、二、二二二〇 無線 安宅 著 一〇六

極秘 一遣司令官

大臣(佐鎮長官)

一遣機密第九十一番電(至急) 共產軍ノ當方面襲來ニ関シテハ流言其ノ真相ノ捕捉困難ナリ(一)當地支那官憲極メテ緊張シ対策ヲ講ジツツアリ然レドモ正規軍ハ想像以上無カニシテ全然頼ムニ足ラザルハ大治長沙等ノ例證スル所ナレバ漢口ノ我居留民保護並租界確保ハ一ニ我海軍兵力集中ヲ以テスル外無ク八月二日午後八時

漢口 本省 8月3日前着 発

第二八一號(至急、極秘)

亞細亞局長へ左ノ通

貴電御來示ノ陸戰隊ノ當地分遣ニ關シテハ大臣宛拙電第二七八號申進ノ通ノ次第ニテ海軍側ヨリ何等決定前ニ協議ヲ受ケタル事實無ク事態ノ推移ニ依リテ突嗟ノ間ニ實行ヲ見タルモノナルノミナラス本官ノ觀測ト海軍側ノ電報並ニ海軍側ヨリ情報ノ供給ヲ受ケ居ル二三新聞通信トハ若干ノ懸隔アルコト又大體大臣宛往電第二七二號内申ノ通ナルモ既ニ司令官ニ於テ其ノ責任ヲ以テ發令濟ノ旨言明ノ上ハ本官ヨリ其ノ職權ニ立入り抗議等ヲ試ムルモ危急ノ場合特ニ聯絡ニ努メ居ル際却テ一般警備隊ノ手配ニモ惡影響ヲ及ホス虞アリ依テ已ムヲ得サルトキハ或ハ在泊軍艦ヨリ一時上陸セシメタル水(兵)トシテ取扱フコトトシ以テ本件ニ關シ支那側トノ間ニ問題ヲ惹起セシメサル様折角措辨スルノ外無シト認メタル儀ニ付其ノ邊ノ事情御諒承ヲ請フ

679 昭和5年8月3日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

我が方初め各国領事館等の被害状況に関する  
長沙領事報告

漢口 8月3日後発

本省 8月4日前着

第二八五號(至急)

長沙發本官宛電報

第八四號

(一)我方ノ被害ハ既報ノ外領事館外ノ館員宿舍モ掠奪セラレ  
テ一切空ニ歸シ海軍俱樂部モ亦多少ノ被害アルモノノ如  
ク大體無事ナルハ目下ノ處日清(倉庫一棟ハ掠奪セラレ  
タル疑アリ)中島洋行外一二ニ過キサカカ如シ  
(二)外國汽船會社ノ倉庫ニハ手ヲ附ケサリシ處卅日ニ至リ怡  
和洋行ノ倉庫掠奪セラレ「ハルク」燒拂ハル英國領事館  
ハ掠奪ヲ免レ居レリ

(三)市内目抜ノ場所八角亭ノ大店舗ハ概ネ掠奪セラレ金持約  
三百名ハ拉致セラレ三四十名ハ殺害セラレタリ

(四)廿九日夜黒殺隊(暗夜殺人團)二三百名入市セリ目下市

艦に対し銃撃、これに対し各軍艦の反撃に  
応じ

漢口 8月3日後発

本省 8月3日後着

第二八六號(至急)

長沙發本官宛電報

第八五號

三汊硯ニハ我二見、小鷹ノ外英(Theal)米(Pals)伊  
(Ermanno Carlati)ノ軍艦三隻假泊中ノ處更ニ卅一日午  
一后支那軍艦勇勝入港セリ二見、小鷹ハ卅一日午前港内視察  
ノ後我領事館沖ニ假泊中午后五時過三汊硯ニ於ケル避難民  
ヨリノ通信聯絡ノ爲上江中ノ小蒸氣船江南九ニ對シ我領事  
館下コウガ附近ニ於ケル共產軍ヨリ機銃ニテ射撃シタルニ  
依リ兩艦ハ直ニ之ニ反撃ヲ加ヘタル處同軍ハ更ニ頑強ニ兩  
艦ニ射撃シタルヲ以テ之ニ應シ二見ハ大砲五發機銃約千三  
百發小鷹モ略同數ノ機銃ヲ發射セリ  
右ノ際二見ニ彈丸六小鷹ニ一江南丸ニ一發命中セリ折柄伊  
國軍艦ハ右ノ個所ヲ上江セルニ共產軍ハ同艦ニモ射撃シタ  
ルヲ以テ同艦ハ大砲七發ヲ放チ機銃ヲ猛射セリ

六 中国政情関係

外ニ約二千ノ共產軍アル處市内ニハ二三百名ニ過キス共  
匪等ハ平江ニ「ソビエツト」政府アルニ付近く同地ニ引  
揚クヘント語り又瀏陽、平江會同ニ彈藥其ノ他ヲ運搬中  
ナレハ當地ヲ引揚クルニアラスヤト云フ者アリ  
何健軍ハ益陽、湘潭ニ集中シ兩方面ヨリ長沙奪回ヲ策シ  
居ルモノノ如ク危宿鐘ノ第十五師及陶廣ノ新編第三十一  
師ハ益陽ヨリ進出シ其ノ先鋒部隊四五百名ハ既ニ岳麓附  
近ニ現ハレ劉建緒ノ第十九師ハ湘潭ヨリ進撃シ易家灣方  
面ニ於テ共產軍ト交戦シ其ノ先鋒部隊ハ既ニ長沙間近ニ  
迫リ兩軍協力長沙奪回ノ舉ニ出ツヘク何健ハ目下常德ニ  
在リト傳ヘラル

以上ハ二見ノ市内視察ノ結果並ニ英國領事ノ談當館使用支  
那人及諜報者ノ報告等ヲ綜合シタル處ニ依ル(本電ハ八月  
三日午前九時接到ニ付爲念)

大臣、上海、南京、北平へ轉電アリタシ

680 昭和5年8月3日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

共産党軍が我が軍艦二見、小鷹、及び伊、米

又同日午前米艦ハ港内ニ侵入視察ノ際江岸ノ共產軍ヨリ射  
撃ヲ受ケタルヲ以テ大砲六十發ヲ放テリ支那側ノ死傷者百  
餘名ニ達シ同艦ニモ機銃彈六十發命中水兵重傷一名擦過傷  
十名ヲ出セリ

右ハ本官ノ目撃セル處及米國艦長ノ談ニ依ル(本電ハ八月  
三日午前接到ニ付爲念)

681 昭和5年8月4日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙の奪回作戦に伴ない各軍艦の攻撃援助  
方申入れに関する何鍵の副官長談話につき長  
沙領事報告

漢口 8月4日前発

本省 8月4日後着

第二九二號

長沙發本官宛電報

第八九號

往電第八四號ニ關シ

最近戦況左ノ通

二日何健ノ副官長談話要領

十六師三十一師及戴斗恒ノ部隊ハ二日益陽ヨリ岳麓ニ到着シ十九師十五師及十六師ノ一部隊ハ湘潭ヨリ進撃中ニテ一方羅霖氏ハ汨羅ニ又王東原旅ハ湘蔭ニ夫々侵入シ孰レモ一兩日中ニハ長沙奪回ノ舉ニ出ツヘキ計畫ナルカ何健モ一日益陽ヨリ寧郷ニ到着セル趣ナリ

同日午后軍艦威寧ニテ溯航シ來レル何健軍ノ一部隊ハ水陸州ニ現ハレ軍艦掩護ノ下ニ盛ニ攻撃セル處共產軍ハ頑強ニ應戦セリ

何健ノ一參謀ハ三日各國艦長ヲ訪問シ何健軍ハ同日紡績工場上手ヨリ強行渡河ヲ決行スヘキニ付世界ノ公敵タル共匪驅逐ニ何分ノ御援助ヲ請フ旨ノ信賴狀ヲ提出ノ上何ハ三日朝岳麓ニ到着シ諸軍ノ配置ヲ了シタル後總攻撃ヲ開始スヘキ手筈ナル旨述ヘタリ目下兩軍ハ河ヲ挾ンテ對峙中ナルカ何健軍ハ三日夜ニハ愈攻撃ヲ開始スヘキ見込ナリ尚殘留男子ハ右ノ結果ヲ見タル上漢口ヘ引揚ケシムヘキヤ否ヤヲ決スヘシ(三日午后)

大臣、上海、南京、北平へ轉電アリタシ

丈ケハ萬一ノ場合如何ナル方法ニ依ルトシテモ其ノ交通ヲ確保スルコト絶對必要ナルヘシト述ヘタルニ之ハ一同異議ナク贊成セリ次ニ佛國其ノ他一、二ノ領事ハ既ニ告示ヲ以テ避難場所等ヲ公ニシ居リ之等ニ關シ共同信號ノ研究何等提案ヲ見タルモ多數ノ贊同ヲ得ス本官ハ日本居留民ハ他國民ト異リ當地ニ於テ既ニ數回苦キ經驗ヲ嘗メ其ノ記憶新ナル爲今右様表立チタル措置ニ出ツル時ハ徒ニ不安ノ念ヲ深クシ却テ統制上ノ困難ヲ生スル事情アリ各自萬一ノ場合ニ處スル常識的ノ用意ハ別トシ租界外居住ノ者ト雖モ本官ニ於テ適時ノ布告ヲナス迄充分自重スヘキヲ勸メ居ル位ニテ萬事ハ警察ト海軍トニテ内密各般ノ對策ヲ講シ居ル次第ナリト説明シ轉シテ本官ハ領事團側ヨリ適當ノ形式ニテ行營ノ注意ヲ喚起シ一層武漢警備ヲ充實セシムルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ右ハ却テ各國陸戰隊ニ對スル議論ヲ生スル惧アリト懸念スル向モアリタルモ結局獨逸總領事ニ於テ目下病氣引籠中ノ何應欽ヲ往訪シ其ノ注意ヲ促スコトトナリ尙米國總領事代理ノ質問ニテ本會議ノ内容ハ凡テ非公式トシ且秘密ニ附スヘキコトヲ申合セ散會セリ右御參考迄

682 昭和5年8月4日 在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

領事団會議において長沙事件に関する各人被害情報の交換並び武漢防衛に関し協議について

漢口 8月4日後発 本省 8月5日前着

第二九五號

目下米國總領事ノ休暇不在中臨時ニ當地ノ首席領事タル獨逸總領事ノ提唱ニテ本四日午前時局ニ關スル領事會議ヲ開ク(獨ノ外日英米佛伊白名譽領事ハ含マス)劈頭最近ノ情報ヲ交換ノ際本官ヨリ今回長沙ニ於ケル各人被害ニ關スル情報ハ相互ニ書面ニテ通報シ合フコトヲ提議シ一同ノ承諾ヲ得タル後武漢防衛ノ件ニ移リタルカ租界ノ警備困難ナル割合ニ海軍力薄弱ナル佛國領事ヨリ外國人居住地域(主トシテ日佛租界及各國舊租界)全體ニ對スル各國海軍ノ共同動作ヲ領事團トシテ首席司令官ヘ勸告シテハ如何トノ提議出テタルモ日英米何レモ豫メ自國海軍側ヲ拘束スルヲ躊躇シ議纏ラス本官ハ豫テ我海軍側トノ打合ノ趣旨モアリタルニ付此ノ際舊英租界ヨリ日本租界ニ至ル一帯ノ「バンド」

683 昭和5年8月5日 在本邦テイリイ英國大使より 幣原外務大臣宛(書簡)

現下中国の事態に鑑み漢口方面における兵力使用に關し日英協調方申入れについて

British Embassy.

Tokyo.

No. 154. August 5, 1930.

Your Excellency,

I have the honour to inform Your Excellency that His Majesty's Government view with apprehension the present situation in China, and consider that there appears to be a serious danger that Hankow may be captured by the Communists, in which case not only is the destruction of all foreign property probable, but also the lives of foreigners would be endangered.

2. In view of this situation, His Majesty's Government propose, should the Nationalist Government of China be unable to afford adequate protection, to utilize British troops from Shanghai, in addition to Naval

landing parties, for the purpose of providing the necessary protection.

3. In communicating the above to Your Excellency, I have been instructed to enquire whether the co-operation of the Imperial Government can be relied upon in the action which it is necessary to take, in view of the common interests which are now at stake.

4. His Majesty's Government earnestly hope that this co-operation may be found possible.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(For His Majesty's Ambassador)

Thomas M. Snow.

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara.

H. I. J. M. Minister for

Foreign Affairs.

(右訳文)

第一五四號

以書翰啓上致候陳者英國政府ハ支那ニ於ケル現下ノ情勢ヲ憂慮スルト共ニ漢口カ共產軍ニ依リ奪取セラルル重大ナル危險アリテ獨リ外人ノ財産破壊セラルヘキノミナラス其ノ生命亦危險ニ瀕スル場合可有之ト思考致候

此ノ事態ニ鑑ミ英國政府ハ支那國民政府ニ於テ適當ナル保護ヲ加ヘ得サル如キ場合ニハ必要ナル保護ヲ與フル爲海軍陸戰隊ノ外上海ヨリノ英國陸兵ヲ使用セムトスル意向ヲ有スルモノニ有之候

就テハ右ノ次第閣下ニ通報スルト共ニ本使ハ今ヤ兩國共通ノ利益カ脅威セラルルコトアルヘキニ顧ミ之カ爲取ルコトヲ必要トスル行動ニ付日本政府ノ協力ヲ期待シ得ヘキヤ間合方訓令ニ接シ候

尙英國政府ハ本件協力カ可能ナラムコトヲ衷心希望スルモノニ有之候

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年八月五日

英國大使ニ代リテ

トマス、エム、スノウ(署名)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎閣下

(欄外記入)

昭和五年八月五日英國大使館「スノウ」参事官より吉田次官

へ手交

684 昭和5年8月5日

幣原外務大臣より  
在英國松平大使  
在米國出淵大使 宛(電報)

長江方面における警備艦配置現況について

本省 8月5日後7時16分発

合第三八四號

目下揚子江方面ノ警備ニ當リ居ル我カ第一遣外艦隊ハ巡洋艦一隻砲艦十一隻驅逐艦河用小砲艦各一隻合計十四隻ニシテ上海ニハ特別陸戰隊八百名アリ中百三十四名ハ今回ノ事件ニ付八月一日漢口ニ分遣セラレタルカ更ラニ第廿四驅逐隊(櫻、桃、柳、檜)ハ第一遣外艦隊ニ編入セラレ八月五日佐世保發上海ニ向ヘリ八月四日現在各艦艇ノ配置左ノ如シ

六 中国政情関係

上海 嵯峨、鳥羽

ト附記ノコト)

使及聯盟事務局ニ暗送アリタシ」ト附記ノ」

(米宛ニハ「紐育、シカゴ、桑港、羅府ニ暗送アリタシ」

漢口ニ向ケ航行中 伏見

(英宛ニハ「佛、伊、独、白、露ニ轉電シ其他在歐各大公

長沙(靖港) 二見、小鷹

宜昌 比良

重慶 保津

南京 勢多

九江 隅田

漢口 旗艦安宅、平戸、堅田、熱海、浦風

685 昭和5年8月5日

在仏國芳沢(謙吉)大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件に関する我が在中國公使宛訓令の趣

旨仏國側へ内報について

パリ 8月5日後発

本省 8月6日前着

第二一〇號

貴電合第三七一號ノ趣河合ヲシテ亞細亞局長ニ内報セシメタル處同局長ハ共產土匪ハ隨分亂暴ヲ働クヤモ知レス佛國政府ハ在支公使ノ稟請ニ依リ軍艦二艘ヲ派スルコトトシタルカ必要アラハ上海東京ヨリ陸兵ヲ派遣シ漢口佛租界ヲ防衛スル積リナリト語り尙英國ヨリ英發第二二四號ト略々同趣旨ノ申入アリタルカ之ニ對シテハ未タ正式ニ回答セサルモ多分佛國ハ前陳通り漢口佛租界ヲ防衛スヘシトノ趣旨ニテ回答スルコトトナルヘシト述ヘタル後惟フニ英國トシテハ漢口ニ於ケル舊英租界ニ兵員ヲ上陸セシムル外ナカルヘキカ租界防衛上必要アラハ出先軍憲力英國側ト聯絡ヲ取ルコトハ差支ナシト考フル旨附言シタル由ナリ

英、獨、白、伊へ轉電セリ

686 昭和5年8月6日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

漢口方面における警備に協調行動を英國外務  
次官に申し出方訓令

第一五七號 至急 本省 8月6日前11時16分發

687 昭和5年8月(6)日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛(電報)

英國は漢口の事態に鑑み派兵を敢て辞さざる  
方針にて目下關係國と交渉手配中等について

北平 發 本省 8月6日後着  
第五八〇號

五日「エプリング」ノ館員ニ對スル談話要領何等御參考迄一、英國政府ハ漢口ノ事態ニ鑑ミ先ツ支那側ニ對シ共匪ノ危險防止ニ付如何ナル具體的對策ヲ有スルヤヲ確メタル上必要ノ場合ニハ陸戰隊又ハ陸兵ヲ上陸セシムルコトモ敢テ辭セサル精神ニテ目下右方針ニテ協調方日米佛等ノ關係國ニ交渉手配中ナリ

二、時局ノ重心ハ津浦線ニ移リタルカ如ク或ハ濟南方再ヒ南京ノ手ニ陥ルコトアリ得ヘキモ右ハ「モーター、エフエクト」以外ニハ北方側ニ對シテ打擊ヲ與フルモノニアラサルヘク斯クシテ戰爭ハ勢ヒ長引クヲ免レサルカ南京側ノ財政狀態ハ北方ト同様ニ極度ニ窮乏シ居ル上共匪ノ跳梁盛トナリ旁其ノ前途樂觀ヲ許サス云々

貴電第二二四号ニ関シ

「ウエルズレイ」ニ於テ我方ト行動ヲ共ニセシコトヲ求ムルハ差当リ漢口方面ニ於ケル事態ノ急迫ニ顧ミ自衛措置ヲ講センコトヲ欲シ我方ニ於テモ同様ノ措置ニ出テシコトヲ希望スルモノト認メラルル処此ノ点ニ付テハ我方トシテハ往電合第三八四号ノ通既ニ艦艇及陸戰隊ヲ漢口ニ派遣シ自衛措置ヲ講シ居ル次第ナルカ右措置ハ全ク共產土匪軍襲撃ノ惧レ切迫セルニ當リ支那官憲ノ力頼ムニ足ラサルニ基クモノナルヲ以テ我海軍トシテハ其ノ当然ノ任務トシテ先ツ我居留民ノ生命財産ノ保護並ニ租界ノ確保ヲ期スル次第ナルカ其ノ保護セムトスル利益ハ列國共通ノ性質ヲ有スルモノアルニ顧ミ全地ニ於ケル事情ノ許ス限リ列國殊ニ英國側ト協調シテ行動スル様我當該官憲宛訓令スヘキニ付具體的ノ連絡方法ニ付テハ出先官憲間ニ充分打合ヲ遂ケシムルコトト致度吉同次官ニ挨拶セラレタシ

佛伊独白ニ轉電アリタシ貴電第二二四号ト共ニ米ニ轉電アリタシ

上海、南京、漢口、長沙、廣東、濟南、青島、福州、天津、奉天ニ轉電セリ

688 昭和5年8月7日 幣原外務大臣より  
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

特別陸戰隊の漢口移動に關しては今後事前協  
議方海軍省に申入れ置くことについて

公第三二〇號 極秘 本省 8月7日後7時20分發  
貴電公第七五五號ニ關シ

法規上ノ解釈ハ別トスルモ本件陸戰隊ノ移動ハ貴見ノ通り外交上ノ考量ヲ必要トスル問題ナレハ事前ニ貴官又ハ在漢口總領事ニ協議アルヘキハ當然ト思考セラル尤モ貴地特別陸戰隊ノ撤退若ハ減少ノ話ハ是レ迄海軍側ヨリ一度ナラズ出テタルコトアルモ將來漢口方面ヘ分遣ノ必要起ルコトアルヘキヲ慮リ本省ニテハ當分存續ヲ希望シ来リタル行懸アルノミナラス今回ノ長沙事件ニ關聯シ漢口方面ノ居留民保護ニツキ特ニ遺憾無キ様手配方本省ヨリ海軍側ニ希望シタル次第モ有リ旁々海軍側ニ於テハ陸戰隊ノ漢口移動ニツキ

テハ既ニ外務省側ノ同意ヲ得居リタル位ニ考ヘ何等悪意ナク臨機措置シタルモノトモ考ヘラルル處既ニ貴官ヨリ海軍武官ヲ通シ一應注意セラレタル次第ニモアリ此際ハ此ノ程度ニ留メ置クコトト致度尤モ今後ノ行違ヲ生セサル様適當ノ機會ニ本省ヨリ海軍省ニ然ルヘク申入レ置クヘシ  
貴電ト共ニ漢口ニ轉電アリタシ

689 昭和5年8月7日 在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

何鍵の双方代表者による実地立ち会い調査を行なうとの意向につき長沙領事報告

漢口 8月7日後発  
本省 8月8日前着

第三〇九號

長沙發本官宛電報

第九四號

大臣へ左ノ通電報アリタシ

六日午后何健入城シタルニ付本官ハ何ヲ訪問我領事館始メ在留邦人被害狀況ヲ述ヘタル後(一)本件ノ善後交渉ハ後日ニ

亦危険ニ瀕スル場合アルヘシト思考シ支那政府ニシテ適當ノ保護ヲ加ヘ得サル如キ場合ニハ必要ノ保護ヲ与フル為海軍陸戰隊ノ外上海ヨリノ英国陸兵ヲ使用スル意向ヲ有シ居ル処右本大臣ニ通報スルト共ニ今ヤ兩國共通ノ利益力脅威セララルコトアルヘキニ顧ミ之力為メ取ルコトヲ必要トスル行動ニ付日本政府ノ協力ヲ期待シ得ヘキヤ問合方訓令越シタルカ尚英國政府ハ本件協力カ可能ナラムコトヲ衷心希望シ居レル旨申越アリタルヲ以テ本八日附本大臣公文ヲ以テ右漢口方面ノ情勢ハ帝國政府ニ於テモ夙ニ憂慮セル所ニシテ從テ往電合第三七一號(在支公使宛公第三一〇號)ノ通國民政府ニ申入ルト共ニ事態ノ切迫ニ顧ミ應急的自衛措置トシテ漢口方面ニ対スル軍艦ノ移動並陸戰隊ノ配置ヲ行ヒタル結果目下漢口ニ於テハ必要ニ應シ約四百五十名迄ノ陸戰隊ヲ揚陸シ得ヘキ處帝國政府ハ目下ノ情勢ニテハ右軍艦移動及陸戰隊配置ヲ以テ日本居留民ノ生命財産並日本租界ヲ防衛スルニ足ルモノト期待スルト同時ニ目下脅威ヲ受ケツツアル利益カ列國共通ノモノナルニ顧ミ之力擁護ノ措置ニ付テハ列國殊ニ日英ノ間ニ出来ル限り協調スルノ望マシキコトニ付英國政府ト全然所見ヲ同シクスルモノニテ

讓ル事トシ差當リノ措置トシテ責任アル代表者ヲ派シ當館々員ト實地立會ノ上我方ノ被害狀況見聞確認方並ニ(一)邦人ノ生命財産ノ保護方ヲ要求シタル處何ハ極メテ沈痛ナル面持ニテ慚愧恐縮ニ耐ヘスト稱シ(二)付テハ直ニ之ヲ承認シ立會ハ七日ヨリ實行ヲ約シ(三)ハ兇匪討伐暴徒ノ徹底的檢擧ヲ行ヒ不祥事件ヲ繰返ササル様努力シ保護ノ責ヲ果スヘシト答ヘタリ  
(漢口ヨリ上海、北平、南京へ轉電アリタシ)

690 昭和5年8月8日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

漢口警備に関する日英協調方につき英國大使の申越しについて

本省 8月8日後8時発

第一五九號

往電第一五七号ニ関シ

在本邦英國大使ヨリ五日附公文ヲ以テ同國政府ハ支那現下ノ情勢ヲ憂慮シ漢口カ共產軍ニ奪取セララル重大ナル危険アリ独リ外人ノ財産破壊セララルヘキノミナラス其ノ生命

右見地ヨリ既ニ在漢口帝國官憲ニ対シ現地ノ事情ノ許ス限リ英國官憲トノ間ニ適切ナル協調ヲ遂クル様訓令シ置キタルニ付英國政府ニ於テモ在漢口同國官憲ニ対シ必要ノ訓令ヲ発セララルコトト致度吉回答シ置キタリ往復文写郵送ス米佛伊独白ニ轉電アリタシ

691 昭和5年8月8日 幣原外務大臣より  
在漢口坂根総領事宛(電報)

長沙事件被害立ち会い調査の際注意すべき事項に關シ訓令

本省 8月8日後12時発

第六〇號

長沙へ轉電アリタシ

第八号

貴官長沙帰還ノ上ハ遲滞無ク我方損害ノ調査ニ当ラルハ要スヘク右ハ賠償要求ノ的確ナル根據トナルモノナレハ、支那側責任者ヲ我方ノ實地調査ニ立會ハシメ直接損害ニ付最モ嚴密公正ナル調査ヲ作成シ右立會者ノ認証ヲ取付ケ置ク等ノ方法ニヨリ出来得ル限り證據書類ノ蒐集ヲ完全ニシ

他日賠償交渉ノ際支那側ヲシテ言懸リヲ作ルノ餘地ナカラシムル様御手配アリ度尚本件調査ニハ相当人手ヲ要スルコト、思ハル、ニ付必要アラハ漢口總領事ト協議シ同館ヨリ應援ヲ受ケラル、様措置セラレタシ  
上海、南京、北平ニ轉電セリ

692 昭和5年8月8日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長江筋警備についての英、米、仏側態度に関する情報について

南京 8月8日後発  
本省 8月8日後着

第六〇二號

上海宛往電公第四一號ニ關シ

其ノ後ノ情報左ノ通

(一)「イングラム」ノ談ニ依レハ英國側ハ長江筋ノ不安ニ備フル爲更ニ驅逐艦二隻ヲ威海衛ヨリ長江筋ニ増派スル外上海ヨリ陸兵約百數十名ヲ漢口ニ派遣スル事トナリタルカ右陸兵派遣ニ付テハ支那側ニハ何等通知セス漢口到着

上海 8月8日後発  
本省 8月9日前着

第四二二號

當地駐屯英兵中約百十數名ハ昨七日汽船湘和ニテ約五十名ハ本八日軍艦「ブリッヅウオーター」ニテ漢口ニ向ケ出發セリ

尙八日ノ「デーリー、ニユウス」ハ社説ニ於テ「今回英兵ノ漢口派遣ハ賢明ナル準備行爲ト云フヘク支那官憲力克復スルコト能ハサル赤化ニ對シ英國國民ノ生命、財産ヲ保護スルコトハ英國國民當然ノ權利ニシテ派遣兵數カ約百五十名ニ過キササルハ英國國民保護ノ外他意ナキコトヲ示スモノナリ最近支那各都市ニ於ケル共產運動及南支及長江沿岸ノ共匪ノ跳梁ハ曩ニ國民政府カ北伐ニ際シ容共政策ヲ執レルニ禍ヲ發スルモノニシテ國民政府モ今ニシテ其ノ非ヲ悔ヒ居ルヘシサレト南北抗争ノ現状ニ於テハ共同ノ敵タル共產軍討伐ノ爲南北ノ協調ハ望ミ難ク結局外國政府ハ自國人保護ノ爲力ヲ用フルノ外ナシ云々」ト論シ居レリ  
北平、南京、漢口、奉天ニ轉電セリ

ノ上モ上陸セシメス「マリーン」トシテ船中ニ置ク事トナリ居ル趣ニシテ右ニ依ル上海ノ兵力不足ハ直ニ香港ヨリ派兵ニ依リ補充スル旨ナル趣ナリ

(二)米國領事ノ談ニ依レハ長沙事件ニ付テハ「ジョンソン」公使ヨリノ抗議文接到セルニ依リ同領事ヨリ外交部ニ手交シ置キタルカ未タ外交部ヨリハ何等回答無キ趣ナリ尙上流方面ノ警備ニ付テハ南京ヨリ驅逐艦一隻九江ニ増派シタル外司令官ハ砲艦ニ乗シ漢口ニ急行セルカ夫レ以上ノ計畫ハ未タ決定シ居ラサル趣ナリ

(三)佛國領事ノ談ニ依レハ佛國側ハ未タ長沙事件ニ關スル抗議モ提出セス長江筋ニ對スル警備方法等ニ付テハ何等情報ニ接セサル趣ナリ

上海、北平、奉天、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

693 昭和5年8月8日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海駐屯の英兵百数十名が艦艇にて漢口向け  
出發について

694 昭和5年8月8日 米内第一遣外艦隊司令官より  
小林(躋造)海軍次官宛(電報)

漢口防衛に関する日英協同方につき意見具申並  
び列国海軍協同動作に関する覚書準備について

極秘 五、八八一九三〇 無線 安宅発 (二六二)  
九〇四二五 着

在漢口一遣司令官

次官

一遣機密第一〇四番電  
機密第八十二番電受領

現在ニ於ケル我兵力ハ我租界ヲ確保シ得ル最小限度ノモノタルコト舊英租界ニアル我居留民ノ人命財産保護ノ為一時的ニ揚陸スルコトアルベキ我陸戰隊ガ特ニ英國側ト協同スルノ已ムヲ得ザル場合ヲ生ズルコトアルベキ以外目下ノ処兵力行使上英國ト協同スベキコトナシト思考ス英國ハ旧租界ノ一部防衛ニ決シタルハ既報ノ通ナルガ狀況ニ依リテハ或ハ逐次其ノ範圍ヲ拡大シ旧租界全部ニ及ボシ將來ノ為有利ナル基礎ヲ作ル意志ナシトモ限ラザルベク又之レ無シトスルモ英國側ノ防衛ニ名実共我兵力ヲ利用セラレ面白カラ

ズ又独り英国ノミトノ協同ハ当方ノ情况上妙ナラズト思考ス必要ノ場合ヲ予想シ列国海軍協同動作ニ関スル覚書ハ本職先任指揮官タル立場上既ニ準備シアリ其ノ内容ハ前述ノ趣旨ニ依リ各国海軍ノ立場ヲ明ラカニシ他租界ニ於テ兵力行使ノ範圍ヲ定メタル外主トシテ居留民避難救助ニ関スル事務的ノモノナリ要スレバ覚書全部電送スベシ尚昨七日米國司令官ヨリ避難民收容ノ際混雑及誤解発生防止手段ニ関スル共通的覚書ヲ送附本職ノ批評修正ヲ求メ来レルガ兵力ノ行使ニ関シテハ江岸ヲ射撃スルコトアルベキヲ予想セル外他ニ言及シアラズ

八一一九〇〇

695 昭和5年8月(9)日 在米出淵大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口警備に関する米国側の態度について

ワシントン 発  
本省 8月9日午前

第二五五號

國務長官次官共ニ先般來避暑旅行中ニ付往電第二五四號七

ニ對シ事件ノ善後交渉ヲ留保致シ置キタル處貴地ノ事態兎ニ角一段落ヲ見貴官モ既ニ長沙ニ復歸セラレタルコトナレハ貴官ヨリノ報告ニ基キ至急交渉方針ヲ決定シ度キニ付貴官ノ現認セラレタルトコロヲ基礎トシ大体ノ被害狀況往電第八号ノ調査トハ別ニ至急回電アリタシ  
上海、北平、南京ニ轉電セリ

697 昭和5年8月9日 幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

我が方の長江方面警備措置に対する中国側非難について

本省 8月9日後5時44分発

公第三二二號

屢次ノ貴電ニ依ルニ支那側新聞及党部方面ニハ種々我方今次ノ警備措置ヲ論難スルモノアル如キ処支那側カ居留民保護ノ責任ヲ果サス長沙事件ノ如キヲ惹起シ乍ラ我方ノ応急自衛措置ヲ非議スル如キハ甚タ謂レナキ次第ニテ往電公第三二一号汪公使ト會談ノ際ニモ本大臣ハ軍艦派遣等ニ付支那側ニ誤解ナカラムコトヲ希望スルト共ニ仮ニ支那側力諒

日「キヤツスル」ト會談ノ機會ヲ以テ支那時局ニ言及シタルニ「キヤ」ハ米國政府ノ見込ニテハ差當リ赤軍漢口ヲ侵スカ如キ危険ナキ様認メラレ從テ一昨日英國大使來訪上海ヨリ漢口ニ陸兵派遣ノ件ヲ内話セル際ニモ米國政府トシテハ此ノ際何等新シキ行動ニ出ツル意思ナク出先米國官憲ハ外國人ノ生命財産保護上必要ト認ムル場合ニハ何時ニテモ機宜ノ措置ヲ執リ得ル様豫テ訓令ヲ受ケ居ル旨告ケ置キタリト語レリ  
英ニ轉電シ英ヨリ佛、伊ニ轉電セシム

696 昭和5年8月9日 幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

長沙事件善後交渉方針決定の基礎資料に必要なのため被害状況回電方を長沙領事宛に転電訓令

本省 8月9日後4時50分発

第六二號

長沙へ轉電アリタシ

本大臣發長沙宛電報第一〇号

本大臣發上海宛往電公第三一〇号ニテ御承知ノ通國民政府

解セサレハトテ之ヲ中止スル訳ニモ行カサル旨述ヘ置キタルカ右ニ對シ同公使ハ同電末段ノ通挨拶シ居リタル次第ニ付右御含迄  
北平、天津、奉天、青島、濟南へ轉電セリ  
南京、漢口、広東、福州へ轉電アリタシ

698 昭和5年8月9日 幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

漢口警備に関する英国の日英協調方申出に對する応対振りにつき訓令

本省 8月9日後6時30分発

第六三號

本大臣發在英大使宛電報第一五九号ニ関シ

英國ノ申出ニ對シテハ日本租界以外殊ニ旧英租界ニハ日本商社モ多数存在スルコトニテモアリ之カ保護ノ目的ヲ達成セムカ為ニハ現地ノ実狀ニ応シ共通利害ヲ有スル列國ノ協調ヲ要スヘキコトヲ考慮シ此ノ趣旨ヲ以テ應對シタルモノニシテ英國側ニ於テ陸兵ノ常時駐屯又ハ旧英租界ノ奪回ノ如キ計畫アリトセハ別ニ考量ヲ要スルモノアルコト勿論ナ

リ尚海軍側ニ於テハ英國ノミノ為メニスル兵力配備ヲ為シ  
或ハ聯合軍ヲ編成スルカ如キコト無キ様米内司令官ニ訓令  
シタルニ付右ニ御含ミアリタシ  
上海南京北平奉天へ轉電セリ

699 昭和5年8月(9)日 在中国矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛(電報)

長江方面の共産党問題につき列国共同措置方  
加の意向に關し伊国公使館参事官談話について

北平 本省 8月9日後着

第五八九號

九日伊國公使館参事官本官ヲ來訪シ本國政府ヨリ日英米佛  
諸國カ揚子江方面ノ共産黨問題等ニ付共同措置ヲ執ル様ノ  
場合ニハ伊國トシテモ華府ニ於ケル支那關係條約參加國ノ  
一トシテ豫メ協議ヲ受クルモノト期待シ居ル次第ナル旨ノ  
電報ニ接シタルカ本國政府ニ於テハ既ニ右ノ次第ヲ右等關  
係國政府ニ申入濟ナリト諒解スル處此ノ點本官ニモ友人ト  
シテ傳へ置キタク參上セル次第ナリト述へ更ニ七日ノ新聞

軍に總攻撃をかけ長沙奪回を果たしたとの長  
沙領事報告

漢口 8月10日前着  
本省 8月10日後着

第三一九號

長沙發本官宛電報

第九五號

一、四日午后九時頃ヨリ何健軍ハ水陸洲側ヨリ總攻撃ヲ開  
始シタルニ對シ共匪軍ハ亦之ニ應戰シ銃聲絶へサリシ  
カ夜半三時頃ニ至リ何健軍ハ成寧勇勝兩軍艦掩護ノ下  
ニ二路ニ別レテ強行渡河ニ成功シ未明迄激烈ナル市街  
戰アリ五日正午頃迄市中各所ニ銃聲絶へサリシカ遂ニ  
何健軍ノ長沙奪回成リ陶廣ノ新編第三十一師第十六師  
副師長戴斗垣部隊及第十五師王東原旅ハ引續キ共匪軍  
ヲ追撃シ湘潭ヲ危宿鍾ノ第十五師及羅藩瀛ノ第十六師、  
易家灣ヲ劉建緒ノ第十九師ト夫々進撃中ナリ  
二、五日ハ何健軍ノ大部隊ハ共匪軍ヲ追撃シ市中ニハ約一  
旅ノ軍隊駐屯シ市民ノ保衛團縣政府ノ挨戶團等ト共ニ  
治安ヲ維持シタルカ六日午后何健ノ入城ト共ニ漸ク市

報道(六日當地發路透電トシテ支那紙ニ轉載)ニ依レハ四  
日長沙ニ於テ日英支三國軍艦カ共同動作ノ下ニ城中ノ共産  
軍ニ對シテ砲撃ヲ加ヘタル由ナルカ右ハ事實ナリヤト問ヒ  
タルニ付本官ハ右ハ事實ニ非スト思考ス何レニスルモ何等  
右ノ如キ公報ニ接シ居ラスト答へ置ケリ

其ノ際同参事官ハ本官來訪ニ先立チ英米佛各公使館ヲ歴訪  
シ冒頭ノ趣旨ヲ申入レタルカ英國公使館ニ於テハ陸戰隊又  
ハ陸兵ヲ長江上流方面ニ派遣スルヤモ知レサルモ右ハ關係  
國協議ヲ經テ共同ノ措置ニ出ツル趣旨ニハ非ス英國ノ權益  
保護ノ爲單獨ニ右ノ如ク取計フニ過キサル次第ナリト説明  
シタリト述へ居タリ

尚本官ヨリハ在伊大使發閣下宛電報第六〇號ノ趣旨ヲ内話  
シ置ケリ爲念

(漢口ヨリ長沙へ通報アリタシ)  
上海、南京、漢口、奉天へ轉電セリ

700 昭和5年8月10日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

何健軍が成軍、勇勝兩軍艦掩護の下、共産党

中ノ警戒嚴重トナリテ市内潜伏共匪及暴徒ノ檢舉ニ努  
力シ七日ニハ日中ヨリ戒嚴令布カレ物々シキ警戒振り  
ヲ呈シ居ル處共匪軍ハ長沙瀏陽間ニ在リテ逆襲說サヘ  
傳ヘラレ市中謠言百出人心ノ動搖止マス各機關モ未タ  
回復スルニ至ラス  
三、目下海軍俱樂部附近ニ纏リ宿泊シ居ル殘留男子ハ往電  
第九四號立合檢分ノ完了ヲ待チ艦長ト協議ノ上復歸セ  
シムルモ夜間ハ水陸洲ニ宿泊セシムル豫定ナリ  
大臣、上海、北平、南京へ轉電アリタシ

701 昭和5年8月11日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口方面の警備協調問題に關する各国海軍側  
の態度について

漢口 8月11日後着  
本省 8月13日前着

第三二六號(極秘)

當地ニ於ケル列國海軍協調問題ニ關シ現ニ最モ動キ出シ居  
ルハ米國側ニシテ既ニ司令官「クレイブン」少將ノ名ニ於

テ本月六日附各國海軍司令官宛覺書ヲ發シ事變突發ノ場合ノ混雜ヲ避クル爲ト稱シテ主トシテ情報交換、信號、避難民ノ通行、收容船ノ配置（明ニ支那人避難民ヲ排除スルコトトセリ）避難民保護ノ爲ニスル警備艦ノ位置其ノ他ノ事項ニ關シ申出ノ趣アリタル處九日ニ至リ獨逸總領事ハ首席領事トシテ本官ヲ來訪シ米國側ヨリ領事團ニ於テ「ク」少將ノ提案支持方希望シ來レルモ之ヲ領事團會議ニ附スルニハ英國總領事ノ強硬ナル反對アル次第ナリトテ本官ノ意見ヲ求メタルニ付本官ハ此ノ際各國協調ハ主義上至極望マシキ次第ナルモ本覺書ノ内容ハ一讀スル所大體軍事的ノモノト認メラルルニ依リ先ツ各國海軍當局間ノ協議ニ任スコト穩當ナルヘシト答ヘ置キタルカ同日英國總領事ニ面會ノ節本官ヨリ右ニ言及セルニ同總領事ハ頗ル激昂セル體ニテ本件覺書提出ノ事實ヲ非難シ自國ノ租界ヲ有セス近々三隻ノ軍艦ヲ以テ專ラ避難民ノ保護收容ニ當ラントスル「ク」少將カ他ノ司令官ヲ差措キ此ノ種提議ヲ爲セルハ其ノ地位ヲ辨ヘサル行爲ニシテ殊ニ此ノ種海軍關係ノ事項ヲ領事團ノ問題トナサントスルニ至リテハ斷然反對セサルヲ

（四字分アセ）

得スト云ヒ尙最近當地佛國人（目下稅關長、郵務司其ノ他

トニ彼此苦心シ居ルカ如キ觀アルニ對シ我方海軍目下ノ方針トシテハ租界外居住ノ邦人ヲ適當ノ時機ニ租界内ニ收容ノ後ハ兵力ノ關係上大體租界境界線ヲ防禦線トシテ及フ限リ警備ノ責任ヲ盡サントスルニアルモノト了解スルニ依リ各本國政府ヨリ特別ノ訓令ナキ限り夫々ノ意見ノ方向ニハ今後共相當大ナル懸隔アルヲ免レサルノミナラス共同動作等ノ場合我米内司令官カ先任司令官トシテ支那側其ノ他ニ對シ結局批評ノ矢面ニ立ツコトトナルヘキ事情ヲモ豫メ考慮スルヲ要スル點アルニ付テハ旁情報交換其ノ他二三比較的輕微ナル事項ノ打合ヲ除キ實際列（國）間ニ何等協調ノ實ヲ擧クルニ至ルトシテモ時局急ニ切迫ヲ見サル限り尙相當曲折ヲ經タル後ノコトナルヘシト思料ス

上海、北平へ轉電セリ

702 昭和5年8月11日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

漢口方面の警備に関する日英協調方につき英国  
海軍側と協議中との米内司令官内話について

ニ佛國人多シ）仲間ニ於テ列國海軍協力分擔シテ外國人居住地域全體ヲ防禦スルノ案ヲ考究中ノ由度々耳ニスルモ右ハ各國ノ受持區域廣漠ニ失シ實行不可能ニシテ佛國領事ヨリモ未タ何等申出ナシトテ舊英租界ノ警備計畫（大體ニ於テ「バンド」ニ沿ヒテ最重要ナル長方形ノ一地區ヲ先ツ防衛シ出來得レハ漸次舊英租界ノ全體ニ擴張セントスルモノト解ス）ニ關シ種々本官ニ内話シタル處英國司令官「マクリーン」少將ハ曩ニ英國人商業會議所等ト協議シ成案ヲ得タルカ其ノ後五日間ノ豫定ニテ長沙ニ向ヒ兩三日中ニ歸漢ノ上ハ早速日本海軍側ト相談スヘシト言ヒ居タルニ依リ右豫メ米内司令官ニ傳言シ置カレタシト依頼セリ當地各國側ノ態度右ノ如クニシテ米國側ハ專ラ自國避難民ヲ自國船ニ收容スル場合ニノミ各國海軍ト協同セントスルモノト見ラレ居リ英國側ハ一定地區ヲ嚴重ニ防禦シテ自國民財産ノ保護ニ任シ場合ニ依リテハ再ヒ何等現在ヨリ有利ナル「ステータス」ヲモ造リ出サントヲ企圖シ居ルニアラスヤト疑ハシムル節モアリ更ニ佛國側ニ至リテハ其ノ租界ノ位置、地形其ノ他種々ノ點ニ於テ警備上最困難ヲ感スル結果他國ノ兵力ヲ以テ自國租界ニ接近スル地域ヲ防衛セントスルコ

漢口 8月11日後發  
本省 8月13日前着

第三二八號

貴電第六三號ニ關シ（漢口警備日英協調ノ件）

當地各國海軍側ノ態度ハ大要往電第三二六號ノ通ナル處昨夕長沙ヨリ歸來セル英ノ「マクリーン」少將ハ本十一日朝米内司令官ヲ來訪セルカ別段纏リタル提案トテモ無ク試ニ日本側ヨリ舊英租界ニ於ケル日本商社ノ邦人ヲ避難セシムル爲場合ニ依リテハ砲艦ヲ派シ「バンド」ニ日本陸戰隊ヲ上陸セシメテ保護ニ當ルノ必要ヲ生スルコトモアルヘシト述ヘタルニ對シ右ハ英國海軍ニテ之ヲ引受ケ英艦ニテ保護收容ノ上日本側ニ送り届クルコトトセハ混雜ヲ防ク上一層便利ナルヘキ旨答ヘタル由ニテ兎ニ角日英兩國間ノ打合セヲ進ムル爲双方ノ意見ヲ文書ニテ認メ明後日之ヲ持寄りテ協議スルコトトナレル趣米内司令官ヨリ内話アリタリ尙當地英人系「セントラル、チャイナ、ポスト」紙ハ本日ノ社説ノ一部ニ於テ當地ニ事端發生ノ場合ニハ第三特別區ニ英兵上陸ノ口實ヲ得ルニ依リ英租界自体ノ秩序アル状態ニ復歸スルコトトナルヘシトノ意味ヲ希望ヲ述ヘ居レリ（右

社説原文爲念郵送ス)  
上海、北平へ轉電セリ

703 昭和5年8月11日

米内第一遣外艦隊司令官より  
小林海軍次官  
永野(修身軍令部次長)宛(電報)

英国海軍司令官と防衛区域に関し意見交換に

ついて

五、八 一一 二三〇〇 無線 安宅發着(三五〇)  
一三 二二五五

一遣司令官

次官  
次長

一遣機密第一〇七番電

本日英司令官來訪、冒頭其ノ筋ヨリ時局ニ關シ日本海軍ト  
協調スベキ訓令ヲ受ケタリト述ベタル後當地ニ於ケル情勢  
ニ關シ座談の意見ヲ交換ス協調ニ關シテハ兩海軍ノ防衛  
計畫ヲ持寄ノ上明後十三日意見ヲ交換スルコトトシ最後ニ  
本職ハ若シ舊英租界我租界ト鄰接シ居ルトセバ如何様ニモ  
共同防衛策ヲ立テ得ベキモ現状ニテハ如何トモ致シ難シト

漢口 8月12日前発

本省 8月12日後着

第三三二號

長沙發本官宛電報第九九號

大臣へ左ノ通電報アリタシ

本官發大臣宛電報第九六號ニ關シ

立會檢分書作成完了本官十日湘江丸ニテ漢口ニ出張ス同日  
領事館ハ軍艦二見ヨリ水陸洲葉公廟二十一號石井寫眞館樓  
上ニ移ス

殘留男子ハ時局尙安定セサルニ付テハ家屋ハ大半掠奪一空

ニ歸シ差當リ復歸シ能ハサル次第ニモアリ日中ハ之力整理  
ニ從ヒ夜間ハ當分水陸洲ニ宿泊セシムルコトトセリ

(上海ヨリ南京へ「第二三三號」轉電アリタシ)

上海、北平、南京へ轉電アリタシ

705 昭和5年8月12日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

九江在留民保護および南潯鐵道保全につき充分  
の手段を尽すよう国民政府の注意喚起方訓令

述ベ會見ヲ打切レリ英國ハ舊租界防衛区域ヲ北方瀋陽街迄

擴大シ陸戰隊ヲ更ニ五十増シ陸軍百五十ト合セ總計四百ト  
ナス由相當固キ現地保護ノ決心アルヤニ察セラル尚英司令  
官ハ英租界防衛区域内ニアル日本人ノ財産ハ英國軍隊陸上  
ニアル限り防禦ニ關シ心配無用ナリト強調シ怡和街以西太  
平街ニ至ル間ニ防備困難ナリト述べ日本海軍ハ同区域ニア  
ル日本人ノ財産ヲ如何ニスルヤト繰返シタルヲ以テ何トナ  
ク同区域ハ我陸戰隊ノ揚陸ヲ希望スルニアラズヤトノ印象  
ヲ得タルヲ以テ我海軍ハ我租界ノ防禦以外餘力ナシト念ヲ  
押シタリ、九日米國司令官ト會見ノ際ノ口吻竝米國海軍ノ  
市民保護令等ヨリ察スルニ米國海軍ハ兵力行使上他ト協調  
ノ意志ナキモノノ如シ

佛國海軍トハ未ダ何等接觸シ居ラズ(終) 一一一 二二〇〇

704 昭和5年8月12日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件に関する被害立會檢分書作成した旨  
並び領事館を軍艦二見ヨリ水陸洲に移したと  
の長沙領事報告

本省 8月12日後10時50分発

公第三二六號

九江發本大臣宛電報第一八號ニ関シ

租界モ無キ同地ノ事トテ居留民保護ノ爲ト虽陸戰隊ヲ上陸  
セシムルガ如キハ事態極メテ切迫ノ場合ナラサル限り考量  
ノ餘地ナク從テ借款鐵道ノ保護ニ付テハ主トシテ支那側官  
憲ノ力ニ俟ツノ外無キ處目下同地方ハ南京側軍隊ノ増派ニ  
依リ幾分小康ヲ保チ居ルガ如キモ何時形勢變化セザルモ測  
リ難ク現ニ鐵道ノ被害續出ノ狀況ニ在ルヲ以テ南京政府ニ  
對シ同地方ノ情況説明ノ上此ノ際更ニ警備隊ノ増員等ニ依  
リ此ノ上トモ居留民ノ保護ハ素ヨリ我借款鐵道タル南潯鐵  
道ノ保護ニツキ充分ノ手段ヲ盡スベキ様同政府ノ注意喚起  
方可然御取計アリタシ

南京、漢口、九江へ轉電アリタシ

706 昭和5年8月13日

幣原外務大臣より  
在上海重光總領事、在福州田村(貞  
治郎)領事、在厦門寺島(広文)領事、  
在汕頭別府(熊吉)領事各宛(電報)

桑島參事官等の華中、華南地方共產党実情視

察に關し諸事便宜供与方訓令

本省 8月13日後10時14分發

合第四〇六號

中南支地方ニ於ケル共產黨及共產匪ノ活動漸次顯著トナリツツアルニ鑑ミ豫テヨリ調査員ヲ派遣シテ実情ヲ調査セシムルノ必要ヲ感シ居リタル處今回滯京中ノ桑島參事官及好富書記官ヲシテ約二箇月ノ豫定ヲ以テ長江及南支沿岸地方ノ共產運動ヲ視察セシムルコト、ナリ同官等一行ハ八月十八日上海着南京蕪湖九江漢口長沙(場合ニ依リテハ長沙ニ直行ノ上漸次下流ヲ視察)福州、廈門、汕頭、廣東(場合ニ依リテハ上海ヨリ廣東ニ直行、汕頭廈門福州ノ順序トナルコトアルヘシ)ノ順序ニテ巡歴スルコト、ナリタルニ付テハ貴地ニ於ケル調査之上ト協力セラレ諸事便宜ヲ供与セラレ度調査項目ノ大体ハ各地共通ノモノ及各地別ノモノニ分チ別ニ電報スヘキニ付各地別ノモノニ付テハ一行到着迄ニ貴館ニ於テ大体ノ豫備調査ヲ整ヘ置カル、ト共ニ調査ノ參考トナルヘキ出版物、宣傳材料、寫真等ヲモ出來得ル限り廣ク蒐集シ置カレ度尚本件調査員派遣ノ次第八外部ニ對シ一切秘スルコト、致シ度ニ付御含置アリ度

ニ農民ニ組織ヲ與ヘ居ルヤ否ヤ)

(五)「ソツイエト」区域若ハ共產匪占領地域ニ於ケル住民ノ思想上及生活上ニ及ホシタル影響

(六)赤衛隊ノ組織及行動狀況

(七)支那官憲ノ共產運動取締及共匪討伐狀況

(上海ヘハ)訓令トシテ南京、蕪湖、九江、漢口、長沙ニ

轉電シ參考トシテ蘇州、杭州ニ轉電アリタシ



708 昭和5年8月13日 幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)

華中、華南地方共產黨実情調査に當り各地別

項目に關し訓令

本省 8月13日後10時52分發

公第三二八號

往電合第四〇六號ニ關シ

各地別調査項目左ノ通り各地ノ分ニ分チ夫々關係各館ニ訓令トシテ轉電アリタシ

第一、上海ノ分

(一)第三國際派遣員ノ行動情況

(上海ヘハ)訓令トシテ南京、蕪湖、九江、漢口、長沙ニ轉電シ參考トシテ蘇州、杭州ニ轉電アリタシ(廣東ヘハ)參考トシテ香港ヘ轉電アリタシ北平、青島、天津、奉天、ニ轉電セリ



707 昭和5年8月13日

幣原外務大臣より 在上海重光總領事、在福州田村領事、在廈門寺島領事、在汕頭別府領事各宛(電報)

華中、華南地方共產黨実情調査にあたり各地共通項目に關し訓令

本省 8月13日後10時14分發

合第四〇八號

往電合第四〇六號ニ關シ

調査項目中各地共通ノモノ左ノ通(各地別調査項目ハ追電ス)

- (一)中國共產黨ノ組織及行動狀況
- (二)共匪部隊ノ組織、兵力及行動並相互連絡ノ狀況
- (三)共匪ト中國共產黨及蘇聯側トノ關係
- (四)「ソツイエト」区域ニ於ケル政權ノ組織及施政狀況(特

(二)江蘇省委員会ノ組織及行動情況

(三)江蘇省東北部ニ於ケル共產軍ノ行動情況

(四)五月下旬ノ「ソツイエト」区域代表大會ノ真相

(五)邦人企業人間ニ於ケル共產運動情況

(六)邦人ト中國共產黨トノ連絡情況

(七)各租界工部局及支那官憲ノ共產運動取締情況

第二、南京ノ分

(一)國民政府ノ共產黨ニ對スル取締情況

(二)中國共產黨ト國民黨左傾分子トノ關係

第三、蕪湖ノ分

管内ニ於ケル土匪ノ行動及共匪トノ關係

第四、九江ノ分

彭德懷、黃公略及朱德等各共產軍ノ行動及「ソツイエト」

区域ノ情況

第五、漢口ノ分

(一)河南省東南部、湖北省北部及漢水流域ニ於ケル各共產

軍ノ行動情況

(二)各地「ソツイエト」区域ノ情況

第六、長沙ノ分

(一)湖南省ニ於ケル賀龍其ノ他ノ共產軍ノ行動情況  
(二)岳州及長沙占領ノ際ニ於ケル共產軍ノ行動及占領後ノ  
施政情況

第七、福州ノ分

管内共匪ノ行動及「ソウイエト」区域ノ情況

第八、厦門ノ分

(一)管内共匪ノ行動及「ソウイエト」区域ノ情況

(二)厦門共産党及青年團等ノ情況

第九、汕頭ノ分

管内共匪ノ行動及「ソウイエト」区域ノ情況

第十、廣東ノ分

(一)管内共匪ノ行動及「ソウイエト」区域ノ情況

(二)昭和二年共産党暴動事件ノ影響

709 昭和5年8月13日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

最近中国側において長沙事件に関し責任回避  
の傾向あるにつき至急国民政府に同事件の賠

號ハ王部長ニ對スル口頭申入ニ止マルニ付至急國民政  
府ニ對シ公文ヲ以テ「長沙事件ニ關シテハ王外交部長  
ハ日本公使ニ對シ又駐日支那公使ハ日本外務大臣ニ對  
シ遺憾ノ意ヲ表セラレ且國民政府ニ於テ之カ責任ヲ執  
ルヘシ又將來邦人ノ保護ニ付テモ充分責任ヲ以テ當ラ  
ルヘキコトヲ述ヘラレタル次第ヲ諒承ス就テハ長沙ニ  
於ケル邦人ノ被害ニ關シテハ目下同地日本領事ニ於テ  
調査進行中ナルヲ以テ右完了次第直ニ之ヲ賠償スル様  
御措置アリタク尙右調査ニ付テハ同地ニ於ケル外交部  
代表者ヲシテ日本領事ト協力セシムル様然ルヘク訓令  
方御取計アリタキ」趣旨申入レ置クコト然ルヘキヤニ  
存セラル何分ノ儀御回電相成度シ

北平、南京、漢口、奉天へ轉電セリ

710 昭和5年8月13日

米内第一遣外艦隊司令官より  
小林海軍次官  
永野軍令部次官 宛(電報)

長江方面に事件發生の際の対策に関し英國海  
軍側と協定成立について

價要求申入れ置く様意見具申

上海 8月13日後発  
本省 8月13日後着

公第七九五號

閣下發長沙宛電報第八號ニ關シ

一、長沙事件ニ付テハ時日ノ經過ト共ニ支那側ニ於テ之カ  
責任ヲ回避セントスル運動起リ例ヘハ最近當地方ニ於  
テハ本件カ共産黨ノ所爲ニシテ右ハ露國側ノ指喉ニ依  
ルト共ニ北方派ノ操縦ニモ係ル次第ナルヲ以テ國民政  
府ニ於テ之カ責任ヲ負フノ義務ナシト云フカ如キ議論  
ヲナスモノアルカ(黨部殊ニ陳德徵一派)右ハ或ハ新  
聞紙等ニ依リ一部ノ輿論トナリ國民政府ノ行動ヲ牽制  
スルノ結果トナルヤモ計ラレス又國民政府側ニ於テモ  
反政府派カ漢口日本租界ヲ根據トシテ共産黨ノ操縦ヲ  
ナシタリトノ理由ヲ以テ我方ニ長沙事件ノ責任ノ一半  
ヲ轉嫁セント企ツルヤノ疑アル次第ハ往電公第七七八七  
號ノ通ナリ

二、右ノ如キ事情ナルニ付此ノ際長沙ニ於ケル損害ノ急速  
調査ハ進行セシムル必要アルト同時ニ往電公第七六五

五、八、一三一七〇〇 無線 安宅 著(三六一)

次官  
長官

一遣司令官

一遣機密第一〇八番電

十三日英國司令官來訪事件發生ノ際ノ対策ヲ兩國海軍間ニ  
協定セリ内容ハ機密百四及百七番電報ノ趣旨ニ依リ主トシ  
テ兩國民避難ノ際混雜ト誤解ヲ避クル事項ノミニシテ兵力  
行使ニハ觸レズ特ニ電報スベキ程ノモノアラザルヲ以テ後  
日郵送ノコトトス尚本日會合ノ際英司令官ニ赤軍若シ武昌  
側ヨリ渡河シ來ル場合之ヲ擊退スルヤト問ヒタルニ明瞭ニ  
然リト答ヘ又若シ支那砲艦ガ赤軍ノ手ニ版着シタル場合之  
ヲ擊沈若シカハ捕獲スルカト問ヒタルニ本件ニ関シ既ニ數  
日前本國政府ニ請訓シタルモ未ダ何等返答ナク本國政府ハ  
之ヲ好マザルナラン必要ニ際シ危險区域外ニ退却セシムル  
方法ヲ講ズル外ナカラント答ヘタリ 一三一一六〇〇

711 昭和5年8月14日 幣原外務大臣より  
在中國矢野公使館書記官宛（電報）  
今回の共産党実情調査は長江および華南沿岸  
地方に限ることとしたき趣について  
本省 8月14日後12時発

第一四五號  
貴電第五九五號ニ關シ  
今田ノ調査ハ長江及南支沿岸地方ニ限ラル又支那人ハ貴地  
ニ於テ物色ノ要無シ其ノ他往電合第四〇七號ニ依リ御承知  
アリタシ  
天津、上海、漢口ニ轉電セリ

712 昭和5年8月14日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

長沙事件に關する我が方被害状況につき長沙  
領事報告

漢口 8月14日後發  
本省 8月16日前着

第三四四號

C倉庫三

713 昭和5年8月14日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使他十一公館長宛

英國大使の漢口警備に關する日英協調方申越  
しに對する我方回答書翰写送付について

亜一機密合一〇七六號  
昭和五年八月十四日

外務大臣男爵 幣原喜重郎

在英國

松平恒雄大使他宛

漢口警備ニ關スル日英協調ノ件

本件ニ關スル八月五日附在本邦英國大使來翰ニ對シ同月八  
日附本大臣書翰ヲ以テ回答シ置キタル次第ハ既ニ關係電報  
ニ依リ御承知ノ通ナル処右等書翰写茲許送付ス

本信宛先 在英松平大使、在米出淵大使、

在佛芳沢大使、在伊吉沢代理大使、在独東郷代理大使、  
在白永井大使、在支重光代理公使、在上海重光總領事、  
在北平矢野書記官、在奉天森島總領事代理、在漢口坂

長沙發本官宛電報第一〇一號  
往電第九九號ニ關シ

我方ノ被害狀況左ノ通（本件文書ハ別途郵送ス）

一、全燒

領事公館

二、全滅

領事館事務所及館員宿舍油舖街館員宿舍大石洋行樓上  
館員宿舍石井寫真館山本洋行一力料理店三井洋行事務  
所及社員宿舍嘉泰洋行陶山寫真館日豐洋行金融組合事  
務所小學校及同教員宿舍同仁醫院大石洋行鹽川洋行戴  
生昌汽船局

三、全部掠奪

綿貫齒科醫分院

四、過半掠奪

杏林堂藥店廣貫堂藥店

五、一部掠奪

海軍俱樂部薄洋行日清B倉庫及同事務所

六、無被害

小嶺洋行柴田敬助綿貫齒科醫院石井寫真分館日清A及

根總領事、在南京上村領事

昭和五年八月八日附幣原外務大臣發在本邦英國大  
使宛答翰寫  
（亞一機第一四一號）

以書翰啓上致候陳者本月五日附貴翰第一五四號ヲ以テ漢  
口方面共產土匪軍ノ脅威ニ對スル英國政府ノ憂慮並之カ  
對策ニ付御通報相成ト共ニ今後取ラルルコトアルヘキ措  
置ニ關シ帝國政府ト協力方ニ關シ御申越相成敬承致候  
漢口方面ノ情勢ハ帝國政府ニ於テモ夙ニ憂慮シ居タル所  
ニシテ最近長沙事件ノ勃發ヲ見ルヤ直ニ國民政府ニ對シ  
同方面ニ於ケル事態ノ危急ヲ指摘スルト共ニ之ニ對シ適  
切ナル防禦手段ヲ講セムコトヲ要求シタルコト先ニ英國  
政府ニ内報シタル通ナルカ他方事態ノ切迫ニ顧ミ應急の  
自衛措置トシテ同方面ニ對スル軍艦ノ移動並陸戰隊ノ配  
置等ヲ行ヒタル結果目下漢口ニハ巡洋艦、驅逐艦各一隻  
ノ外砲艦四隻集合シ居リ必要ニ應シ約四百五十名ニ至ル  
迄ノ陸戰隊ヲ揚陸シ得ル狀況ニ有之候  
帝國政府ハ目下ノ情勢ニ於テハ以上軍艦ノ移動並陸戰隊

ノ配置ヲ以テ同地ニ於ケル我居留民ノ生命財産並日本租界ヲ防衛スルニ足ルモノト期待スルト同時ニ目下脅威ヲ受ケツアル利益カ列國共通ノモノナルニ顧ミ之カ擁護ノ措置ニ付テハ列國殊ニ日英兩國ノ間ニ出來得ル限り協調スルノ望マシキコトニ付英國政府ト全然所見ヲ同ウスルモノニ有之從テ右ノ見地ヨリ既ニ漢口ニ在ル帝國官憲ニ對シ現地ノ事情ノ許ス限リ英國官憲トノ間ニ適切ナル協調ヲ遂クル様訓令シ置キタルニ就テハ右ニ御了承ノ上英國政府ニ於テモ在漢口英國官憲ニ對シ必要ノ訓令ヲ發セララルコトト致度此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

714 昭和5年8月15日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

長沙事件の我領事館および居留民被害に關し  
直ちに賠償するよう國民政府に申入れ方訓令

本省 8月15日後7時28分發

公第三二九號

貴電公第七九五號ニ關シ

我方損害概況ハ漢口發本大臣宛電報第三三六號ノ通ナルニ

付貴官ハ冒頭貴電(二)ノ公文案中後段ヲ「長沙ニ於ケル我領事館及居留民ノ被害ニ關シテハ在長沙領事ヨリ不取敢別表ノ通報ノ次第アリ追テ損害額ノ精算出來次第改メテ申入ルヘキニ付直チニ之ヲ賠償スル様措置セラレ度」トノ趣旨ニ改メ右長沙領事報告ノ損害概況別表トシテ添付セラレ至急國民政府ニ申入レラレ度

尚外交部代表者派遣ノ件ハ漢口宛往電第七一號ノ次第モアリ此際申入レヲ差控フルコトニシタル次第ニ付御合置アリ度  
北平、南京、漢口、奉天ニ轉電セリ

715 昭和5年8月15日

幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

長沙事件の日本人被害家屋立ち会い検分終了  
せるところ賠償要求の基礎として充分なるや

回電方長沙領事に轉達訓令

本省 8月15日後11時20分發

第七一號

糟谷領事ニ轉達アリタシ

被害邦人家屋立會檢分十日終了セル趣ノ處右ハ往電第八号ニヨル实地調査ト認メ得ル程度ノモノナルヤ(從テ賠償要求ノ基礎トシテ右以上实地調査ヲ爲スヲ要セサル次第ナリヤ)將又単ナル立會檢分ナルヤ又立會ヘル支那側責任者ノ身分地位並調査ニ干與セル程度等回電アリタシ

上海、南京、北平へ轉電セリ

716 昭和5年8月17日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件における日本人被害家屋の立ち会い

検分終了に至る経緯に關し長沙領事報告

漢口 8月17日後發

本省 8月18日後着

第三五七號(至急)

糟谷領事ヨリ

閣下發漢口總領事宛電報第七一號ニ關シ

(一)被害邦人家屋ノ立會檢分ハ大体貴電第八號ニ依ル實地調査ノ程度ノモノト認メ得ヘク要償ノ基礎タリ得ヘシ

(二)支那側ハ多年湖南交渉員タリシ現省政府外事秘書楊宣誠

ヲシテ措置セシムル管ナリシ處當時同人ハ漢口ニ避難シテ在ラス(交渉處撤廢後交渉事務ハ表面何健ノ名義ヲ用ヒ居ルモ實務ハ専ラ楊ノ管掌ニ歸セリ)

(三)然ルニ楊ノ補佐タル金壯春殘留シ居タルヲ以テ同人ヲシテ立會ハシメタル次第ニシテ金ハ曾テ縣知事タリシコトアリ大正十五年ヨリ客年末交渉署撤廢迄同處庶務課長トシテ勤續シ一切ノ案件ニ關與シ屢交渉員代理タリシコトアリ本年一月交渉事務カ省政府ニ移管サルルヤ楊ト共ニ秘書署ニ入レリ

(四)若シ當時楊復歸シ居タランニハ本官ト楊トノ間ニ立會檢分ヲナス管ナリシモ金立會ヒタルヲ以テ同人及福間トノ間ニ調書ヲ作製セシメタリ調書ハ湖南省政府代表金壯春ノ名義ヲ用ヒ居ル處何健ヨリ金ヲ右代表ニ任スル旨ノ書面ヲ取付ケ置ク時ハ調書ノ效力ヲ確實ナラシムル上ニ好都合ト思考シタルモ何健ニ對シ本官ヨリ立會員派遣方ノ交渉ヲナシタルハ何入城ノ當日ニシテ軍事多忙ノ折柄ニモアリ且右書面ヲ要求シ折角承諾シタル立會ヲ遲疑スルニ至ランコトヲ慮リ急速ニ實行セシメタル次第ナルカ最

近楊宣誠復歸シタル趣ニ付同人ヲシテ我方ニ右任命ニ關スル何健ノ通知ヲ送付セシムル様取計ハシメタキ考ヘナリ  
(五)調査ハ共同檢分ノ形式ヲ用ヒ双方署名調印セリ  
(六)各被害家屋ノ實況ヲ撮影シタル寫眞ハ出來次第提出スヘシ  
(上海ヨリ南京へ轉電アリタシ)  
上海、北平、南京へ轉電セリ

717 昭和5年8月19日  
在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長に対し長沙事件賠償要求方公文書  
交に当り趣旨説明について

上海 8月19日後発  
本省 8月20日前着

公第八一四號  
貴電公第三二九號ニ關シ

十八日王部長ト會見ノ際御來示ノ趣旨ニ依リ作成セル公文ヲ手交シ右ハ本件ニ關シ貴方カ遺憾ノ意ヲ表セラレタルコ

意見一致ヲ見タル趣ナルカ米内司令官ヨリ支那海軍カ共匪ニ加擔シタル場合當該軍艦ヲ擊沈スルヤト尋ネタルニ對シ「マクリーン」少將ハ本問題ニ付テハ既ニ數ヶ月以前本國政府ニ請訓シタルモ今以テ回訓ヲ得サル次第ナルカ共匪ニ對スル直接ノ援助ヲ防止スル丈ケノ措置ハ之ヲ執ラサルヘカラサルヘシト答ヘ更ニ日本側ヨリ率直ニ英租界回收ノ意圖アリヤト質問セル處事情已ムヲ得サルニ至ラハ之ヲ行フヘシト語リタル由米内司令官ヨリ本官限り内話アリタリ  
右内密御參考迄

719 昭和5年8月19日  
在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件における外国側損害状況に關シ長沙領事報告

漢口 8月19日後発  
本省 8月20日後着

第三六四號  
長沙發本官宛電報第一〇六號  
貴電第九三號ニ關シ

トヲ諒承スルト共ニ目下ノ處判明セル日本側被害ノ概況ヲ通報シ其ノ賠償ヲ要求スル次第ナリト説明セル處王ハ之ヲ披見シタル上國民政府ニ於テモ周澤春ヲ長沙ニ派遣シ正確且急速ニ調査セシメツアル次第ハ先ニ御話シタル通ナリ尙同人ニ對シテハ同地方官憲ト協力シテ右調査ニ當ル様訓令シアリト述ヘタルニ付本官ハ同人等ニ對シ日本側トモ聯絡ヲ取ル様命セラレ度シト述ヘタルニ王ハ之ヲ承諾セリ  
漢口ヨリ長沙へ轉電ヲ請フ  
北平、奉天、漢口、長沙へ轉電シ南京へ暗送セリ

718 昭和5年8月19日  
在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口方面警備に關する日英兩司令官の會談内容について

漢口 8月19日後発  
本省 8月20日後着

第三六〇號(極秘)

往電第三五九號日英兩司令官會談ノ際萬一其匪軍カ武昌側ヨリ渡河ヲ企ツル場合ニハ之ニ對シ砲撃ヲ加フヘキコトニ

外國側損害状況ニ付テハ英國領事及米國官廳其ノ他ニ確メノ結果左ノ通

一、英國

(イ)英米煙草事務所倉庫販賣店全部掠奪

(ロ)「ジャードン」「ハルク」燒失倉庫事務所全部掠奪

二、米國

(イ)「テキサス」石油會社事務所全滅倉庫一部破壊

(ロ)「スタンダード」事務所全滅

(ハ)「レゲット、アンド、マイヤース」煙草會社全滅

(ニ)ニチロワ教會全滅

(ホ)福音教會全滅

(ヘ)聖書學校一部掠奪

(ト)「エビスコバル」教會全滅

(チ)「シンヨーガイイン」及中學校全部掠奪

(リ)シンギン「コフィン」一部掠奪

三、獨逸

(イ)「ネツッキ」洋行全滅

(ロ)「カリ」洋行一部掠奪

(ハ)「トクフ」洋行一部掠奪

四、伊國  
(イ) 天主堂全部掠奪

五、雜

(イ) 支那内地教會全部掠奪

(ロ) 諾威教會及同附屬病院一部掠奪

(上海ヨリ南京へ轉電アリタシ)

大臣、北平、上海、南京へ轉電アリタシ

720 昭和5年8月19日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛

王外交部長に対し長沙事件賠償要求方公文手

交について

機密公第一八三號 (8月29日接受)

昭和五年八月十九日

在支那

臨時代理公使 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

長沙事件ニ關スル件

本件ニ關シテハ八月十九日電報ノ通り八月十五日貴電御來

示ノ趣旨ニ依リ十八日日本官王外交部長ト會見ノ際別紙寫ノ  
通り公文ヲ手交シ置ケリ

尙右ニ關シ漢口總領事發閣下宛電報第三四七號ニ付テハ右  
ハ全總領事發閣下宛電報第三三六號ヲ訂正シ居ルモノナル  
處其ノ後報告ノ長沙發漢口宛電報第一〇一號ニハ右修正ト  
大体全趣旨ノ修正アリ(但シ載生昌ハ(三)ニ入レスシテ(二)  
入り居ルモ)タルニ付當方ニ於テハ右第一〇一號電報ニ依  
リ被害概況ヲ作製シタル次第ニ付御含ミ置テ請フ

本信寫送付先 漢口 長沙 南京 北平

(別紙)

外第三〇號

以書翰啓上致候。陳者、長沙ニ於ケル共產軍ノ暴動事件ニ  
關シテハ八月一日在本邦汪公使ハ幣原外務大臣ニ對シ又八  
月二日貴部長ハ本使ニ對シ遺憾ノ意ヲ表セラレ且國民政府  
ニ於テ之ガ責任ヲトルベク又將來邦人ノ保護ニ付テモ充分  
責任ヲ以テ當ルベキコトヲ述ベラレタル次第了承致候。

就テハ、長沙ニ於ケル帝國領事館及居留民ノ被害ニ關シテ  
ハ在長沙領事ヨリ不取敢別表ノ通り報告アリタルガ追テ損

害額ノ精算出來次第當方ヨリ更ニ申進スベキニ付直ニ之ヲ

賠償セララル様致度、此段照會得貴意候。敬具。

昭和五年八月十六日

日本帝國臨時代理公使 重光 葵

國民政府外交部長 王 正 廷 殿

(附表)

長沙事件日本側被害狀況調査表。

一、掠奪セラレタル後全部焼拂ハレタルモノ。

日本領事公館及附屬家屋。

二、掠奪ニ依リ全滅セルモノ。

日本領事館事務所及館内館員宿舍及附屬家屋。郊外日

本領事館員宿舍。同仁醫院。石井寫眞館。日豐洋行。

大石洋行(日本領事館警察官宿舍ヲ含ム)。鹽川洋行。

三井洋行事務所及社員宿舍。嘉泰洋行。一力料理店。

山本洋行。金融組合事務所。日本小學校及教員宿舍。

須山寫眞館。載生昌汽船局。

三、全部掠奪セラレタルモノ。

綿貫齒科醫分院。

四、過半掠奪セラレタルモノ。

杏林堂藥店。廣貫堂藥店。

五、一部掠奪セラレタルモノ。

海軍俱樂部及全事務所。薄洋行。日清汽船會社B倉庫

及全事務所。

721 昭和5年8月23日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

減水期における長沙の警備に関する米内司令

官の内話について

漢口 発

本省 8月23日前着

第三七四號(極秘)

長沙ニ於ケル英國領事館冬季撤廢ノ件ハ專ラ減水期中海軍  
カヲ以テスル警備ノ困難ヨリ(二分)へ來レル問題ニシテ右決定

ノ上ハ延テ同國居留民ノ殆ト全部モ恐ラク財産ノ管理ヲ相  
當支那人ニ託シ右期間同地ヲ引揚クルニ至ルヘキ處英國海  
軍司令官ハ曩ニ日本側ニ對シ英國軍艦ノ長沙冬營見合せ方  
考慮中ナル旨ヲ告ケ夫レトナク日本側ノ意向ヲ探リタルヲ

米内司令官ハ單ニ長沙ノ日本居留民ハ英國等ノ夫レト大イニ趣ヲ異ニスル爲引揚後各自財産ノ保全ヲ期シ難キ事情アリト述ヘ特ニ意見ノ交換ヲ行ハサリシ由ナルカ本官ト事務打合せノ際同司令官ハ減水期ニ於ケル長沙ノ警備ハ實ハ心配セハ際限ナキ問題ナルモ目下ノ形勢ヨリ見テ同地力近ク再ヒ大部隊ノ共匪軍ノ來襲ヲ受クヘシトモ思ハレサルニ付帝國軍艦力長沙ニ立往生ヲ演スルカ如キ危險ハ萬々ナカルヘク從テ必要ノ警備艦配置ハ行ヒ得ヘキモノト思考スルモ自分ヨリ進ンテ右様ノ意見ヲ具申スルコトハ憚カルヘキ點モアリ今ノ處差控ヘ居ル次第ナリト内話セリ内密御參考迄上海、長沙ヘ轉電セリ

722 昭和5年8月22日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長江方面における共産軍の來襲を未然に防ぎ得たのは領事館・海軍両方の連絡協調の結果との亜細亞局長宛報告

漢口 8月22日後発  
本省 8月23日前着

ニ於ケル米内司令官以下當地海軍側各員一致ノ努力ニ負フ所ノモノモ結局甚々鮮少ニアラスト存シ居ル次第付然ルヘク御含ミ置キヲ請フ

723 昭和5年8月23日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件賠償要求方に関する英国側態度について

上海 8月23日後発  
本省 8月23日後着

公第八四〇號  
廿一日「イングラム」南京ヨリ歸滬、來訪セルカ其ノ際本官ヨリ長沙事件ニ對スル英國側ノ態度ヲ參考ノ爲ニ尋ネタル處「イ」ノ説明左ノ通

英國側ノ損害ハ「ジャーデン」ノ「ハルク」以外ニハナキ模様ニテ比較的少額ナリ未タ本國政府ヨリ賠償要求ノ訓令ニ接シ居ラサルモ若シ長沙事件ニ限り賠償要求ヲナササレハ從來同様ノ場合ニ要求シテ未解決ノ儘ニナリ居ル分ニ惡影響ヲ及ホス虞アルヲ以テ英國政府ニ於テハ主義トシテモ要求スルモノト思フ尙今日迄奧地ニ於ケル宣教師ニ關スル

第三七五號(極秘)  
亞細亞局長ヘ左ノ通り

目下武漢ノ形勢ハ大部隊ノ共匪軍來襲ノ危險殆ト一掃セラレ略長沙事件以前ノ狀態ニ復歸セルモノト一應斷定シ得ヘキ處右ニ就テハ米内司令官モ大体同意見ニテ從テ近ク軍艦ノ各地配備振リニモ多少ノ變更ヲ見ルヘキモ司令部ハ尙引續キ暫ク當地ニ置カルル趣ナリ然ル處曩ニ當地支那側ノ兵備極度ニ手薄トナリ爲ニ當方面一帶鮮カラス内外ノ危險ニ當面シタル際我海軍側ニ於テハ危險ノ性質ニ照シ單ニ支那側警備力ノ充實ヲノミ待ツ能ハストシ急速完全ニ手配ヲ了シテ事態ノ急變ニ對應スルコトトシタル結果漸次支那側嚴重ノ警戒振リトモ相待ツテ内ニ暴動ノ突發ヲ見ルコトナク外ニ共匪軍ノ來襲ヲ未然ニ防キ得タリトモ云ヒ得ヘキノミナラス司令部トシテ事情ノ許ス限り常ニ領事館側ト聯絡協調ニ努メヨク本官ヲシテ一般在留民ノ動搖ヲ適宜抑制スルコトヲ得シメ殊ニ今日迄ノ所水杏林又ハヨウズイフン事件類似ノ事件ヲモ起サス少クトモ當地ニ關スル限り支那側官民ヨリ特ニ日本ニ對スル不快ノ言議ヲ聞クコトナカラシメシハ一面各種事情ノ好轉ニモ依ルヘシト雖モ他面其ノ間

損害ハ宣教師自身ヨリモ要求ナク未タ賠償要求ヲ爲シタルコトナシ(此ノ點ハ各國共同様)是迄要求セシ損害賠償ハ徒ニ要求ノ「リスト」ヲ重ネルニ止リ解決セルモノナシ唯南京事件ハ政治的ノ意味合ヲ含メテ解決セシ次第ナルカ之モ最近二ヶ月ハ約束通賠償金ノ拂込ヲナササルヲ以テ目下督促中ナリ  
右御參考迄  
北京、南京、漢口、長沙ニ轉電セリ

724 昭和5年8月24日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件損害額共同調査方に関し楊宣誠秘書と協議について長沙領事報告

漢口 8月24日後発  
本省 8月24日後着

第三八一號  
長沙發本官宛電報第一一二號  
大臣ヘ轉電アリタシ  
第八二號

省政府秘書楊宣誠廿一日漢口ヨリ歸任セルヲ以テ省政府側ニ於テハ長沙事件ニ關スル涉外事務ヲ楊ニ一任スルコトトナリタルニ付本官ハ廿三日楊ニ面會我方ノ損害額共同調査方ニ付協議シタル結果

(一)省政府ハ外交部ヨリ外國人側損害調査方ノ訓令ニ接シ居ルニ付テハ省政府ニ於テハ先ツ商埠警察所長ヲシテ我方被害者ノ各個ニ就キ損害額ヲ調査セシメ之ヲ審査ノ上外交部ニ報告スル等ニテ共同調査ノ形式ヲ採ルコトハ楊ノ立場上困難ナルモ右報告書ハ豫メ本官ニ提示スルモ差支ヘナシトテ共同調査ニ應セサルニ付本官ハ實質上共同調査ト等シク且ツ我方損害額ヲ確認セシムル手段トシテ商埠警察所長ノ調査ニハ便宜ヲ與ヘ審査ノ際我方ト内々共同査定ヲ行ヒ其ノ結果ヲ外交部ニ報告スルト共ニ同報告書寫ハ何健名義ノ公文ヲ以テ本官ニモ送付セラレタキ旨要求シタルニ楊ハ之ヲ承諾セリ

(二)外交部ヨリ周澤春派遣ノ件ハ楊ニ於テモ聞知シ居ルモ外交部ヨリ省政府ニ對シテハ未タ何等通知ナク同人ハ宜陽丸事件ノ際其ノ衝ニ當リ優柔不斷兎角責任ヲ回避セントスル傾アル人物ニ付同人ニ多クヲ期待シ得サルヘントノコトナ

支第九八一號(其一、二)

過般漢口ニ赴キタル英國陸軍ノ一部ハ數日前歸滬セシカ右ニ關シ當地英國陸軍駐在武官ノ語ル所ニヨレハ

一、漢口ノ陸兵撤退ノ表面的理由ハ僅少ノ兵力ヲ奧地ニ分割配置スルモ居留民保護上ノ効果少ク寧ロ上海ニ集結シ適時適所ニ使用スルニ遺憾ナカラシメントノ希望ニ依ルモノナルモ内面的ニハ陸海軍ノ感情問題アリテ漢口ハ海軍ノ警備範圍ナルニ此ノ困難ナル任務ヲ陸軍ニ負擔セシメントスルニ對スル反感カ今回撤兵トナレル主ナル理由ナリ

二、陸兵撤退後ノ漢口ノ警備ハ現在ノ一巡洋艦ノ外更ニ巡洋艦二隻ヲ増加派遣シテ之ヲ補フ管ニ付支障ナシ

三、漢口英國租界還附後英國居留民ノ保護ニ懸念スル向アルモ必要ノ場合英國ハ遠慮ナク旧租界ニ陸戰隊ヲ上陸セシムルコトトナリアリ之ニ對シ支那側モ文句ナカル可ク從ツテ租界還附ニ依リ居留民ノ保護上重大ナル缺陷ヲ生シタリトハ認メスト

英國ハ曩ニ長沙英國領事館ヲ減水期漢口ニ引揚クヘク聲明セシカ右談話ニモ表ハレアル如ク大体方針トシテ要卓ノミ

リ

(三)楊ハ歸任後直ニ省政府側ヨリ本官ニ對シ正式ニ見舞ヲ爲シタルヤ否ヤヲ秘書長ニ質シタルニ未タ爲シ居ラストノコトニ付何健力瀏陽ヨリ歸來後何自身參上スルヲ適當ト認メ右ニ決セル趣ニテ其ノ不行届ノ點ニ付本官ノ諒解ヲ求メ打明ケ話トシテ省政府側要人連ハ國際禮儀ニ何等經驗ナキ手合許リニテ自分(楊)ヨリ尋ネラレ始メテ氣付キン様ノ始末ナリト語レリ

上海、北平、南京へ轉電アリタシ

725 昭和5年8月26日

在上海佐藤公使館付武官より  
岡本(連一)参謀次長宛(電報)

漢口警備の英國陸兵が上海に撤退した理由に  
關する同國駐在武官談話について

陸同文 昭和五、八、二七

電報 八、二六、後六、〇〇廢  
八、〇〇著

上海公使館附武官

参謀次長宛

ヲ警備スル消極的自衛策ノ範圍ヲ出テサルモノト察セラル

関東、北平、天津、スミ

726 昭和5年8月27日

在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙事件被害状況実地検分に関する中国側代  
表派遣につき長沙領事報告

漢口 8月27日後発

本省 8月27日後着

第三九〇號

長沙發本官宛電報第一一六號

大臣へ轉電アリタシ

第八三號

漢口發閣下宛電報第三五七號ノ(四)ニ關シ

支那側ノ公文ヲ取付クル爲金壯春ト協議ノ上(當時楊宣誠ハ復歸セス)本官ヨリ八月六日附ニテ何健宛共匪軍ノ長沙占領ニ依リ我方財産上ノ損失甚大ナルモノ有之ルニ付テハ不取敢被害状況實地検分ノ爲館員福間ヲ派スルニ付貴省政府ヨリ特ニ責任アル代表者ヲ任命シ同人ト共同調査ヲ行ハ

シメラレタキ趣旨ノ公文ヲ送リタルニ對シ何健ヨリ八月廿三日附ヲ以テ大要共匪ノ長沙進城ニ依リ日本領事館及在留日本人カ何レモ其ノ損害ヲ受ケタルハ本主席ノ誠ニ遺憾トスル處ニ有之貴領事御面述ノ次第二依リ省政府職員金壯春ヲ指名派遣シ貴館員福岡氏ト立會逐一實地檢分セシメ且其ノ檢分書ヲ持チ歸リ保存シ居ル旨回答シ來リタルニ付テハ本件調査ハ充分確認セラレタル次第ナリ尙公文ハ郵送ス上海、北平、南京へ轉電アリタシ

727 昭和5年8月27日

在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

共産党軍の討伐は正規の戦争よりも遙に困難なる旨の何応欽談話について

漢口 8月27日後発

本省 8月27日後着

第三九三號

八月廿六日夜宴會ノ席上何應欽ト會談中本官ヨリ豫テ當地ニ避難シ居タル長沙邦人婦女子等漸ク歸還ノ途ニ就キ未タ上陸モセサル内急ニ同地方面再ヒ動搖ノ報ヲ受ケ本官ニ於

減水期間における領事館および軍艦の長沙引揚げに關し英國領事内話につき長沙領事電報

漢口 8月30日後発

本省 8月30日後着

第三九九號

長沙發本官宛電報第一二三號

往電第一〇二號ニ關シ

廿九日英國領事ハ本官ニ對シ減水期間中同國領事館及軍艦ノ長沙引揚ニ付テハ既ニ公使及司令官ニ於テ意見ノ合致ヲ見(本國政府ヨリハ何等訓令ナキモ別ニ異存ナシト認ム)期日ニ關係ナク軍艦ノ碇泊不可能トナルトキヨリ之ヲ實行スルコトニ決定シタルヲ以テ右ノ場合ハ自國在留民ニ對シ極力引揚方ヲ勸告スル筈ナリト内話セリ  
大臣、上海、南京、北平へ轉電アリタシ

729 昭和5年9月5日

在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

沙市に進攻の共産党軍は規模小にして漸次撃退される見込みについて

テモ大イニ心痛シ居ル次第ナルカ實情如何ト尋ネタル處何ハ共匪軍ノ討伐ハ實際上正規ノ戦争ヨリモ遙ニ困難ニシテ何分ニモ地方ニ深入リスレハスル程農民ニシテ共匪ニ利用セラル居ルモノ多ク右ハ平生之力見分ケ付カサル爲取締容易ナラサルノミナラス何レモ拳銃彈藥ノ供給ヲ受ケ時ニハ不意ニ多數集合シテ後方ヨリ聯絡部隊ヲ脅ス事サヘアリ之カ爲瀏陽ハ地理上甚タ支持ニ困難ヲ感スル結果何健モ一時同地ヲ放棄シ戰線ヲ短縮シテ共匪軍ヲ引寄せセントシ居ルモノナリト答ヘタルカ本官ヨリ重ネテ長沙カ再ヒ共匪軍ノ手ニ歸シ爲ニ邦人ノ生命財産ニ此ノ上ノ危險損害ヲ蒙ル事ナキ様充分盡力アリタシト述ヘタルニ何ハ同方面ニ對シテハ相當注意シ居レルモ何健ヨリ今以テ援兵ヲ依頼シ來ラサル位ニ付長沙自体ハ今ノ處安全ト考ヘ居ル旨答ヘタリ右御參考迄  
上海、北平、南京、長沙、九江、宜昌、沙市、廣東へ轉電セリ

728 昭和5年8月30日

在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口 9月5日後発  
本省 9月6日前着

第四二一號

四日沙市發海軍電報ニ依レハ同地ニ於テハ同日正午頃ヨリ岑河口(沙市ノ東南約四里)ニ共匪出現漸次沙市ニ向ヒ進ミツアリトノ情報傳ハリ市中動搖シ午後五時英人三、米人四及邦人全部軍艦熱海ニ避難スルニ至リシカ右共匪ハ約一、二千ニシテ格別有力部隊ニアラス守備軍ノ爲漸次撃退サレツツアルヲ以テ間モナク平靜ニ歸スル見込ナル趣ナリ  
目下同地ト當地トノ間支那電信延着勝ニ付右爲念  
上海、北平、南京へ轉電セリ

730 昭和5年9月6日

在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

周沢春が湖南視察專員に任命されても省政府は既定方針により調査するとの楊秘書談につき長沙領事報告

漢口 9月6日後発  
本省 9月6日後着

第四二六號

長沙發本官宛電報第一三五號

大臣へ轉電アリタシ

第八五號

本官發漢口宛電報第一一九號及第一二五號ニ關シ  
周澤春ハ一日當地ニ到着セル趣ニテ三日附ヲ以テ何健ヨリ  
外交部ハ李芳ノ後任トシテ周澤春ヲ湖南視察專員ニ任命セ  
ル旨通知越シアリタル處四日楊宣誠ノ語ル處ニ依レハ周ハ  
五省視察員トシテ來長セルモノニテ外人側ノ損害調査ニ付  
テハ何等命令ヲ受ケ居ラサルカ省政府ノ調査ノ寫ヲ持歸リ  
テモ差支ナシト稱シ責任ヲ回避シ居ルニ付テハ省政府ニ於  
テハ外交部ニ照會スル迄モナク既定方針ニ依リ調査シ外交  
部ニ正式ニ報告シ周ニハ寫ヲ交付スヘシトノコトナリ就テ  
ハ本件調査ハ時局惡化ノ爲邦人ハ海軍集會所ニ避難シ居ル  
様ノ状態ニテ一頓挫ヲ來シ居ルモ本官ハ往電第八二號ノ趣  
旨ニ基キ成ルヘク速ニ損害額ヲ調査スヘク楊トノ間ニ折角  
諒解ヲ遂ケ居レリ  
上海、北平、南京へ轉電アリタシ

在支那

臨時代理公使 重光 葵殿

九江居留民保護及南潯鐵道保全方ニ關スル外交部回答  
文轉達ノ件

本件ニ關スル外交部宛八月十四日附公使館公文ハ同月十六  
日同部へ轉達濟ノ次第同月十六日附拙信機密公第二六八號  
ヲ以テ及報告置タル處右ニ關シ外交部ヨリ本月十日附公使  
館宛公文ヲ以テ別紙ノ通回答アリタルニ付右轉達ス御查收  
相成度

本信寫送付先 大臣 上海 北平 漢口 九江

(別紙)

逕復者准八月十四日外第二七號

貴函内開據報朱毛共產軍正謀襲擊南昌九江各地請増派警備  
隊保護日僑等因當經本部電請江西省政府核辦去後茲准復稱  
南潯防務鞏固現三省正會商剿匪不日當可肅清除電請討逆軍  
第九路總指揮部轉飭沿路駐軍對於僑民妥爲保護外電復查照  
等因相應函復即請查照爲荷順頌  
日社

六 中国政情關係

731 昭和5年9月11日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛

九江在留民保護および南潯鐵道保全方に関する  
外交部回答文轉達について

機密送第六三六號

(9月20日接受)

昭和五年九月十一日

在南京

領事 上村 伸一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年九月十一日附機密公第三一三號 重光代理公使宛

公信寫送付

件名

一、九江居留民保護及南潯鐵道保全方ニ關スル外交部回答

文轉達ノ件

機密公第三一三號

昭和五年九月十一日

在南京

領事 上村 伸一

十九年九月十日

外交部啓

(譯文)

昭和五年九月十日

外交部

日本公使館宛

拜復陳者本年八月十四日附外第二七號貴信ヲ以テ朱毛共產  
軍正ニ南昌九江各地ヲ襲擊セムト計畫シツ、アル趣ヲ以テ  
邦人保護ノ爲警備隊増派方御照會ノ次第ニ依リ直チニ當部  
ヨリ江西省政府ニ對シ右辦理方電報致置候處今般同省政府  
ヨリ南昌九江ハ防備鞏固ニシテ現ニ三省ニ於テ聯合討伐中  
ナルニ付不日肅清スヘキモ不取敢討逆軍第九路總指揮部ニ  
對シ沿道駐防部隊ヲシテ在留外人ヲ保護セシムル様電請致  
置タル旨回報有之候條右ニ御諒知相成度此段答復得貴意候

敬具

732 昭和5年9月15日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

至急損害額調査方を要求の際周沢春曖昧な応答振りにつき長沙領事報告

漢口 9月15日後発  
本省 9月15日後着

第四四六號

長沙發本官宛電報第一四四號

大臣へ轉電アリタシ

第八八號

往電第八五號ニ關シ

省政府側ニ於テハ周澤春ハ一兩日中ニ各國領事ヲ訪問スヘシト稱シ居タルニ付周ノ來訪ヲ期待セシモ其ノ後數日ヲ經音沙汰ナキヲ以テ本官ハ周二直接會見ヲ申入レタル處周ハ漸ク十二日來訪シ條約委員會委員等ヲ兼ネ公務多忙ノ故ヲ以テ來訪遅延ヲ託ヒ同省視察員タル以上外人損害額ノ調査ハ其ノ範圍内ニシテ何レ之カ解決方法ヲ講スヘシト稱シタルニ付本官ハ至急右調査方ヲ要求シ出來得ル限り之カ便宜ヲ與フモ我方トシテハ周、楊宣誠等ト共同調査ヲ爲スコトハ本件解決上便宜ナル次第ヲ提議シタルニ周ハ近々漢口ニ赴クニ付其ノ餘裕ナシトテ之ニ應セス然ラハ日本領事館始

ハ在留民ニ損害額申告書提出方ヲ督勵シ之カ完了ニ付努力焦慮中ナリ

上海、北平、南京へ轉電セリ

733 昭和5年9月16日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側の我が艦船射撃事件に対して今後一括抗議方法を探りたきことについて

漢口 発  
本省 9月16日後着

第四四九號

從來當地ヲ中心トシ主トシテ上流ヲ上下スル日本艦船ニ對スル陸上ヨリノ射撃ニ關シ當館ニ於テハ其ノ實被害ノ有無ニ拘ラス正規軍ノ暴行ノ場合ハ勿論匪賊ノ暴行ト認メラルル場合ニ於テモ其ノ都度聊カ形式的ノ嫌アルモ當地軍憲ニ對シ抗議ヲ提出シ將來ノ取締要求ヲ繰返シ居タル處近來此ノ種暴行ハ程度ノ差コソアレ各艦船殆ト之ヲ受ケサルコトナシト云フヘキ狀況ニシテ而モ右ハ漸次下流方面ニモ波及シツアル次第ハ屢次ノ報告ノ通ナル爲當館トシテハ其ノ

メ我方ノ被害狀況ヲ檢分セリヤト質セルニ周ハ領事館前ヲ汽船ニテ通過セリト答ヘタルニ付南京新聞所載周ノ報告記事(南京發閣下宛電報第六六一號)ニ就キ質問シタル處周ハ外交部ニ對シ斯ル電報ヲ發シタルコトナシトテ極力之ヲ否認シタリ依テ本官ハ我領事館丈ニテモ本官同道實地ニ檢分シテハ如何ト勸メタルニ既ニ檢分セリト誤魔化ス等更ニ要領ヲ得ス全ク誠意ナキニ依リ本官ハ本件調査ハ省政府ニ一任セラレル次第ナルヤト問ヒタルニ右ニテ差支ナカルヘシト曖昧ナル應待ヲ爲セリ本官ハ翌十三日楊宣誠ヲ往訪シ周トノ會見顛末ヲ語リタルニ楊ハ再三周ニ對シ各國領事ヲ訪問スル様勸メタルモ要領ヲ得ス周ハ領事館其ノ他ヲ檢分シタルコトナク且何等本件ノ調査ヲ爲サス省政府側調査ノ寫ヲ携行シ自己ノ調査トシテ報告セントノ腹ナルカ如ク看取セラレ周ノ外交部宛電報ハ一切省政府ヲ通シ打電シ居ルニ付内容ヲ知悉シ居ルカ右新聞記事ノ如キ報告ヲ爲シタル事實ナシ之ヲ要スルニ外交部ハ何故ニ精神病者ノ如キ周ヲ派遣セルヤ腑ニ落チスト語レリ尙楊ハ九月廿五日頃迄ニ省政府秘書ヲ辭シ武漢大學ニ教鞭ヲ執ルコトニ決定シ赴任前ニ既定方針通本件調査(一)完了ノ意嚮ナリトノコトニ付本官

都度一々抗議等ノ煩ニ堪ヘス其ノ效力モ亦頗ル疑ハシキモノアルニ付テハ今後ハ特ニ被害アリシ場合ハ別トシ然ラサル限り適當ノ機會ニ取纏メ一括抗議スル等ノ方法ニ依リ之カ改善方法ヲ計リ度キ考ヘナルニ依リ右御含置アリタシ

北平、上海、南京へ轉電セリ

734 昭和5年9月19日 幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

長沙在留民の冬季減水期間保護に関する海軍側意向について

付記 九月十七日垂細亜局第二課  
「帝國海軍ノ長沙冬營ニ關スル件」  
本省 9月19日後7時15分發

公第三五八號

減水期間ニ於ケル長沙在留民保護問題ニ付テハ漢口發長沙宛電報第一五五号ノ次第モアリ同地警備ニ関スル海軍省側ノ意向ヲ尋ネタルニ右ニ付テハ何レ米内司令官ヨリ諄訓アルヘキモ同省トシテハ差當リ毎年ノ慣例ヲ破リ冬營ヲ中止スルノ意向無キ趣ナル處當方ニ於テハ海軍側ノ意向右ノ如

ク且ツ減水期間ニ於ケル交通状態ニシテ前記漢口總領事電報ノ如クナルニ於テハ在留民ノ引揚ノ如キハ成ル可ク之ヲ避ケ度キ考ナリ尤モ本件ハ主トシテ遣外艦隊ノ警備方針ヲ基礎トシテ決定スルノ必要アルニ付貴官ハ至急米内司令官ト協議セラレ結果貴見ト共ニ回電アリタシ

南京、北平、漢口へ轉電シ漢口ヨリ長沙へ轉電セシメラレタシ

(付記)

帝國海軍ノ長沙冬營ニ関スル件

亞細亞局第二課

本件ニ関シ海軍省事務局田結中佐ノ談話左ノ如シ

一、帝國海軍ノ長沙冬營ハ毎年行ヒ来レル所ニシテ本年ハ長沙減水ハ例年ヨリ多キ模様ナルモ若シ冬營ヲ廢止スルカ如キコトアラハ重慶、宜昌、沙市等ニモ影響ヲ及スノミナラス將來之ヲ復活スル場合ニハ支那側ヨリ難癖ヲ付ケルコト必然タルヘク且又事海軍ノ威嚴ニモ係ル問題ナルニモ顧ミ海軍側トシテハ差当リ冬營ヲ廢止スル意向ナシ

支那共產土匪軍ノ外國軍艦砲撃問題ニ對スル米國國務省側意向ニ關スル通信記事報告ノ件

華府一通信社ハ九月十八日附ヲ以テ同月十六日米國在支警備艦「ルソン」カ楊子江沿岸武穴附近ニ於テ共產軍ノ砲撃ヲ受ケタル爲之ニ應射セル旨ノ國務省發表ヲ報スルト共ニ共產軍跳梁對策ニ關スル國務長官ノ意向トシテ左ノ通報道セリ

米國政府トシテハ共產軍ノ外國艦船砲撃問題ニ付他ノ關係國政府ト共同動作ヲナス方針ヲトリ居ラス從テ本問題ニ關シ此等諸國ト協議ヲ行ヒタルコトナキ處本問題對策トシテハ既ニ支那政府カ共產軍ヲ抑壓シ得サル以上同政府ニ對シ抗議スルモ事實上得ル所無カルヘク又外國船ノ楊子江ノ航行ヲ停止スヘシトノ説時ニ行ハルルモ客年試ニ宜昌上游航行ヲ停止セル結果ニ徴スルニ右ノ方法ハ適當ナラサルカ如シ更ニ共產軍カ大小幾多ノ集團ヨリ成リ機ヲ見テ砲撃又ハ掠奪ヲナシ轉々移動シテ正面衝突ヲ回避シ居ルニ顧ミ外國軍艦ヨリ兵ヲ上陸セシメテ之ヲ追跡セシムルカ如キハ實行不可能トイフヘク楊子江兩岸ヲ占領スルカ如キ企ニ至リテハ支那主權侵害問題ハ別トスルモ其ノ極メテ困難ナルコト

一、海軍側方針ハ何レ十月下旬決定サルヘク且又本件ニ付テハ部長會議ニ於テ海軍省事務局長ヨリ外務省亞細亞局長ニ御話アル筈ナリ

一、長沙冬營ハ例年行ヒ来レル所ナルカ故ニ遣外艦隊司令官一存ニテ変更スル譯ニハ行カサルヘク変更スル場合ニハ一應海軍本省ニ請訓シ来ルヘシ

一、冬營スルトセハ砲艦隅田(乗員四十名)カ碇泊スルコトトナリ居レリ

以上

(昭五、九、十七)

735 昭和5年9月19日

在米國出淵大使より  
幣原外務大臣宛

中國共產軍の外國軍艦砲撃問題に對する米國國務省の意向について

普通公第五〇五號

(10月18日接受)

昭和五年九月十九日

在米

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

列國ノ認メ居ル所ナリ上記ノ事情ヨリセハ外國軍艦カ砲撃ヲ受ケタル場合ニハ之ニ應射シ自國民ノ生命財産ヲ保護スル必要アル場合ニノミ兵ヲ上陸セシムルニ止ムルノ外ナカルヘシ

本信寫送付先 在英大使

736 昭和5年9月20日

在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

その後の情勢緩和により冬季減水期の長沙引揚げ未決定との英國公使説明について

上海 9月20日後発

本省 9月20日後着

公第九一九號

長沙發漢口宛電報第一二三號及漢口發長沙宛電報第一五五號ニ關シ十七日「ランブソン」ニ面會ノ節同公使ハ曩ニ英國人長沙引揚ニ決シタル様報道サレタルカ右報道ハ當時「ジャーデイン」カ長沙ノ不安繼續ヲ豫想シテ引揚ヲ考慮シ居リタルコト及英國海軍司令官カ冬季減水中長沙ニ砲艦ヲ孤立ニ殘シ置クコトノ危険ナルヲ考慮シ居リタルコト等

ヲ訛傳シタルモノナリ自分ハ英國人カ引揚クルヤ否ヤハ其ノ後ノ狀況ニ依リ決定スヘキモノト考ヘ居タリシカ今日ハ危險モ相當去リタル様ニモ考ヘ居ル次第ニシテ未タ引揚ニ決定シ居ルカ如キコトナシト説明セリ  
(漢口ヨリ長沙へ轉電アリタシ)

長沙、漢口、北平、南京へ轉電セリ

737 昭和5年9月21日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

長江一帯における共産党活動状況に関する桑島參事官調査報告

上海 9月21日後発  
本省 9月21日後着

公第九二二號

桑島參事官ヨリ左ノ通

中國共産黨運動發祥地ト目セララルル南方支那ノ視察ヲ了セサルヲ以テ同運動ニ關シ全般の結論ヲ得ルニ至ラサルモ長江一帯視察ノ結果左ノ觀察ヲ得タリ

一、在來ノ土匪ニシテ便宜紅旗ヲ掲ケ紅軍ヲ僭稱スルモノ

ヲ得ヘシ

二、紅軍ハ其ノ兵力及武器共ニ充分ナラス且軍隊相互間ノ聯絡不完全ナルモノノ如ク爲ニ其ノ行動ハ多ク突發的且奇襲のニシテ都市占領後數日ナラスシテ之ヲ放棄ス從テ其ノ樹立スル「ソビエト」政府ナルモノハ極メテ短キ存在ヲ有スルニ過キササルヲ以テ所謂「ソビエト」區域ナルモノモ有名無實ナル場合甚タ多シ唯江西省ノ東南部地方、湖南省ノ西南部地方等ハ紅軍ノ根據地ニシテ其ノ占領期間モ長ク從テ是等地方ニ樹立セラレタル「ソビエト」政府ハ基礎相當鞏固ニシテ施政又稍見ルヘキモノアルカ如シ殊ニ土地ノ沒收及分配、債權ノ破棄、工農兵代表會議ノ召集、「ソビエト」委員ノ選出、無產者本位ノ金融及教育機關ノ設立等ハ既ニ實行シ居ル趣ナリ

三、紅軍ト「コミンテルン」トノ間ニ關係アリヤ否ヤハ的確ナル資料ナキヲ以テ之ヲ知ルニ由ナキモ(イ)「コミンテルン」支部トシテ其ノ直接指導下ニアル中國共産黨カ紅軍ニ政治委員ヲ派遣シテ之ヲ指導シツツアルコト

(ロ)過般紅軍カ長沙ヲ占領シタル際同軍兵士ニシテ蘇聯邦ノ銀貨ヲ使用シタルモノアルコト(本官之ヲ入手セリ)(ハ)江

ヲ除キ正規ノ紅軍殊ニ朱毛、彭德懷等ノ軍隊ハ相當ノ訓練ト組織トヲ有シ或ル程度迄ハ一定ノ主義方針ノ下ニ行動シ居ルモノノ如ク之ヲ長沙其ノ他各地ノ占領狀況、占領地ニ於ケル治安維持及其ノ施設等ニ觀ルモ必スシモ單ナル土匪ノ行動ト看ラレサル節アリ素ヨリ都市ノ占領ト共ニ官衙、銀行、外國企業等ハ直ニ之ヲ破壊又ハ掠奪シ富豪乃至高級官吏等ハ之ヲ殺戮又ハ追放スルヲ常トスルモ之レ紅軍カ其ノ「スローガン」トスル軍閥及國民黨打倒、帝國主義反對土豪劣紳膺懲等ヲ實行シタルモノト觀ルヲ得ヘク必スシモ匪賊ノ暴動ト觀ルヲ得サルカ如シ殊ニ紅軍カ一般中産及無産階級ニ對シテハ殆ト手ヲ觸レ居ラサルニ徴スルモ明カナリ加之紅軍ハ占領ト同時ニ米價ヲ引下ケ或ハ米穀ヲ廉賣シ或ハ銅貨ノ銀貨ニ對スル換算率ヲ變更シテ積極的ニ無産階級ノ利益ヲ計ルト共ニ

勞働法ノ制定、工會ノ組織等ニ依リテ勞働者ノ組織化ヲ計畫スル場合甚タ多シ素ヨリ勞働法ノ制定、工會ノ組織等ハ紅軍ノ都市占領期間短キカ爲有名無實ニ終ルコト屢々ナルモ少クトモ前記事實ニ依リ彼等カ或ル程度ニ於テ一定ノ主義方針ノ下ニ行動シ又ハセントシツツアルコトヲ推斷スル

西省吉安附近ノ紅軍彈藥製造廠ニハ現ニ蘇聯邦人技師數名招聘セラレ居ル趣ナルコト等ニ依リ兩者間ニ或ル程度ノ關係存在シ居ルコトハ略之ヲ推定シ得ルカ如シ

四、次ニ紅軍ノ活動力經濟上ニ齎ラシタル影響ヲ見ルニ(イ)農村ニ於ケル土地法制ノ急激ナル變化富農ノ追放及財産ノ沒收一般農民ノ不安等ノ爲農産物ノ出廻リ甚シク不良トナリ湖北省漢水一帯ノ棉花及武穴地方ノ麻、江西省ノ米穀等ハ今年度ハ豐作ナルニモ拘ラス出荷例年ニ比シ著シク減少シタル趣ナリ(ロ)奥地ノ危險ハ地方ノ富農豪商等ヲ驅ツテ漢口又ハ上海ノ租界地ニ集合セシメツツアリ此ノ事態ニシテ今後永續スルニ於テハ地方ノ經濟ハ自然萎微シ前記兩地殊ニ上海ノ長江經濟界ニ於テ占ムル重要性ハ益々増加スルニアラスヤト思料セラル(ハ)且ツ江西省西南部地方ヲ活動區域トスル紅軍第三及第四軍ハ目下第五軍ノ長沙攻撃援助ノ爲湖南省ニ赴キ居リ爲ニ江西省ハ稍小康ヲ保チ居レルカ如キモ若シ長沙ノ陷落其ノ他ノ理由ニ依リ前記兩軍江西省ニ歸還スルニ至ラハ彼等ハ必スヤ南昌攻撃ノ舉ニ出ツヘク若シ同地ニシテ陷落センカ南潯鐵道ハ共匪ノ占領スル所トナルヘシ

五、紅軍ノ將來如何ハ極メテ重大ナル問題ニシテ今遽ニ逆  
睹スル能ハサル處ナルカ大体外面的ニハ中央政府ノ討伐如  
何内面的ニハ紅軍今後ノ行動如何ニカカルモノト考察セラ  
ル即チ中央政府ニシテ今後モ尙強力ナル軍隊ヲ派遣セス紅  
軍ノ討伐ヲ現状ニ止ムルニ於テハ共匪ノ剿滅ハ到底不可能  
ナルヘキノミナラス紅軍ハ其ノ占領區域ノ赤化ニ極力努メ  
ツツアルヲ以テ其ノ占領力永引ケハ永引ク程其ノ討伐ハ益々  
困難ナルヘシ次ニ紅軍幹部及共產黨派遣ノ政治委員等ハ常  
ニ盲動主義ヲ戒メ建設的事業ニ精進シツツアルモ部下ノ兵  
士中ニハ動モスレハ其ノ命ヲ奉セス所謂「テロリズム」ニ  
墮セントスルモノアリ紅軍ニシテヨク統制ト規律トヲ保持  
シ且ツ建設の方面ニ於テ相當ノ效果ヲ舉クルヲ得ハ或ル程  
度ニ於テ無産階級ノ支持ヲ贏チ得ルニ至ルヘク之ニ反シテ  
民衆ニ臨ムニ單ナル「テロリズム」ヲ以テシテ其ノ行動一  
般土匪ト異ナラサルニ至ラハ爲ニ一般民衆ノ反感ヲ買ヒ紅  
軍ハ自然其ノ勢力ヲ失墜スルニ至ルヘシ

今ヤ長江一帯ニ於ケル紅軍ノ活動ハ一進一退ニシテ暫ク事  
態ノ推移ヲ靜視セスンハ其ノ將來ヲ豫斷スル能ハスト雖紅  
軍ノ跳梁力前述ノ如ク各方面ニ多大ノ影響ヲ齎ラシツツア  
下流ニモ最減水期間通航困難ナル場所アルモ右兩地點  
間ハ相當ノ水面アリ活動ノ自由モ幾分アルニ付萬一ノ  
場合ニモ大ナル困難ヲ感セサルヘシトノコトナリ

二、海軍側ノ意向前記ノ通ニテモアリ且亦長沙方面ノ形勢  
並ニ一般政局緩和シ來レル最近ノ狀況ニモ顧ミ今日迄  
ノ處長沙居留民ニ對シ冬季引揚ノ如キ非常處置ヲ取ル  
ノ必要ナク常時ノ通現地居残りヲ希望スルモノハ其ノ  
意ニ任セ然ルヘク從テ領事館モ引續キ踏止マラシムル  
方針ニテ進ムコト然ルヘシト存ス

北平、南京、漢口へ轉電セリ

昭和5年9月22日  
在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

周沢春携行の損害調査内容極めて杜撰なる旨  
の長沙領事報告

漢口 9月22日後発  
本省 9月23日後着

第四六〇號  
長沙發本官宛電報第一四九號ノ一

ル事態ニ鑑ミ帝國ハ常ニ其ノ行動ニ相當注意スルノ要アリ  
ト認メラル

738 昭和5年9月22日  
在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙在留民保護に関し米内司令官と協議について

上海 9月22日後発  
本省 9月22日後着

公第九二五號  
貴電公第三五八號ニ關シ

一、米内司令官ト協議セル處同司令官ハ長沙居留民保護ノ  
公案トシテ隅田ヲ長沙ニ置キ小鷹ヲ之ニ配シ置クコト  
トシ度ク又岳州ニモ一砲艦(堅田)ヲ置キ聯絡ヲ執ル  
コトトシ度意向ナリ尙最減水期ニハ(大体一月中ノ見  
込)隅田ハ三週間位又小鷹ハ二週間位三汊磯下流ニ下  
ルノ必要アルヘク長沙ト民船ニテ聯絡セシムルコトト  
セハ(右三汊磯下流ト長沙トノ間ハ約七哩ニテ民船ニ  
テ約一時間ヲ要スヘシトノコトナリ)大体保護ノ目的  
ヲ達シ得ヘシトノ意見ナリ尙三汊磯下流碇泊地點ヨリ

外務大臣へ轉電アリタシ  
第九〇號ノ一(廿一日後)

(一)周澤春ハ來長後往電第八八號ノ通我方ニ對シ不得要領ノ  
態度ヲ取り又省政府側トモ何等打合せヲ爲サスシテ省政  
府ノ命ニ依リ公安局ニテ調査セル曖昧ナル損害額調査表  
ヲ直接同局ヨリ入手シテ十三日漢口ニ赴キタル旨十四日  
楊宣誠ヨリ福間書記生ニ内話アリタルヲ以テ本官ハ十六  
日楊ヲ往訪シ周ノ携行セル公安局ノ調査表ノ提示ヲ求メ  
一覽セルニ内容極メテ杜撰ニシテ同表中ニハ被害外人不  
在ノ爲調査ニ由ナシトテ損害額ヲ明記セサルモノ多ク明  
記セルモノノ内ニハ實際額ヨリ多額ヲ計上セルモノモア  
ルカ大體ニ於テ極メテ少額ヲ計上シ當館ノ如キ損害額僅  
ニ四千圓ト記入シアリタルニ付本官ハ當館ノ損害額ハ本  
省トモ照會シ詳細調査中ニテ的確ナル額ハ未タ不明ナル  
カ恐ラク二三萬圓ニ達スル見込ナリト述ヘタルニ楊ハ素  
ヨリ自分モ斯ル少額ナリトハ信セサリシヲ以テ周二對シ  
該調査ハ確實ナラス尙調査中ニ付確實ナル調査表ヲ携行  
スル様勸メタルニ周ハ夫レヲ待ツ餘裕ナク詳細ハ追報ア  
リタシト稱シ倉皇トシテ當地ヲ出發セリト語レリ依テ本

官ハ該調査ノ不確實ナルコト並右當館ノ損害見積額ノ不當ナルコトヲ外交部ニ報告アリタキ旨ヲ述ハタルニ楊ハ之ヲ承諾シタルカ同日何健<sup>(一)</sup>名義ヲ以テ外交部宛該調査ノ確實ナラサルコト及同調査表ニ當館ノ損害見積額約二三萬圓ト註釋ヲ附シ外交部ニ送付シタル趣ニテ(周ノ携行セル右公安局調査表ハ楊カ秘カニ内示シタルヲ以テ之ヲ寫取レリ)又被害状況ニ關シ外交部ニ對シテハ檢分調査ヲ送付セサルモ同調査ノ内容ト同様ノ事實ヲ詳細報告セリトノコトナリ(共同檢分調査作成ニ付漢口ノ一漢字紙ハ省當局ノ無能振ヲ攻撃シタルヲ以テ右ノ如ク取計ヒタルモノノ如シ)

(二)尙楊宣誠ハ極秘トシテ拙電第八二號ノ(一)ノ通在留邦人ニ付調査シタル損害額ハ審査ノ上外交部ニ報告スル筈ナリシ處外交部ニ於テハ見舞金ヲ以テ損害賠償ニ代ヘントスル意向ナリト信スヘキ理由アリ從テ右損害額ニシテ大體妥當ト思ハルルニ於テハ査定ヲ爲サス送付スヘク且外交部ニ於テハ恐ラク此ノ上再調査乃至共同調査ニ付申越スコト萬無之見込ナリ英米其ノ他外人側ヨリハ損害額ニ關シ何等申出ナキノミナラス此等在留民ニ付取調フルモ之

誠ト協議ヲ重ネタル結果楊ハ本官ヨリ公文ヲ以テ審査會ノ審査ヲ經タルモノナル事ヲ明記シ一件書類ヲ省政府ニ送付セラルルニ於テハ外交部ニ對スル報告並ニ本官ニ對スル回答上好都合ナリト申出タルニ付更ニ復文ニ付商議ヲ遂ケタル上

(イ)本官ヨリ何健<sup>(一)</sup>ニ宛十七日附ヲ以テ當地公安局ハ貴省政府ヨリ共匪問題ニ關スル日本側ノ損害額ヲ各戸ニ付調査スヘキ旨命セラレタル趣ヲ以テ在留邦人方へ職員ヲ派セラレタルニ付テハ在留被害邦人ニ對シ貴方ニ於テ作成セラレタル調査表ニ夫々記入提出セシメタルカ尙當館備品等ハ一部價格不明ノ分有り目下外務省ニ照會中ニ付回答ヲ得判明次第追報スヘシトテ當館ノ損害額ヲ留保シ目錄通り館員初メ被害邦人ノ損害額表及其ノ明細書ヲ送付スルニ付査證アリタク右損害額ハ提出前我方ニ於テ民會議員ヲ指名シテ審査委員會ヲ設ケ館員立會ノ上一應審査シタルモノナルニ付查明ノ上然ルヘク取計アリタシトノ趣旨ヲ公文ニ該調査表及明細書(支那側ニ送付ノ分)ヲ添付送付シタルニ對シ

長沙發本官宛電報

ニ應セスト内話セリ  
(當地英國領事モ各戸ヨリ届出無ク損害額ノ調査未了ナリト語レリ)

長沙發本官宛電報

第一四九號ノ二

大臣へ轉電アリタシ

第九〇號ノ二

(三)一方共匪軍ノ再襲ニ依リ遲延シ居タル在留邦人ノ損害申告ハ拙電第八八號末段ノ通楊カ漢口ニ赴カサル以前ニ取纏ムルヲ得策ト思考シ極力督促ノ結果漸ク出揃ヒタルヲ以テ本官ハ當地民會議員ヲ審査委員ニ指名シ館員立會ノ上之ヲ審査シ訂正ノ分ヲ提出セシメタルカ當初省政府ニ於テハ審査ヲ行フ意嚮ナリシニ依リ交渉ノ餘地ヲ殘ス爲別ニ支那側ニ送付ノ分トシテ右審査訂正ノ分ニ二割内外ヲ加ヘタル額ヲ明細書及省政府側作成ノ在留外人損害調査表ニ記入シ當館ニ提出シタル處外交部側ニテハ前顯ノ如ク見舞金ヲ以テ解決セムトノ意嚮ナルニ鑑ミ該調査表(支那側ニ送付ノ分)各一部ハ在留民ヲシテ商埠警察署其ノ他所管警察署經由公安局ニ提出セシムルト共ニ楊宣

第一四九號ノ三

大臣へ轉電アリタシ

第九〇號ノ三

(四)何健<sup>(一)</sup>ヨリ本官ニ宛十八日附ヲ以テ冒頭ニ我公文全部ヲ記載シタル後査スルニ先般共匪長沙占領ノ際在留外人ノ受ケタル損害ニ付テハ本府ニ於テ之カ調査表ヲ作成シ長沙市公安局ヲシテ取調ノ上之ニ記入セシメ本府ヨリ外交部ニ轉送シタルカ時日忽卒ニテ在留外人ハ多ク長沙ニ居ラサリシニ依リ損害額ノ確數ハ知悉スル事能ハス尙補査ノ要アル處今般在留貴國商民ノ損害額表及明細書送付相成タルニ付該調査ヲ査スルニ内容妥當ナルカ如キヲ以テ御送付越ノ一件書類ハ外交部ニ送付スル旨回答越ノ次第アリ

之ニ依リ我方損害額ハ省政府ニ於テ大體妥當ナルコトヲ認證セラレタル譯合ナリ

(四)右ノ結果何健<sup>(一)</sup>ハ外交部ニ對シ十八日附ヲ以テ前顯公安局ノ調査表ハ九月十六日ヲ以テ送付セルカ第二次ノ匪徒長沙近郊常德ニ據リ在留外人又復退去シ動産ノ確實ナル損害額調査ノ由無キハ既ニ前信ニ於テ聲明ノ通ナル處日本

領事ヨリ同國在留官民ノ損害額ヲ直接間接ニ分チ記載送付越アリ且右ハ審査委員會ヲ設ケ民會議員ヲ指名シ一切審査シタルモノナルニ參考迄損害額調査表明細書等一件書類送付ストノ公文ヲ發送セリ(右公文楊カ秘ニ内示シタルニ依リ之ヲ寫取レリ)

(五)支那側ニ送付セル我方ノ直接損害額總計(當館ノ分ヲ除ク)金三萬七千九百九十二圓八十六錢銀十八萬八千二百四十元七十六仙ニシテ(當館及海軍集會所ノ分ハ勿論當館ニ申告ノ儘ニシテ何等割増セス)當館ニ申告ノ直接損害額總計(當館ノ分ヲ除ク)ハ金三萬一千八百八圓五十錢銀十六萬七百七十九元七十五仙トナル處該金額ハ館員立會民會側ノ審査ヲ經タルモノナルカ更ニ當館ニ於テ嚴重査定セハ尙一割位ヲ減スル見込ニシテ目下折角之力審査整理中ニ有之近ク關係書類全部郵送スヘシ尙間接損害額ヲ申告セシメタルハ支那側ヲシテ我方ノ損害ノ甚大ナル事ヲ諒得セシメ以テ本件交渉ヲ有利ニ導カムトノ趣旨ニ外ナラス從テ間接損害額ハ申告ノ儘ニシテ初メヨリ一切審査ヲ行ハサリシモノニ付御含ミヲ請フ  
上海、北平、南京へ轉電アリタシ

外國領事館及在留外人ノ生命財産ノ被害狀況取調ノ上回電アリ度キ旨電報アリ

(二)右ニ對シ代理主席曹伯聞ハ王外交部長宛八月廿一日附ヲ以テ長沙陷落ニ依リ日本領事館ハ燒拂ハレ在留日本人ノ掠奪セラレタルモノ二十數件ニ及ヒ既ニ職員ヲ派シ日本領事館側ト立會ヒ其ノ概況ヲ檢分セシメ檢分書ヲ作成セシメタルリ云々

(以下ハ歐米人側ノ被害狀況ニ付省略ス)ト回電シ實地檢分調書ヲ充分確認シ居レリ

(三)更ニ何健<sup>(健)</sup>ヨリ九月十六日附ヲ以テ外交部宛其ノ後調査表ノ様式ヲ作成シ長沙市公安局ヲシテ夫々詳細調査セシメタルニ今般該局ヨリ同表ニ記入送付シ來レルニ付同寫ヲ周視察員ニ交送スルト共ニ茲ニ送付スルニ付査閱アリ度ク抑々該調査表ニ對シ聲明スヘキハ調査開始ノ際適々共匪ノ第二次長沙近郊進攻ニ依リ長沙ニ歸來セル各外人ハ又々退去シタル爲商品及其ノ他動産ノ損害確數ハ查明ノ由ナキニ至リ又調査ノ範圍ハ僅ニ市内ニ限ラレ對岸ノ水陸洲ニ尙數ヶ所ノ日本人商店住宅ノアルヲ記入漏レセシコトナリ右ハ再ヒ補査ノ上報告スヘシ云々ト報告シ

740 昭和5年9月24日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)  
長沙在留外人の損害額調査に関する何鍵の外  
交部宛公文並び省政府・外交部間往復關係文  
書の大意につき長沙領事報告

漢口 9月24日前発  
本省 9月24日後着

第四六二號

長沙發本官宛電報

第一五〇號

大臣へ轉電アリ度シ

第九一號

外人ノ損害額調査ニ關スル何健<sup>(健)</sup>ヨリ外交部宛公文ハ往電第九〇號所報ノ楊宣誠ノ内示ニ依リ寫シ取りタル外更ニ廿二日金壯春ヨリ密ニ本件ニ關スル省政府及外交部間ノ往復電及公文ノ内示ヲ受ケ寫シ取りタルニ付近ク關係文書ト共ニ全文郵送スヘキモ茲ニ大要電報ス

(一)外交部ヨリ何健<sup>(健)</sup>ニ對シ八月七日附ヲ以テ今次ノ事變ニ依リ在留外人ノ被害甚大ナル旨報道セラレ居ルニ付テハ至急

(四)同公文ニ往電第九〇號所報周澤春ノ携行セルト同一ノ公安局調査表ヲ添付送付セルカ同調査表内ニハ省政府秘書處註トシテ日本領事來處面談ニ依レハ領事館ノ損害ハ私有品ヲ除キ約二萬元内外ナル趣ト記入シアリ  
上海、北平、南京ニ轉電アリ度シ

741 昭和5年9月25日 幣原外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

長沙事件損害額の算定方につき注意について

本省 9月25日後6時40分発

第九七號

長沙へ轉電アリタシ

第一七號

貴電第八六号ニ関シ

(一)領事館損害額ハ帳簿ニ登記シアル物品ニ限り要求シ新品ニ付テハ購入額ヲ計上スヘキモ古品ニ付テハ其使ヒ古シノ程度ニ依リ購入價格ノ二割乃至五割方減額計上スルコト然ルヘシ

(二)貴電(三)ハ貴見ノ通取計ハレ度

(三)個人損害ハ貴見ノ通但其率ハ必スシモ前記(一)ニ據ルヲ要セサルモ個人損害ノ申告額ハ過大ニ失シ易キニ付往電第八号ノ趣旨ニ依リ貴官ニ於テ嚴密査定ヲ加ヘラレタル上交渉前一應電報アリタシ  
上海、南京へ轉電セリ

742 昭和5年9月30日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

何鍵が長沙事件に関し正式に遺憾の意表示のため来館したとの長沙領事報告

漢口 9月30日前発  
本省 10月1日前着

第四六九號

長沙發本官宛電報第一五四號

外務大臣へ轉電アリタシ

第九四號

往電第八二號ノ(三)ニ關シ

何健(漢名) (正服用) ハ二十九日正式ニ本官ヲ當館ニ來訪シ今次ノ共匪事件ニ依リ日本領事館力焼拂ハレタルヲ初メ在留

ノ間ニ多少意見ノ扞格ナキニアラサルヤニ聞及フ事情モアリ旁此ノ際御申出ナキ限り本省ニ於テモ當方面減水期間ノ警備ニ一層遺漏ナキヲ期セシムル爲中央海軍側ニ對シ至急何分ノ御申入置ヲ得ハ誠ニ好都合ノ儀ト存ス  
上海、宜昌ニ轉電セリ

744 昭和5年10月14日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

米内司令官が長江上流航路保護のため警戒隊派遣方発令の趣についての宜昌領事宛通知

漢口 發  
本省 10月14日前着

第四八八號

本官發宜昌宛電報第八九號

本官發外務大臣宛電報第四七九號ノ件ニ關シ一遣司令官ハ十月十日附ヲ以テ軍艦平戸ニ對シ本月十五日以後航路保護ノ爲宜昌重慶間ニ一隊漢口宜昌間ニ三隊以内ノ警戒隊派遣方發令セル趣當地海軍側ヨリ通知アリタリ  
大臣、上海へ轉電セリ

貴國人ノ被害甚大ナルハ痛心ニ堪ヘサル處ニシテ早速御見舞ニ參上スヘキ筈ノ處軍事多忙ノ爲今日迄延引ノ段誠ニ申譯無シトテ深く遺憾ノ意ヲ表セリ  
上海、支、南京ニ轉電セリ

743 昭和5年10月6日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

長江上流方面の警備に関し意見上申

漢口 發  
本省 10月6日後着

第四七九號

宜昌發本官宛電報第二五號(本官發大臣宛第四五八號)ニ關シ

軍艦護送ノ問題ハ單ニ軍艦隻數ノ一點ヨリスルモ暫ク實行困難ナルヘキ處現在ノ上流定期船同様に航行汽船ニモ海軍兵力ヲ乗組マシムルコトハ恐ラク之ヲ必要トスルニ至ルヘシト思料セラルルニ依リ艦隊司令部ニテハ右必要ノ場合ニ應シ得ル様目下折角手配中ノ趣ナルモ元來警戒隊ノ問題ニ對シテハ御承知ノ通豫テ出先海軍ト海軍省並ニ軍司令部ト

745 昭和5年10月17日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

英国總領事に対し冬季残留方確かめたところ領事館も引揚げざる旨答へた趣との長沙領事報告

上海 發  
本省 10月17日前着

第五五七號

長沙發閣下宛電報第九六號ニ關シ

十六日ノ「デーリー、ニュース」ハ本年冬モ英國砲艦一隻長沙殘留ニ決定セル旨報セルニ付館員ヨリ英國總領事ニ確カメタル處此ノ前ノ英國公使南下ノ際當地英國商民ヨリ軍艦引揚反對ノ陳情アリタルノミナラス其ノ後長沙附近ノ事態モ改善(マシタ)レタルカ爲殘留ニ決定セルモノニシテ領事館モ引揚ケサルヘキ旨答ヘタル趣ナリ  
漢口ヨリ長沙へ轉電アリタシ  
北平、南京、漢口、長沙ニ轉電セリ

746 昭和5年10月17日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海より分遣の陸戦隊が漢口引揚げ決定について

漢口 本省 10月17日後着

第四九三號

曩ニ上海ヨリ臨時分遣セラレシ陸戦隊明十八日早朝當地發  
ノ驅逐艦浦風ニテ全部歸還ノ事ニ決定セルカ右引揚ケニ付  
テモ大体來着ノ際ト同様ノ注意ヲ加ヘ成ルヘク外部ノ目ヲ  
惹カサル様行動セシムル手筈ナリ爲念  
上海、北平、南京ニ轉電セリ

747 昭和5年10月(21)日

在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口引揚げの陸戦隊全員が浦風で帰還について

上海 本省 10月21日後着

第五七九號

漢口發閣下宛電報第四九三號ニ關シ  
陸戦隊全員浦風ニテ廿一日當地ニ歸還セリ  
北平、南京、漢口へ轉電セリ

748 昭和5年10月22日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

華南一帯における共産党活動状況に関する桑  
島參事官調査報告電報

上海 10月22日後着  
本省 10月22日後着

公第一〇一七號

桑島參事官ヨリ左ノ通

廿一日南支那ノ視察ヲ終ヘ當地ニ歸還シタルカ今回ノ調査  
ニ依リ得タル視察大要左ノ如シ

一、南支那ノ共産運動ハ曩ニ上海發大臣宛電報公第九二二  
號ヲ以テ申進シタル長江一帯ノ共産運動ト大體其ノ勢  
力ヲ同ウシ居ル處唯紅軍ノ活動ハ之ヲ長江方面ニ比シ  
遙ニ消極的ニシテ從テ南支一帯ハ目下比較的小康ヲ保  
チ居レルカ如シ由來福建廣東兩省ハ軍紀ノ嚴重ト其ノ  
標悍トヲ以テ紅軍中第一ト稱セラレ朱毛軍(紅軍第四  
軍)ノ行動區域ニ屬シ一九二七年以來屢々其ノ攻略ヲ  
受ケ來リタル處ナルカ最近同軍ハ湖南ノ攻略ニ全力ヲ  
傾注シツツアル彭德懷及黃公略兩軍援助ノ爲同地方ニ

六 中国政情關係

二、次ニ「ソビエツト」區域ヲ見ルニ福建、廣東、廣西三  
省内ニハ「ソビエツト」區域ナルモノ多數存在シ居ル

出向キ居ル爲南支ハ目下其ノ慘禍ヨリ免レ居レリ尤モ  
福建省西北地方ニハ鄧子恢(紅軍第十二軍)廣東省東  
北地方ニハ李梅(紅軍第十一軍)各蟠踞シ居  
レルモ兩軍共其ノ活動極メテ微温的ニシテ左シテ恐  
ルニ足ラス即チ鄧子恢軍ハ因循姑息ノ通性アリト稱セ  
ラルル福建人ヲ其ノ主タル構成分子トナシ居ル關係モ  
アリ

旁其ノ態度甚シク保守的ニシテ專ラ其ノ勢力下ニアル  
「ソビエツト」區域ノ保全ニ主力ヲ注キ敢テ各地ニ遊  
撃ヲ試ミス又李梅(紅軍)軍ハ其ノ行動區域タル廣東省  
ニ於テハ一九二七年十二月ノ廣東暴動事件ノ失敗以來  
共産黨員ノ意氣頓ニ沮喪シ居ル等ノ事情ヨリシテ是亦  
東江地方ノ山地ニ踞躋シテ中原ニ進出スルノ氣力無ク  
加フルニ鄧子恢、李梅(紅軍)兩軍共匪ノ成立後日猶淺  
ク爲ニ軍内部ノ統制未タ全カラサルモノノ如ク是等ノ  
事情ヨリシテ南支一帯ハ一部土匪ノ出沒ヲ除キ所謂紅  
軍ノ活動ハ目下休止状態ニアルカ如シ

三、次ニ紅軍ノ將來如何ヲ考フルニ抑々支那ニ於ケル共産  
運動ハ(イ)國民中無産者ノ數餘リニ大ナルコト(ロ)然モ封  
建制度ノ餘弊ヲ受ケテ無産者ト「ブルジョア」トノ  
政治的及社會的地位ノ懸隔餘リニ大ナルコト(ハ)國民ハ  
多年ニ巨ル軍閥鬭争ノ慘害ニ苦シミ之ヲ免ルル爲ニハ  
敢テ手段ヲ選ハサルコト(共産黨ハ常ニ軍閥打倒ヲ標  
榜ス)(ニ)農村ニ於ケル地主ト小作人トノ抗争ハ近年益々  
深刻トナリツツアルコト等要スルニ支那特有ノ社會的  
經濟的政治的各般ノ原因ヲ基礎トシテ發生シタルモノ  
ニシテ單ナル武力ニ依リテ一朝一夕ニ之ヲ絶滅セシム  
ルコトハ不可能ナルヤニ思料セララルル處ナルカ唯紅軍  
ノ活動力急速ニ今日ノ如ク進展シタルハ主トシテ南北

抗争ニ依リ中央政府ノ武備手薄トナリタル結果ト見ルヲ得ヘク從テ南北ノ和平實現シ中央政府ニシテ強力ナル軍隊ヲ紅軍討伐ニ差向クルニ至ラハ紅軍今日ノ勢力ハ相當之ヲ滅殺スルヲ得ヘシト思考ス

昭和5年10月25日 幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

長沙事件損害賠償交渉に際し進行上の方針訓令

本省 10月25日後9時30分発

公第四〇三號

貴官發長沙宛電報公第四号ニ関シ

要償額計上ノ根據タル證據材料ノ取揃ヘハ事件ノ直後忽卒ノ際ノコトニモアリ完全ヲ期シ得サリシ事情無シトセサルヤニモ思ハルルニ付右貴電ニ對シ長沙領事ヨリ回報アリタル上ハ大体之ニ基キ速カニ交渉ヲ開始セラルル様御配慮アリ度ク尚交渉進行上次ノ方針ニ則リ適宜措置セラレ度シ  
一、長沙領事ヨリ支那側ヘ提出ノ額ニハ間接損害モ含まレ居ルノミナラス直接損害ニ付テモ長沙發本大臣宛電報第九〇号ノ二ノ通交渉ノ懸引上申告額以上ニ計上シ居リ領

漢口 10月26日後発  
本省 10月28日前着

第五〇四號(極秘)

長沙發本官宛電報第一六〇號ノ一

上海ヘ轉電アリタシ

公第三號ノ一(極秘)

貴電公第二號ニ關シ

一、當初本官ハ被害者ニ對シ不取敢大體ノ損害見積額ヲ報告セシメタルモ孰レモ尠大ナル額ヲ申告シ全ク信憑シ得ヘカラサルニ依リ深く其ノ非ヲ戒メ改メテ明細書ヲ作成セシメタル次第ナルカ一面省政府側ニテハ公安局ヲシテ外人ノ損害額ヲ調査セシムルコトトナリ警察署長ヨリ巡警ヲ邦人各戸ニ派シ該調査表ニ記入方ヲ求め來レルヲ以テ支那側ノ曖昧不當ノ調査ニ終リ又被害者モ法外ナル損害額ヲ記入シ交渉ノ際甚タ不利トナル虞アリタルニ依リ右明細書ニ付民會議員ヲ指名シテ審査委員會ヲ組織セシメ館員ヲ立會ハシメテ審査ノ上再三訂正セシメタルモノヲ當館ニ申告セシメタルカ被害者等ハ支那側ヘ當館申告ノ調査其ノ儘提出スルコトヲ不

事査定額トノ間ニハ相當ノ開キモアリ多少ノ無理アル様認メラルルモ既ニ支那側ニ提出済ニテ今更之ニ變更ヲ加フルモ面白カラサルニ付兎ニ角右ニテ一應切出サレ金額ノ点ニ付異論アリ解決遷引スル虞アル場合ニハ間接損害ハ除外シ直接損害ニ付テモ領事査定額ヲ最低減度トシテ讓歩セラレ差支ナシ

二、間接損害中ニハ冒頭貴電(四)ニ該當スルモノ例ヘハ(一)小嶺洋行、紅軍徵發家賃(二)廣貫堂、軍費附加税(三)中島洋行、紅軍軍用金、沒收家財、紅軍ニ支給セル酒代(四)柴田敬助、被掠奪物品等ハ直接損害トシテ要求シ得ヘキモノト認メラルルヲ以テ前項間接損害除外ノ場合ニハ要求額中ニ留保スルコトト致度シ

南京ヘ轉電アリタシ  
漢口、長沙、北平ヘ轉電セリ

750 昭和5年10月26日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

我方の損害額算定方事情等に関する長沙領事電報を重光代理公使宛電電について

安トシ居ルノミナラス多少加算セシメ居レハ當館ヘノ申告ニ公正ヲ缺ク虞アリ本官モ當初省政府側ニテ本官ト共ニ内々審査ヲ行フコトヲ承諾シ其ノ後見舞金ヲ以テ協議シタシトノ意向ナリシニ依リ懸引ノ便宜上多少ノ加算ニ同意シタルモノニテ加算率ニ關シテハ一律ニ一割五分ト定メタル次第ニ無之又何等ノ根據アルニアラス

二、被害者ヨリ提出ノ申告書ハ支那側ト當館宛ト通數同一ナラサリシモ急速ニ支那側ニ通知スル要アリトシ強テ之ニ合致セシムル必要ヲ認メサリシニ依リ其ノ儘受理シタル次第ナリ

外務大臣、上海、南京ヘ轉電アリタシ  
長沙發本官宛電報第一六〇號ノ二  
上海ヘ轉電アリタシ  
公第三號ノ二

三、當地ハ在留邦人少數ナルニ加ヘ昭和三年金融組合ノ設立ト共ニ邦人ノ殆ト全部ハ之ニ加入シ資産營業狀況モ稍判明シ居ルト前記審査委員會ニ館員ヲ立會ハシメタルヲ以テ當時ノ審査振り等ニ依リ査定上便宜ヲ得ル處

アリ當館ノ査定ハ主トシテ見聞調査ヲ基礎トシ此等ノ材料ヲ參酌シテ行ヒタルモノナル處家屋ハ大抵借家ニシテ所有セルモノモ保險ヲ付シ居ラサルニ付邦人大工ヲシテ修繕費ヲ見積ラシメタルモノヲ基礎トシ商品ニ付テハ大概仕入臺帳ノミヲ有シ賣上ケ商品ヲ記入セス年ニ一回位店卸シ行ヒ清算スル様ノ狀況ニ付一應帳簿類ヲ提出セシメタルモ損害確數ヲ知ルニ由ナク大石洋行ノ如キ金融組合ノ管理經營トナリ居ルモノハ組合ニ於テ同洋行ノ仕切上ケ及賣上ケ傳票ニ依リ現在高ヲ證明シ得ルモ避難ノ際傳票ヲ掠奪セラレ之レ亦的確ナル證據ナク家財ニ付テハ日清、三井、嘉泰、金融組合、小學校、居留民會等殆ト何レモ備品臺帳アルモ其ノ他ハ有形ノ證據書類ヲ有スルモノ皆無ニシテ見聞調査本人ノ資産生活狀態性格當時ノ言動避難狀況等ヲ參酌シテ之カ査定ヲ行ヒタルモノナリ

尙御來示ニ依リ資料トシテ在留邦人實業調、資産俸給額、金融組合貸付表、工事見積書、民會資金表、生活狀況等一括郵送ス

外務大臣、上海、南京へ轉電アリタシ

金ヲ以テ解決シタキ意向ナレハ再調査ヲ命シ來ルコトナカルヘク我方ノ調査ニシテ妥當ナリト認メラルルニ於テハ之ヲ外交部ニ報告スル外方法ナシト内話ノ次第モアリ楊力漢口ニ赴カサル裡(楊ハ九月廿一日漢口ニ赴ケリ)且周澤春カ外交部ニ歸任シテ何等不當ノ報告ヲ爲ササル以前ニ於テ急速ニ交渉スルヲ得策ト思料シ

長沙發本官宛電報第一六〇號ノ四

上海へ轉電アリタシ

公第三四六號ノ四

公文交換ノ形式ヲ以テ我方調査ノ大体妥當ナルコトヲ認證セシメタル次第ナルカ(大臣宛拙電第九〇號)若シ尙共同調査乃至審査等ニ依リ支那側ノ認證ヲ取付クルノ要アルニ於テハ省政府ニテハ之ニ應セサルニ付外交部ヨリ特ニ省政府ニ對シ當地我方ノ事情ニ精通セルモノヲ任命スルコトニ訓令ヲ發セシムル様御配慮相煩シ度シ

卑見ニ依レハ共同調査ヲ行フトスルモ損害額ヲ有形的證明物件ニ依リ查出スルコトハ前記三ノ通殆ソト不能ニ屬シ現ニ館員ニアリテモ一人トシテ家財ノ保險ニ

長沙發本官宛電報第一六〇號ノ三  
上海へ轉電アリタシ  
公第三號ノ三

四、共匪軍ニ提供シタル金錢ハ主トシテ家賃及留守支那人店員カ共匪軍ニ與ヘタル酒代ニシテ家賃ハ街團(町内會)ニ於テ之ヲ立替ヘ何レモ事件後邦人ヨリ支拂ヒ街團ノ領收書ヲ有スル處右ハ放火ヲ免カレンカ爲ニ提供シタルモノナレハ家主ノ負擔ニ歸スヘキモノトシテ既ニ右領收書ヲ以テ家賃ト差引ケルモノアリ大抵家主ニ轉嫁シ得ル見込アル趣ニ付直接損害ニ計上セス酒代ニ付テハ領收書ナシ

我方損害額ニ付支那側責任者ト共同調査ヲ爲シ我方實地調査ニ立會ハンシメ其ノ認證ヲ取付ケンカ爲楊宣誠及周澤春等ト種々折衝ヲ重ネタルモ楊ハ外交部ヨリ指令ナキ限り共同調査ヲ爲スコト困難ナリトテ之ニ應セス周澤春ニ至リテハ全然誠意ヲ有セサリシ次第ハ大臣宛拙電第八二號及第八八號ニ依リ御承知ノ通ナルカ楊ハ支那側トシテハ此ノ種外人側ノ確ナル損害額ヲ查出スルコトハ到底困難ナル問題ニシテ中央ニ於テハ見舞

加入シ又ハ物品臺帳ヲ有スルモノ無之證據物件ニ依リテ論議シ居リテハ容易ニ纏ラス英國領事ノ如キ本官ニ對シ外支人共同様ノ救濟ヲ受クヘキモノナリトテ殆ソト支那側ノ賠償ヲ期待シ居ラサルニ我在留民ハ資力少ナク打續ク排日ト動亂ニ依リ疲弊其ノ極ニ達シ一日モ速ニ解決ヲ渴望シ居ル現狀ニ有之一方支那側ノ事情モ亦諒トスヘキモノナキニアラス就テハ多少内輪ニテモ相當ノ額ナレハ支那側ノ面目ヲモ考慮シテ成ルヘク速ニ解決セシメ將來ノ保障トシテ共匪軍ノ徹底的討伐ヲ勵行セシムル様仕向クルコト然ルヘキカト存セララル

大臣、北平、南京ニ轉電アリタシ

編注 「二」の個所に「五」との訂正書き込みあり。

751

昭和5年11月15日

桑島(主計)大使館參事官  
好富(正臣)公使館三等書記官  
幣原外務大臣宛

華中華南地方における共產党および共産軍の行動狀況調査に関する復命書提出について  
昭和五年十一月十五日

753

昭和5年11月26日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

北平、南京、漢口、長沙へ轉電セリ

二、右ニ關シテハ曩ニ八月十六日附公文ヲ以テ本件通報方ニ關シ言及セル次第モアリ「先般長沙領事ニ於テ貴國地方官憲ト共ニ檢分ヲ行ヒ且ツ其ノ協力ノ下ニ各般ノ證據資料等ニ就キ右損害額ヲ嚴密調査ヲ爲シタル結果直接損害額及間接損害額幾許ト相成タルニ付テハ右通報ス就テハ右賠償相成度」トノ趣旨ノ公文ヲ交附スルト共ニ證據資料トシテ(一)長沙領事發閣下宛機密公領第一五八號添附ノ實地檢分書寫(二)同第一七一號添附ノ損害額調(領事館ノ分ヲ記入シ領事館へ申告ノ分及領事館査定ノ分ノ記載ヲ削リタルモノニ改作)並(三)同號添附ノ領事館員及民間側損害明細書及(四)同第一八四號添附ノ領事館自身ノ損害明細書ノ寫(三)及(四)ヲ一括シテ一冊ニ改メ内容ニ變更ヲ加ヘス體裁ヲ多少整調ス)ノニ添附スルコトトシタキ所存ナリ右ノ通取計ヒ差支ナキヤ爲念御回示相成度シ

大使館參事官 桑島主計  
公使館三等書記官 好富正臣  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
中南支地方共產黨及共產匪行動狀況調査方ニ關スル復命書提出ノ件

本官等曩ニ命ヲ受ケ中南支各地ニ於ケル共產黨及共產匪ノ行動狀況調査ノ爲同地方ニ出張中ナリシ處今般豫定ノ視察調査ヲ終ヘ歸朝シタルニ付テハ右復命書不取敢左ノ通り及提出ニ付御査閱相成度シ尙今回調査ノ詳細ナル點ニ關シテハ目下折角是カ調査作成中ナルニ付近ク完成ノ上提出貴覽ニ供スルコトト致度シ

編注 「中南支地方共產黨及共產匪行動狀況調査方ニ關スル復命書」(附錄甲號)「中南支地方共產黨及共產匪行動狀況調査日記」「支那共產運動調査報告要目」(を含む)省略

752

昭和5年11月20日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

長沙領事送付の調査書中損害額の誤記、計算上の誤り等訂正の上中国側に通告する趣について

上海 11月20日後発  
本省 11月20日後着

公第一一〇五號  
貴電公第四〇三號ニ關シ

一、御訓電ノ趣旨ニ依リ先方ニ我方損害額ヲ通告スヘク之ニ添附スヘキ參考資料整備ノ目的ヲ以テ長沙ヨリ當方ニ送附アリタル損害明細書ノ寫作成中序ヲ以テ損害明細書ノ記載及計算ノ正否等ヲ審査シタル處數字ノ誤記又ハ計算上ノ誤リト認メラルヘキモノ二三アリ其ノ結果直接損害額ニ於テ金二百三十三圓三十錢銀百九十一弗多ク間接損害額ニ於テ銀一千八百六十二弗七十三仙少ナク計算サレ居ルコト發見セラレタリ(委細公信)依テ再應審査ノ上誤ナキコト明カトナリタル上ハ右訂正金額即チ直接損害額合計金三萬八千六百八十一圓六十一錢銀十九萬七千四百十六元八十二仙間接損害額金千六百七十五圓銀六萬二千四百八十五元二十仙ヲ中國側ニ通告スルコトト致シタシ

間接損害の過少見積額訂正の上中国側へ通告について

上海 11月26日後発  
本省 11月26日後着

公第一一三三號  
往電公第一一〇五號ニ關シ

尙調査ノ結果間接損害過少見積り額銀一千八百六十二弗七十三仙トセルハ銀百八十七弗七十三仙正當ニ付間接損害額ヲ六萬八百十弗二十仙トシテ中國政府へ通告セリ  
漢口ヨリ長沙へ轉電ヲ請フ  
北平、南京、漢口、長沙へ轉電セリ

754

昭和5年12月5日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長が長沙事件の如きレベリオンにより被った損害は国際法上政府に賠償の義務なしと主張について

付記一 昭和八年二月一日付在長沙槽谷領事より内  
田外務大臣宛機密第二九号公信

長沙事件被害者より損害救済方歎願について

二 昭和九年十一月二十日高木(三玉)長沙居留  
民會會長より桑島東亜局長宛書翰

長沙事件被害に關する高配に対し謝意表示  
について

上海 12月5日後發  
本省 12月5日後發

公第一一六八號

四日米國公使ヨリ長沙事件ニ付テハ日本側ハ賠償要求ヲ提出セラレタリヤト尋ネタルニ付本官ハ我方ノ執リタル措置ヲ然ルヘク説明シタル處同公使ハ米國側ハ未タ賠償要求ヲ出シ居ラサルカ過日外交部長ハ長沙事件ノ如キ「レベリオン」ニ依リテ被ラサレタル損害ハ國際法上政府ニ賠償ノ義務ナシト主張シ居タルヲ以テ自分ハ當地中國側地方官憲ノ執リタル處置ノ妥當ナラサリシコトヲ指摘シ置キタリト述ヘタリ御參考迄

北平、奉天、漢口、長沙へ轉電シ南京、上海へ暗送セリ

其ノ他内容ニ關シテハ報道簡ニシテ之ヲ審ニセサルモ萬一滿洲上海兩事件ノ直接被害者ノミニ限ラレ滿洲事件發生ヨリ僅々一ヶ年前現地保護ノ不可能ナル當地ニ於テ勃發シタル共匪事件ノ直接損害ハ該救恤法案ノ適用ニ漏ルルカ如キコトアリテハ頗ル遺憾トスル處ナルニ付テハ同事件ノ被害者ヲモ之ニ均霑セシメラルル様豫メ御詮議相煩シ度此段申進ス

(付記一)

昭和九年十一月二十日

長沙居留民會々々長 高木 三玉〔印〕

外務省

東亜局々々長 桑島 主計殿

長沙共匪事件被害ニ對スル御高配ニ對シ御禮ノ件  
謹啓時下愈御清穆ニ被為涉候段為邦家奉慶賀候

陳者當地居留民ハ昭和五年七月共匪事件ノ為致命的被害ヲ蒙リ引續キ滿洲事件ニ因ル排日運動ノ為筆紙ニ盡シ難キ深刻ナル打撃ヲ受ケ最近迄僅少ナル手持商品ニヨリ辛フシテ口ヲ糊シ來レル實情ニ有之此ノ悲惨ナル實情ニ就テ八十數

(付記一)

機密第二九號

(2月14日接受)

昭和八年二月一日

在長沙

領事 糟谷 廉二〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

長沙共匪事件被害者ヨリ損害救済方歎願ノ件

最近我政府ハ閣議ニ於テ支那ニ於ケル動亂及騷擾ニ因ル損害ニ對スル救恤法案ヲ議會ニ提出スルコトニ決定セラレタリトノ消息新聞及通信ニヨリ傳ヘラレ昭和五年七月發生ノ當地空前ノ慘事タル共匪事件ノ被害在留邦人ニ甚大ノ衝動ト歡喜トヲ與ヘ今般別紙ノ通款願書ヲ提出シ同事件ノ損害ヲ該救恤法案ニヨリ救済方申請ノ次第アリ現在當地在留邦人疲弊ハ素ヨリ種々ナル原因ニ基クモ其ノ重因ハ打撃ク當地方ノ排日動亂ノ影響深刻ナルニ在リ就中長沙共匪事件ハ致命的創痍ヲ被ラシメタルモノニシテ現下ノ時局ニ顧ミ同事件ノ損害要償問題ハ何時解決スヘキヤ殆ント絶望ト見做サレ居ル一方排日運動ハ膠着持久化シ在留邦人困窮ノ度ヲ加フルニ連レ益悲觀セシメ居ル狀態ナリ右救恤法案ノ範圍

回ニ亘リ上京陳情シ若ハ歎願書ヲ提出スル等ノコトアリ其ノ都度公務御繁多中ニモ拘ラス多大ノ御同情ヲ以テ御清覽ヲ煩ハシ候段誠ニ恐縮ノ至ニ不堪御高情ニ對シ厚ク御禮申上候

然ル所夙聞致シ候ニ據レハ貴省ニ於カレテハ今回當地共匪事件損害賠償方ニ就テ南京政府當局ニ交渉開始ノ御手配被成下候趣ナルノミナラス新聞紙上ニモ外務省豫算復活要求額中支那關係要償案件救恤費金壹百五十万円計上セラレアルヲ拝承シ右ハ貴官御盡力ノ結果ニ外ナラスト信シ當地居留民一同深く感激罷在候

御承知ノ通り當地居留民ハ今ヤ只管共匪事件被害問題ノ解決ニ唯一ノ光明ヲ見出シツツ正ニ生死ノ岐路ニ彷徨シ在リト云フモ決シテ過言ニ非サル實ニ逼迫シタル窮狀ニ陥リ居リ右御交渉ノ成否ハ今次復活御要求ノ豫算ノ成否ト相俟テ當地居留民一同ノ死活ニ関スル重大関心事ニ有之候ハ勿論現在破産情態ニ瀕セル復活資金カ我等ノ慮フルカ如ク煙トナリ累ヲ復興資金ニ及ホシ遂ニハ政府ニ對シ莫大ノ御損失ヲ掛クルニ至ルヘキヤ將又復活資金ノ基礎安定シ復興資金ト相俟テ當地邦人ノ業務恢復ニ充分ノ機能ヲ發揮シ政府ノ

御期待ニ副ヒ得ヘキヤモ亦一ニ懸リテ右御交渉並ニ豫算ノ成否ニ存スル次第ニ有之候尚又右御交渉萬一妥結ヲ見サルニ於テハ結局豫算ノ審議ニ就テモ大藏當局ニ難色アルニ非スヤト一同一喜一憂致シ居リ候  
就テハ現下國際情勢混沌タル折柄政務御多端ノコトトハ存候ヘ共満三歳ニ互ル當地排日運動昨今漸ク緩和ノ兆現レタルモ最近又モヤ提唱國貨救國會ノ組織セラルルアリ國貨提唱ノ名ヲ藉リテ日貨排斥ヲ續行セントスルカ如キ決議新聞

紙上ニ傳ヘラレ前途尚樂觀シ得サル今日當地居留民トシテハ差當リノ喰ヒ繫キスラ容易ナラサル有様ニ有之候間當地特殊ノ事情御憫察ノ上尚此ノ上共成ル可ク早日ニ當面ノ難局ヲ救済セラルル様御盡力相賜リ度茲ニ居留民一同ヲ代表シ右御願勞貴局長段々ノ御高配ニ対シ深甚ノ謝意ヲ表示致シ候次第ニ有之候  
敬具

## 七 雜 件

### 1 治外法權問題

755 昭和5年1月(3)日 在中國堀(義貴)臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の治外法權撤廢命令に対する我が国  
方針確定方請訓

北平 発  
本省 1月3日前着

第一一號

今回國民政府ニ於テ發表シタル領事裁判權廢棄命令ニ關シテハ之カ對策ニ付政府ニ於テ折角御考慮中ノコトト思考セラルル處理論上斯ノ如キ一方的措置ノ國際的效力如何ノ問題ハ兎モ角トシ實際問題トシテ日本政府ノ態度ヲ此ノ際何等カノ形ニ於テ内外ニ向ヒ明ニナシ置クコト必要ナルヤニ思考セラル就テハ第一案トシテ往電第九號ノ如ク主要關係國ノ例ニ倣ヒ可然日支間ニ合意成立スルニ至ル迄ハ今回ノ

命令ハ日本國民ノ關スル限り適用ナキモノト認ムル旨文書ニ依ル留保ヲ支那側ニ申入ルコトトナスカ又ハ第二案トシテ今回ノ命令ハ理論上勿論日本側ヲ拘束スルモノニアラストノ解釋ヲ採リ其ノ旨ヲ發表スルカ又ハ其ノ趣旨ニ依リ全然今回ノ命令ヲ默殺スルノ態度ヲ御決定相成ルト共ニ今後支那各地ニ於テ起ルコトアルヘキ種々ノ問題ニ對シ之カ措置振ヲ在支各公館ニ御訓令相成度尙今後本問題ハ隨時外交團内ニ於テ論議セラルルコトト豫想セラルルニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請フ  
上海、南京、奉天ニ轉電セリ

756 昭和5年1月(4)日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

英国は治外法權問題を中心に対中国政策で指導的地位を確立せんと看取されるについて